

UJF-605C

UV INKJET PRINTER

UV インクジェットプリンタ

UJF-605C

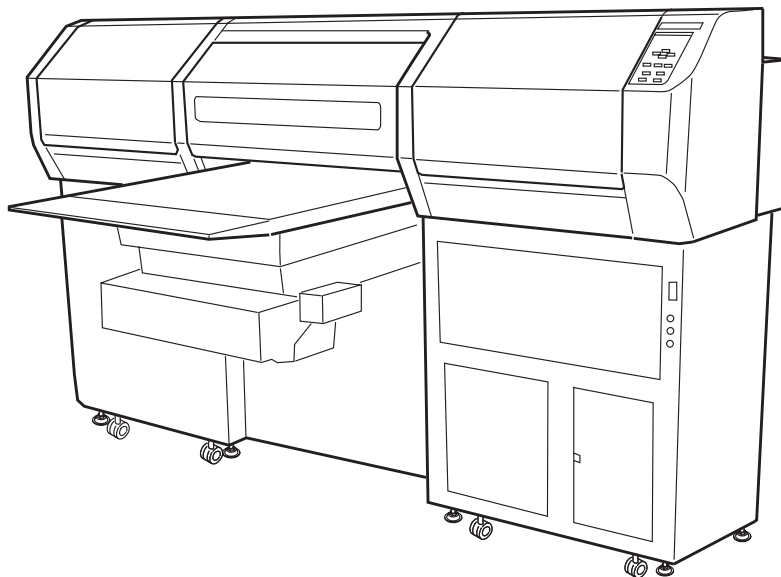
取扱説明書



★ 点灯中のUVランプから出る光を、絶対に直接肉眼で見ないでください。目の痛みや視力障害の原因になります。



★ 本装置には、レーザーセンサー（クラス2）が使用されています。絶対にレーザー光を直接のぞき込まないでください。目の痛みや視力障害の原因になります。



ご注意

株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。

また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。

一例として、本製品を使用したメディア等の損失や、作成された物によって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。

本装置を使用したことによる金銭上の損害および逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

おねがい

- この取扱説明書は、内容について十分注意しておりますが、万一ご不審な点などがありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- この取扱説明書は、改良のため予告なく変更する場合があります。

電波障害自主規制

受信障害について

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

テレビ／ラジオの受信障害について

本装置は、使用時に高周波が発生します。このため、本装置が不適切な条件下で設置または使用した場合、ラジオやテレビの受信障害が発生する可能性があります。したがって特殊なラジオ／テレビに対しては保証しておりません。

本装置がラジオ／テレビ受信の障害原因と認められましたら、本装置の電源を切り、ご確認ください。電源を切り受信障害が解消すれば、本製品が原因と考えられます。

次の手順のいずれか、またはいくつかを組み合わせるとお試してください。

- テレビやラジオのアンテナの向きを変え、受信障害の発生しない位置をさがしてください。
- 本装置から離れた場所に、テレビやラジオを設置してください。
- 本装置と別の電源供給路にあるコンセントに、テレビやラジオを接続してください。

はじめに

この度は、UV インクジェットプリンタ UJF-605C をご購入いただき、誠にありがとうございます。
どうぞ입니다。

「UV インクジェットプリンタ UJF-605C」は、新開発の紫外線硬化インク(UV インク)使用しております。

本書をよくお読みになり、お客様のニーズに合わせた作図にお役立てください。

取扱説明書について

- 本書は、「UV インクジェットプリンタ UJF-605C」（以後本装置と称します）の操作やメンテナンスなどの取り扱いについて説明いたします。
- 本書をお読みになり、十分理解してからお使いください。また、本書をいつも手元に置いてお使いください。
- 本書は、本装置をお使いになる担当者のお手元に確実に届くようお取りはからいください。
- 本書は、内容について十分注意して作成していますが、万一不審な点がありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- 本書は、改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください。
- 本書が焼失／破損などの理由により読めなくなった場合は、新しい取扱説明書を弊社営業所にてお買い求めください。

目次

電波障害自主規制	i
受信障害について	i
テレビ／ラジオの受信障害について	i
はじめに	ii
取扱説明書について	ii
本装置のご紹介	vii
安全にお使いいただくために	viii
マーク表示について	viii
絶対にしないでください	x
使用上のご注意	xiii
設置上のご注意	xv
本書の読み方	xvi
ディスプレイとキーの表記	xvi

1 章 作図の前に

本装置を設置する	1-2
設置場所について	1-2
本装置の移動	1-3
レベルフットについて	1-3
各部の名称とはたらきについて	1-4
装置前面	1-4
装置背面 右側	1-5
装置背面 左側	1-5
操作パネル	1-6
サブパネル	1-7
キャリッジ	1-8
キャッピングステーション	1-8
フラッシングトレイ	1-9
ケーブルを接続する	1-10
インターフェイスケーブルを接続する	1-10
電源ケーブル接続について	1-11
UV 装置と UV 照射器具について	1-12
UV 装置	1-12
UV 照射器具	1-12
UV 照射器具表示灯の働きについて	1-13
インクカートリッジを入れる	1-15
インクステーションとヘッドの関係	1-15
インクカートリッジ取り扱い上のご注意	1-16
白インク（ホワイト）の取り扱いについて	1-16

使用可能なメディアについて	1-17
メニューモードについて	1-18

2章 基本操作

作業の流れ	2-2
電源をオンにする	2-3
本装置の情報を表示する	2-4
カバーについて	2-5
インクの初期充填を行う	2-6
メディアをセットする	2-7
フロント遮光カーテンを取り付ける	2-7
[ヘッドギャップ] 値の入力	2-9
ヘッドギャップ調整のための [チェックハウハウ] の選択	2-10
ヘッドギャップをチェック [ギャップチェック]	2-13
作図原点を設定する	2-15
初期値	2-15
作図原点の設定	2-16
ノズル詰まりの確認 / 解消	2-19
正常なパターン	2-19
異常なパターン	2-20
データを作図する	2-21
作図を開始する	2-21
繰り返し作図する (コピー)	2-23
作図を中止する	2-24
複数の版を繰り返し作図する (複数版コピー)	2-24
コピー回数をクリアする	2-26
新しいインクに交換する	2-27
カートリッジ異常が発生したら	2-28
電源のオフ	2-29

3章 日常のお手入れ

日常のお手入れ	3-2
長期間使用しない場合は	3-2
お手入れ上のご注意	3-2
テーブル、外装のお手入れ	3-2
画質不良が解消されない場合は [ステーションメンテ]	3-3
フラッシングトレイのクリーニング	3-5

廃インクタンクのインクが溜まったら	3-7
温水装置の水を交換する[おんすいかわか]	3-8
白インク（ホワイト）の定期メンテナンス[ホワイトメンテナンス]	3-14
作図中のインク滴のボタ落ちを防ぐためには	3-16
ヘッドガードプレートのクリーニング	3-16
ノズル面のクリーニング	3-18
フィルタのお手入れ	3-20

4章 ファンクション機能について

ファンクションメニューについて	4-2
メニューの基本操作	4-3
複数の作図条件をまとめて登録する（タイプの選択）	4-4
各設定機能を登録する	4-5
トンボ検出の動作設定 [トンボセンサー]	4-8
トンボ検出の動作を設定する [トンボセット]	4-8
トンボセンサーの反応を確認する [トンボチェック]	4-12
UV 照射器具の消灯 [UV ショウトウ]	4-14
ディスプレイの表示言語を変更する [DISPLAY]	4-15

5章 メンテナンス機能

メンテナンスについて	5-2
メンテナンス機能の導入について	5-2
設定機能一覧	5-2
設定状態を作図する [リスト]	5-3
メディアの厚みが変わったら[トット仔ホロイ]	5-4
ステーション内部の清掃をする[キャリッジアウト]	5-6
ヘッドクリーニングでノズル詰まりが復旧しない場合[インクジェネレーション]	5-7
ノズル面にインク滴が付着するのを防ぐ [インクワイク]	5-8
インクセットを変更する [インクセット]	5-9
■ カラー色だけの 6 色インクセットに変更する	5-9
■ 特色インクを追加した 8 色インクセットに変更する	5-11
■ 7 色インクセットの 7 番目の白インクを特色に変更する	5-12
インクを交換する [インクかわか]	5-14
電源投入時の微量クリーニングを選択する[ヘッドメンテナンス]	5-16
UV ランプを交換する [UVランプ]	5-17
UV ランプの照射時間を確認する	5-17
UV ランプを交換する	5-17

UV ランプの照射時間をリセットする [タイマリセット]	5-18
UV ランプの消灯時間を設定する [シャットオフ]	5-19
UV 硬化が弱くなったときのチェック方法 [コウカチェック]	5-20
UV 照度の確認方法	5-23
特色インクのノズル詰まりを防止する [トクショククリア]	5-28
本装置の情報を表示する [マシンインフォ]	5-29
キャップゴムの種類を設定する [キャップゴム]	5-30

6章 困ったときは

故障?と思う前に	6-2
ディスプレイにエラーメッセージを表示しない	6-2
ディスプレイにメッセージを表示する	6-3
作図不良が発生したときは	6-4
スジ/カスレが発生する	6-4
作図中のメディア上に大きなインク滴が落ちる	6-4
作図中にメディアが浮き上がり、作図が中断する	6-4
メッセージを表示するトラブル	6-5
ワーニングメッセージ	6-5

付録

基本仕様	付録-2
インク仕様	付録-3
警告ラベルについて	付録-4
お問い合わせシート	付録-6
機能フローチャート	付録-7

索引

本装置のご紹介

本装置の持つ特長をご紹介します。本書で説明する操作方法と併せて、作図のご理解にお役立てください。

紫外線硬化インクを使用

新開発の紫外線硬化インクの使用により、メディアに直接プリントすることができます。

高速インターフェースを使用

高速インターフェース「IEEE1394」の使用により、コンピュータからのデータ受信を高速に行えます。

印刷後のインク硬化定着が可能

紫外線硬化装置（UV ランプ）を搭載しておりますので、印字後、インクの硬化定着が可能です。

ワイドな印字幅

600mm（スキャン）× 500mm（送り）の印字可能幅を備えています。

最大 50mm 厚のメディアに対応

本装置は、最大 50mm 厚のメディアに対応可能です。

バキュームテーブルを装備

メディア固定用の吸引ブローアテーブルを装備しています。

安全にお使いいただくために

マーク表示について

本書では、マーク表示により操作上の注意内容を説明しています。
各マークの意味を理解し、本装置を安全に正しくお使いください。

マーク表示の例 1

本書の説明文の中によく使用しているマークです。



警告

★「警告」マークは、表示の指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または傷害を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

★「注意」マークは、表示の指示を無視して誤った取り扱いをすると、物的損害の発生が想定される内容を示しています。



●「ヒント」マークは、知っておくと便利なことを記載しています。操作の参考にしてください。

マーク表示の例 2



△マークは、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。△中に具体的な注意事項（左図の場合は感電注意）を記載しています。



⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）を記載しています。



●記号は、行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は、「差し込みプラグをコンセントから抜いてください」）を記載しています。

警告

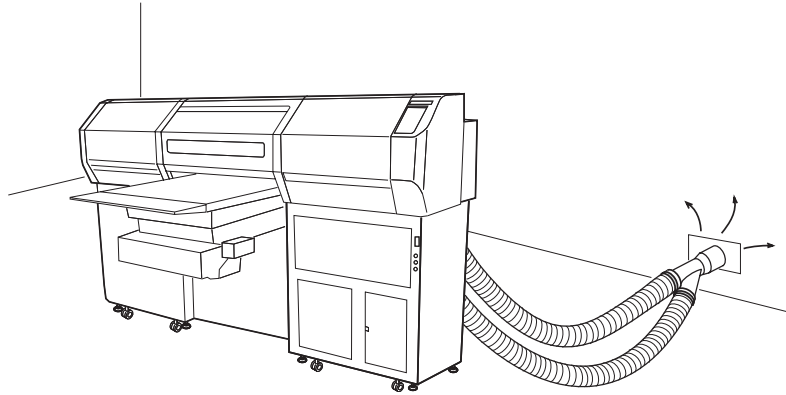


★ 換気の悪い部屋、または密閉された部屋で使用する場合は、必ず換気装置を設けてください。

● 排気口施工時について

本装置の故障を防ぐため、下記の注意を必ずお守りください。

1. 排気口の形状は、お客様の建物環境によりますが、開口部の面積はダクトの50%以上を確保してください。
2. 排気口に閉鎖弁等を設置する場合、本装置使用時は必ず閉鎖弁を開けてください。



★ 本装置で使用するインクは、危険物第4類第3石油類に該当します。よって、引火する可能性があるため本装置を使用する場所は、火気厳禁としてください。



★ インクステーションやヘッドをクリーニングする際は、必ず付属のゴーグルと手袋を着用してください。インク、メンテナンス用洗浄液が目に入る場合があります。



★ 誤ってインク、メンテナンス用洗浄液を飲み込んだ場合は、安静にして直ちに医師の診断を受けてください。嘔吐物は、飲み込ませないください。その後、毒物管理センターに連絡してください。



★ 蒸気を大量に吸い込んで気分が悪くなった場合は、直ちに空気の新鮮な場所に移り、暖かくして安静にしてください。また、直ちに医師の診察を受けてください。



★ 廃インクは、使用している地域の条例に従って処分してください。

絶対にしないでください

警告

分解・改造はしない



- ★ 本装置やインクカートリッジの分解・改造は、絶対に行わないでください。感電や故障の原因になります。

湿気の多い場所では使用しない



- ★ 湿気の多い場所での使用や、装置に水をかけないでください。火災や感電、故障の原因になります。

異常事態の発生



- ★ 万一、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常事態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。すぐに電源スイッチをオフにして、その後必ずプラグをソケットから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認してから、販売店または弊社営業所に修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。

電源ケーブルの取り扱い



- ★ 電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工しないでください。また、重い物をのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源ケーブルが破損し、火災・感電の原因になります。



インクカートリッジの取り扱い



- ★ 一部成分において（光重合開始剤）、水性生物に対する毒性があります。自然水系、生活排水への漏洩流出を防いでください。



- ★ インクカートリッジや廃インクタンクは、子供の手の届かない場所に保管してください。



- ★ インクが皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに石けんや水で洗い流してください。
万一インクが目に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

接地工事



- ★ 本装置は、感電事故防止のため接地工事が必要です。
- ★ 接地工事は、C種接地工事（特別第3種接地工事）を行ってください。

保護具着用



- ★ 吸引ノズルやキャップのクリーニングにおいて、インク、メンテナンス用洗浄液が飛び散る可能性がある場合は、必ず保護メガネおよび手袋を着用して、クリーニングを行ってください。インク、メンテナンス用洗浄液が目に入る危険性があります。またインク、メンテナンス用洗浄液が手に付着すると手が荒れる原因になります。



扉、蓋の開閉について



- ★ 本装置には開閉扉、蓋があります。扉、蓋開閉時には指、腕および胴体部の一部が挟まれる恐れがあります。万一、挟まれると、打ち身や最悪の場合、圧死もありえます。扉、蓋の開閉作業には、必ず人体の一部が挟まれることの無いように行ってください。

警告

電源、電圧について



★ 本装置には、高電圧が発生している部分があります。電気工事は、電気工事士の免許を持った人以外が行うことを禁止します。



★ メンテナンス時には感電を防ぐために、必ず主電源ブレーカーをオフにし、電源プラグを抜いてください。また装置によっては、コンデンサの電荷放電時間に1分間必要な場合があります。主電源ブレーカーをオフにし、電源プラグを抜いた後は、必ず3分後に作業するようにしてください。



★ 本装置の主電源ブレーカの投入作業も、本装置の操作方法を熟知した人以外は行わないでください。



★ 接地工事は、感電事故防止のため必ず行ってください。



★ 表示された電源仕様で使用してください。また、電源ケーブルのプラグは、必ずアース処理したソケットに差し込んでください。火災・感電の原因になります。



★ UVランプがまれに破損することがあります。定格寿命もしくは、それ以前のUVランプ交換をお勧めします。



★ 弊社推奨のランプをご使用ください。使用しない場合は、火事または器具の破損事故につながります。弊社推奨のランプ以外は絶対に使用しないでください。弊社推奨のランプ以外を使用して生じた不具合について、弊社はいっさい責任を負いかねます。



★ 点灯中のランプは絶対に直接肉眼で見ないでください。目の痛みや視力障害の原因になります。必ず安全眼鏡を掛けてください。



★ 紫外線 (UV) を皮膚に直接あてないでください。皮膚の炎症を起こす原因になります。



★ 点灯中や消灯直後は熱いので、UVランプには手を触れないでください。ヤケドの原因となります。UVランプの交換時には、十分に冷えてから取り扱ってください。



★ ランプの交換、取付け、取外しの場合には、必ず電源をオフにして作業を行ってください。感電の原因になります。

UVランプの取り扱い



★ ガラス製品のため落としたり、物をぶつけたり、無理な力を加えたり、キズをつけたりしないでください。破損の原因となります。



★ 引火する危険性の雰囲気 (ガンソリン・可燃性スプレー・シンナー・ラッカー・粉塵など) で使用しないでください。また紙や布をランプに近づけたり、覆ったりしないでください。火災の原因になります。



★ 使用済みのUVランプは割らずに必ず容器に入れ、一般の蛍光灯と同様に地域条例に従い、廃棄してください。UVランプをそのまま割るとガラス破片が飛散します。

レーザーセンサー



★ 本装置には、レーザーセンサー (クラス2) が使用されています。絶対にレーザー光を直接のぞき込まないでください。目の痛みや視力障害の原因になります。





警告

不凍液の取り扱い



★ 不凍液を取り扱う場合は、必ずゴーグルおよび手袋を着用してください。



★ 不凍液は、弊社専用の不凍液をご使用ください。温水装置が故障する恐れがあります。



★ 不凍液または温水タンク水（不凍液混合水）は、直接肌に触れないようにしてください。万一、皮膚や衣服に触れてしまった場合は、石けんを使って、すぐに流水で洗い落としてください。

万一、不凍液または温水タンク水（不凍液混合水）が目に入った場合は、大量の流水で洗い、医師の診断を受けてください。

また高温の温水タンク水（不凍液混合水）に触れた場合は、直ちに石けんや水で洗い落とし、氷水で十分冷やしてから、医師の診断を受けてください。



★ 誤って不凍液または温水タンク水（不凍液混合水）を飲み込んだ場合は、直ちに吐かせ、医師の診断を受けてください。



★ 不凍液をご使用の前に、必ず製品安全性データシート（MSDS）をお読みください。





















★ 不用となった不凍液または使用済みの温水タンク水（不凍液混合水）は以下の方法で処分してください。

- おがくず、ウェス等に吸着させて、焼却炉で焼却する
- 免許を持った産業廃棄物処理業者に内容物を明確にして処理を委託する



★ 静電気・衝撃火花による着火源が生じないように注意してください。

使用上のご注意

 注意	
<p>定期交換部品があります</p> <p> ★ 本装置には、別途に定める定期交換部品があります。保守契約をしていただくことをお勧めいたします。</p>	<p>警告ラベルについて</p> <p> ★ 本装置には、警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり、剥がれた場合は、販売店、または弊社営業所にて新しい警告ラベルをお買い求めください。</p>
<p>ホコリから守る</p> <p> ★ できるだけホコリの少ない部屋で利用してください。悪環境下では、リフレッシュレベルを2または3に設定してください。</p> <p> ★ 夜帰宅する際は、メディアをセットしたままにしないでください。メディアの上にホコリが付着してしまいます。</p> <p> ★ メディアはホコリがつかないように保管してください。メディアに付着したホコリを拭き取ると、静電気により逆効果になってしまいます。</p> <p> ★ キャッピングステーションの拭き掃除は、こまめに行ってください。</p> <p> ★ ホコリが原因で、作図中に突然インクの雫がヘッドからメディアに落ちる場合があります。この場合は、ヘッドをクリーニングしてください。(⇒P.2-20)</p>	<p>インクカートリッジについて</p> <p> ★ カートリッジを寒い所から暖かい所に移した場合は、3時間以上室温環境下に放置してから利用してください。</p> <p> ★ カートリッジは、取付直前に開封してください。開封した状態で長時間放置しておく、正常に作図できない場合があります。</p> <p> ★ カートリッジは、冷暗所で保存してください。</p> <p> ★ カートリッジを開封後は、お早めに使い切ってください。開封後、長時間経過したものは、作図品質が低下します。</p> <p> ★ 専用インク以外を使用すると、故障の原因になります。専用インク以外を使用して故障した場合の修理は、お客様の負担になりますのでご了承ください。</p> <p> ★ カートリッジ内のインクを詰め替えないでください。</p> <p> ★ インクカートリッジを強くたたいたり、激しく振り回さないでください。カートリッジからインクが漏れる場合があります。</p>
<p>正面カバーについて</p> <p> ★ 作図中に正面カバーを開けないでください。作図が終了してしまいます。</p>	
<p>装置を水平に保つ</p> <p> ★ 必ず、レベルフットを調整し、本装置を水平に保つようにしてください。</p>	<p>メンテナンス用洗浄液について</p> <p> ★ メンテナンス用洗浄液は、冷暗所で保管してください。また子供の手の届かない場所に保管してください。</p>

⚠ 注意

不凍液について



- ★ 不凍液は冷暗所で保存してください。
- ★ 不凍液は、子供の手の届かない場所に保管してください。

紫外線について



- ★ メディアの搬入、搬出部の開口部から多少の紫外線漏れがあります。紫外線を皮膚や目に浴びると、炎症や皮膚ガンを起こす可能性があります。弱い紫外線で炎症を起こさない場合でも、反復暴露により慢性障害に発展する場合があります。紫外線を皮膚や目に浴びないようにしてください。



- ★ 紫外線の目への障害として、急性障害；異物等、とう痛および涙が流れる等がある。
慢性障害；白内障等がある。
本装置を使用する場合、手袋、長袖の服、顔面部は遮光面、目は付属の遮光メガネ等で保護してください。

清掃について



- ★ 長年の使用により装置導電部や絶縁部にゴミ、ホコリが溜まり漏電する場合があります。定期的に清掃をしてください。



- ★ 清掃は圧縮空気の吹き付けで行わないでください。ゴミ、ホコリが飛散するだけでは無く、導電部に侵入して動作不良を起こします。必ず掃除機を使用して、ゴミ・ホコリを吸い取ってください。



- ★ 水のかかる場所での使用は、漏電の可能性が非常に高くなります。水のかかる場所での使用は避けてください。



- ★ 万一、漏電が発生すると、作業員の感電や火災に発展する場合があります。



- ★ 事故防止のため、定期点検、定期交換部品の交換等は必ず行ってください。

高温について



- ★ UVランプ、UV照射装置内部は、非常に高温になります。メンテナンスを行う時は、ランプ消灯後十分温度が下がってから行ってください。



- ★ 装置外装部で高温になっている部分があります。この高温部には、高温注意銘板が貼り付けてあります。高温注意銘板が貼ってある部分およびその付近は、触ると火傷の恐れがあります。触らないでください。



- ★ 万一、高温部に触る時は、断熱性のある手袋等で手の皮膚を保護してください。

発火、発煙について



- ★ UVランプ等の高温部に可燃物が触れると、発火、発煙の可能性があります。



- ★ 長年の使用で、安定器やその他使用部品についてゴミやホコリによる漏電、絶縁劣化が原因の発火、発煙の可能性がある。定期的な清掃、絶縁抵抗測定による劣化部品の交換をしてください。







- ★ 長年の使用で、導電部のネジ等が緩むことが原因で、発火、発煙の可能性があります。定期的な増し締めを行ってください。










- ★ 本装置は防爆タイプではありません。危険物雰囲気での使用は爆発等の危険があります。危険物雰囲気での使用を禁止します。



- ★ 異臭・発煙・スパーク跡など装置に異常が見られた場合は直ちに電源をオフにして弊社まで連絡してください。

 注意	
UV ランプの注意	
	★ UV ランプの性能、寿命は UV 照射装置、UV 電源装置によって大きく左右されます。弊社推奨の UV 照射器具、UV 電源装置以外は絶対に使用しないでください。弊社推奨の UV 照射装置、UV 電源装置以外を使用して生じた不具合について、弊社はいっさい責任を負いかねます。
	★ UV ランプ、UV 照射器具下面のガラスは、必ず付属の手袋をはめて取り扱い、素手で触れないでください。UV 硬化が著しく低下する原因になります。汚れがついた場合には、アルコールを湿らせた清潔なガーゼ等で拭いてください。(外側カバーは、アルコールで拭かないでください。塗装がはげます。)
	★ ランプは、ソケットに確実に取り付けてください。落下や過熱の原因になります。

設置上のご注意

 注意	
直射日光が当たる場所	水平でない場所
 ★ 直射日光の当たる場所に、本装置を設置しないでください。	 ★ 水平でない場所、安定しない場所に、本装置を設置しないでください。安定した作図が得られません。
温度や湿度の変化が激しい場所	振動が発生する場所
 ★ 次の環境下でお使いください。 使用環境： 15～30℃ 35～65%(Rh)	 ★ 振動が発生する場所に、本装置を設置しないでください。安定した作図が得られません。
エアコンなどの風が直接当たる場所	粉塵・タバコの煙が充満している場所
 ★ エアコンなどの風が直接当たる場所に、本装置を設置しないでください。インクが飛び散る可能性があります。	 ★ 粉塵、タバコの煙が充満している場所に、本装置を設置しないでください。ホコリが付きやすく、飛行曲がりなどが発生します。

本書の読み方

ディスプレイとキーの表記

本取扱説明書では、操作手順と合わせて操作パネルの「ディスプレイ」に表示する文字や、使用する【 】について説明しています。(⇒ P.1-18)

ディスプレイ表記

右図のように枠の中に、表示する内容を文字表記します。

操作手順の説明文に合わせて、確認しながら操作を進めます。

ディスプレイに表示する設定項目やメッセージを、文章中では[タイプ1]・[シバラオマツクサイ]のように【 】を使用して説明しています。

FUNCTION
セッテイ <ENT>

セッテイ
センタク : タイプ1

操作キー

本取扱説明書では、操作キーを【 】で説明しています。

【▲】【▼】はジョグキーを意味します。

その他の操作キーは、【FUNCTION】のように操作キーの名称を【 】の中に表記します。

本書の構成

本書は、6つの章に分けて本装置の取り扱いの説明をしています。

はじめに

本装置をご使用になる前に、ご理解していただきたいことや、本書の読み方を説明しています。

1章 作図の前に

本装置の各部の名称とはたらきについて説明します。

2章 基本操作

電源のオンから作図終了までの一連の動作、設定について説明します。

3章 日常のお手入れ

日常行う本装置のクリーニングなどを説明します。

4章 設定機能

作図条件を設定するファンクションメニューについて説明します。

5章 メンテナンス機能

ノズル詰まりの対処方法、UVランプの交換方法など、メンテナンスについて説明します。

6章 困ったときは

本装置になんらかの異常が発生した場合のトラブル解消方法について説明します。

付録

本装置の仕様、機能フローチャートなどをご紹介します。

1 章

作図の前に

作図の前に、本装置の必要な各部の名称などについて説明します。

本書の内容

本装置を設置する	1-2
各部の名称とはたらきについて	1-4
ケーブルを接続する	1-10
UV 装置と UV 照射器具について	1-12
インクカートリッジを入れる	1-15
インクカートリッジ取り扱い上のご注意	1-16
使用可能なメディアについて	1-17
メニューモードについて	1-18

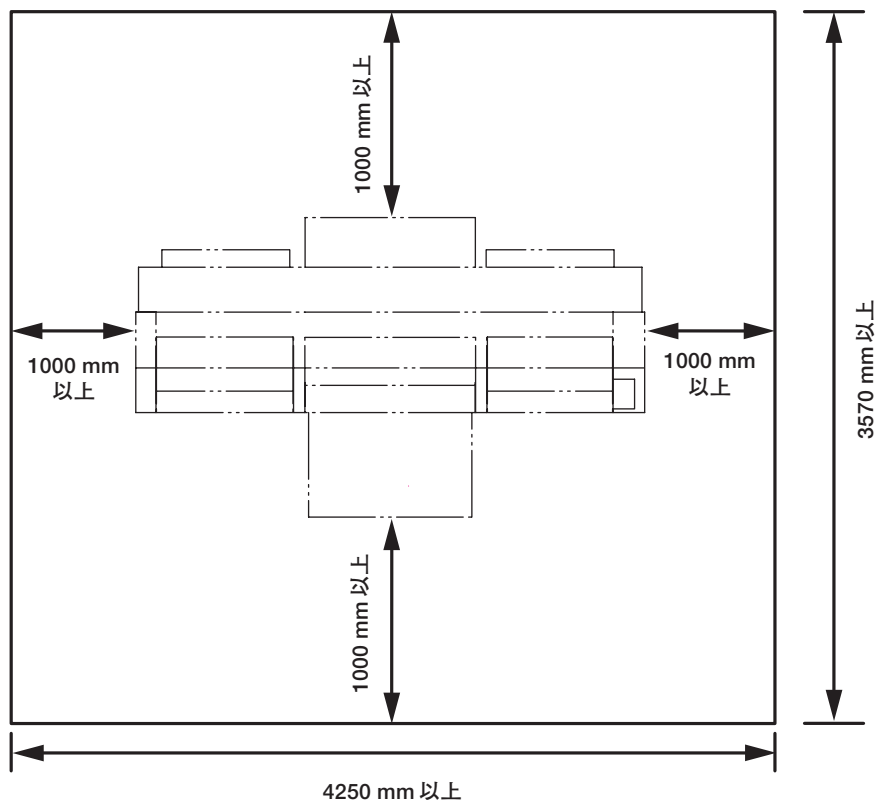
本装置を設置する

設置場所について

本装置を組み立てる前に、設置するスペースを確保してください。
本体の大きさで作図のために必要なスペースを考慮して設置します。

機種	横幅	縦幅	高さ	全体重量
UJF-605C	2250 mm	1570 mm	1370 mm	約420 kg

※ UV 電源別



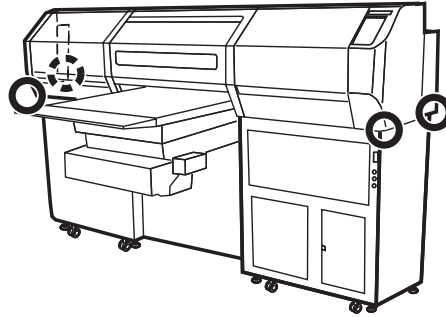
注意



- ★ 本装置の設置は、お客様が行うことはできません。弊社サービスおよび電気工事業者にお任せください。
- ★ 接地工事には、C種接地工事（特別第3種接地工事）を行ってください。
- ★ 本装置の電気工事は、感電事故防止のため、電気工事士の免許を持った人以外が行うことを禁止します。

本装置の移動

本装置を移動する時は、本装置の四つ角を持ち、4人以上でゆっくりと運んでください。



警告

- ★ 本装置の移設の際は、弊社営業所または販売店までご連絡ください。お客様が本装置の移設を行うと、故障や破損の原因になることがあります。本装置の移設は、必ず専門の担当者におまかせください。
- ★ 移動前にインターフェイスクーブルを必ず抜いてください。
- ★ UV ランプの温度が下がってから、移動してください。
- ★ 移動時は、大きな振動を与えないでください。



注意

- ★ 移動後は、必ずレベルフットを下げてください。
- ★ 前後テーブル部分、インクカートリッジ部分を持たないでください。故障の原因となります。

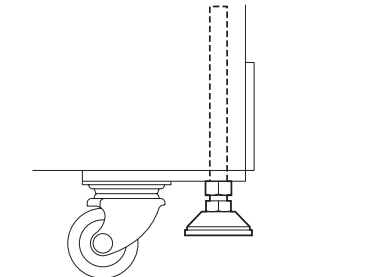
レベルフットについて

装置を移動する時は、テーブルフレームのレベルフットを十分に上げてください。本装置を設置するときは、レベルフットを下げてください。



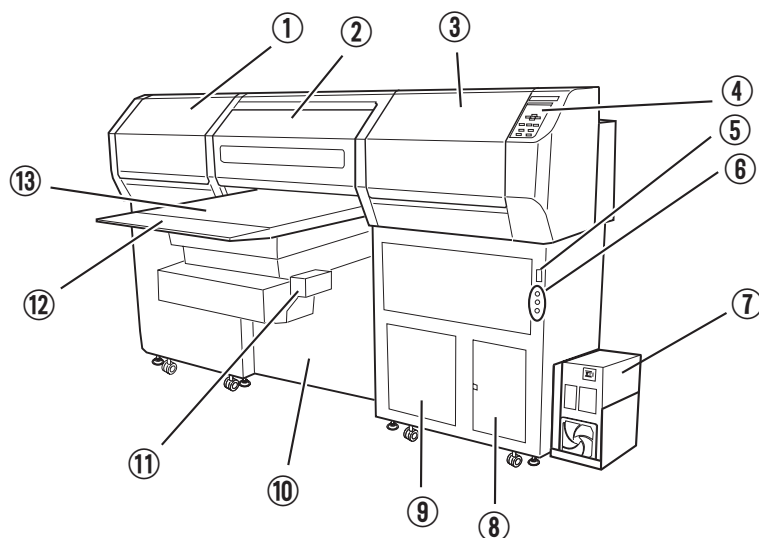
注意

- ★ レベルフットは、本装置に8ヶ所あります。キャスタの床面との間隔が均等になるように、少しずつ、順番に下げてください。



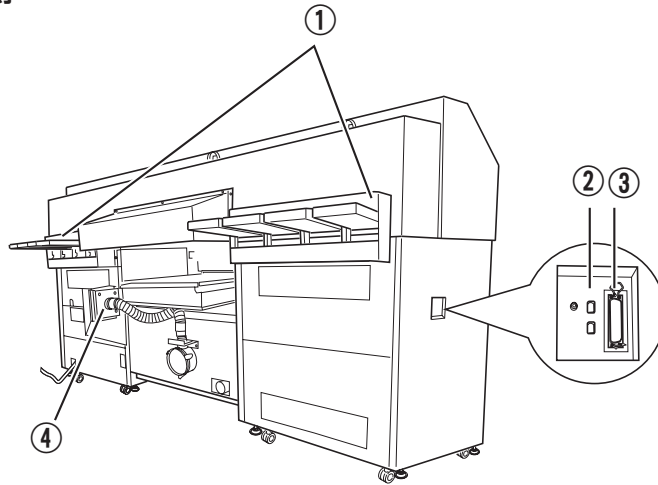
各部の名称とはたらきについて

装置前面



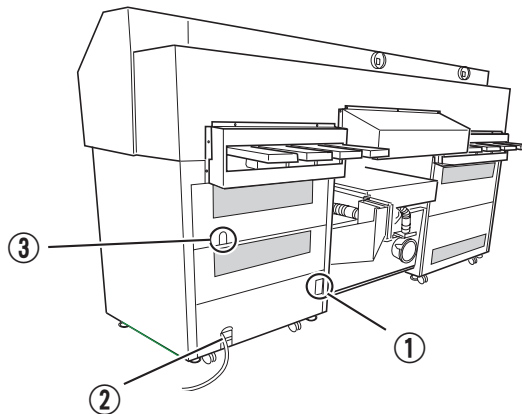
名称	はたらき
1 左側メンテナンスカバー	印刷時に待機します。フラッシングトレイを搭載し、メンテナンス時に開閉します。
2 正面カバー	メディアのセット、メディア詰まりの処置およびステーション内部のメンテナンス時に開けます。主電源スイッチがオフの場合でも、正面カバーは閉じておいてください。インク詰まり防止のための動作を行います。
3 右側メンテナンスカバー	キャッピングステーションを搭載し、メンテナンス時に開閉します。
4 操作パネル	本装置に必要な設定を行う操作キーや、操作項目を表示するディスプレイがあります。(⇒P.1-6)
5 主電源スイッチ	本装置の電源をオン/オフします。
6 UVランプ表示灯	UVランプの状態を表示します。(⇒P.1-13) 異常(赤) / UVランプ消灯後 冷却中(オレンジ) / 使用可能(緑)
7 UV装置	UVランプの電源を供給します。
8 廃インクタンク	クリーニングなどで使用した廃インクを溜めるタンクを内蔵しています。(⇒P.3-7)
9 温水装置	インクの状態を適温に保ちます。(⇒P.3-8)
10 ブロウユニット	メディアをテーブルにエア吸着させます。
11 サブパネル	テーブルの上下移動、フロアのオン/オフ、またCOPY機能を備えています。
12 UV遮へい板	UVランプの光漏れを遮ります。
13 テーブル	作図時に前後に移動します。テーブル上に吸着穴があり、バキューム装置の電源をオンにすると、メディアを吸着します。

装置背面 右側



	名称	はたらき
1	インクステーション	インクカートリッジを差し込みます。
2	IEEE1394 コネクタ	400 Mbps の IEEE1394 に準拠したインターフェイスです。
3	パラレルコネクタ	双方向パラレルインターフェイスコネクタです。 (IEEE1284 準拠)
4	エアフィルタ	ブロワ用の空気清浄をします。(⇒P.3-20)

装置背面 左側



	名称	はたらき
1	D-SUB コネクタ	UV ランプインターフェイスケーブルを接続します。
2	本体電源ケーブル	本装置の電源を供給します。
3	UV 照射器具接続 ケーブル	UV 照射器具制御ケーブル、UV ランプケーブルを UV 装置へ 接続します。

操作パネル

操作パネルは、作図方法の設定、各種操作に使用します。

ジョグキー

【▲】【▼】【◀】【▶】

《ローカルモード》でのヘッドやテーブルの移動、作図条件の項目選択などに使用します。

【TEST】キー

インク詰まり確認用のテストパターンを作図します。
(⇒P.2-19)

【FUNCTION】キー

各種機能の設定メニューに入ります。(⇒P.4-2)

【END】キー

直前に入力した設定のキャンセルや、設定メニューを1つ前の画面に戻す場合に使用します。

【CLEANING】キー

ヘッドの「クリーニング」を行います。(⇒P.2-20)

ディスプレイ

本装置の状態、設定項目、エラーなどを表示します。

POWER ランプ

主電源スイッチをオンにすると、点灯します。

【COPY】キー

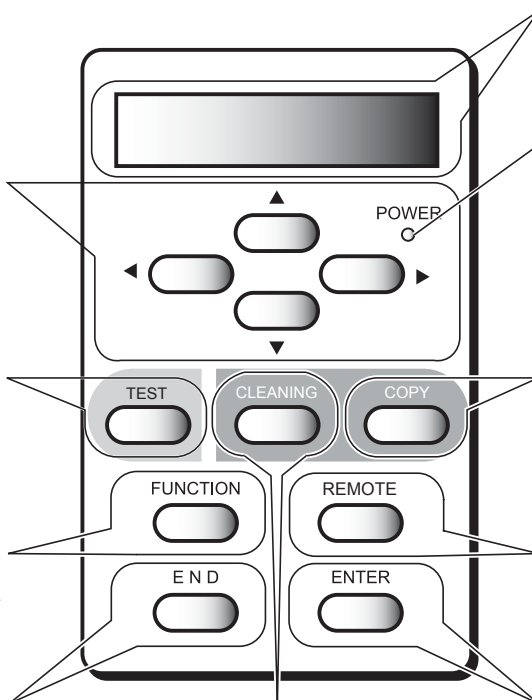
作図したデータを繰り返して作図します。
(⇒P.2-23, P2-24)

【REMOTE】キー

《リモートモード》と《ローカルモード》を切り替えます。(⇒P.1-18)

【ENTER】キー

作図条件など、設定項目を決定します。



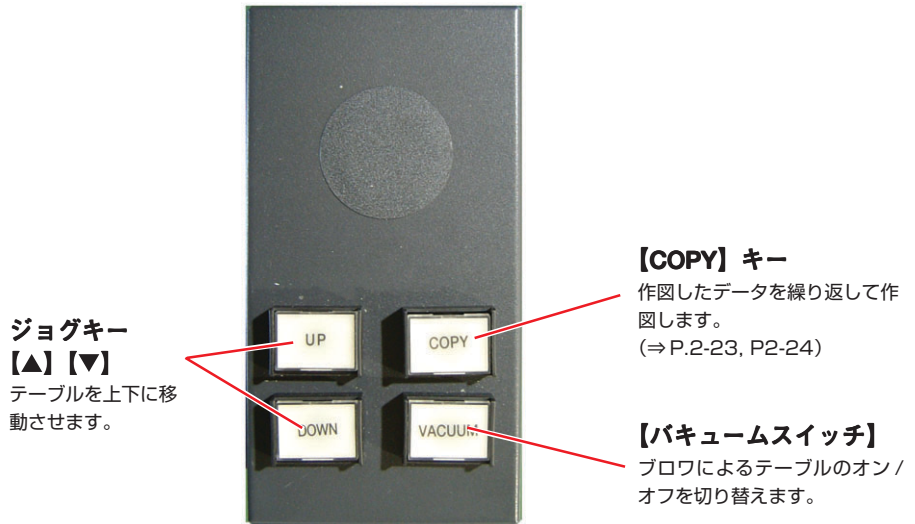
ジョグキーのはたらき

ジョグキーは、使用するタイミングにより機能が異なります。

	作図原点、範囲設定時	機能選択時	設定の選択時
◀	キャリッジを左へ移動	——	——
▶	キャリッジを右へ移動	——	——
▲	テーブルを奥側へ移動	1つ前の機能に戻る	1つ前の値を選択する
▼	テーブルを手前に移動	次の機能に移る	次の値を選択する

サブパネル

サブパネルは、テーブルの上下移動、コピー機能、またブロウのオン/オフをします。

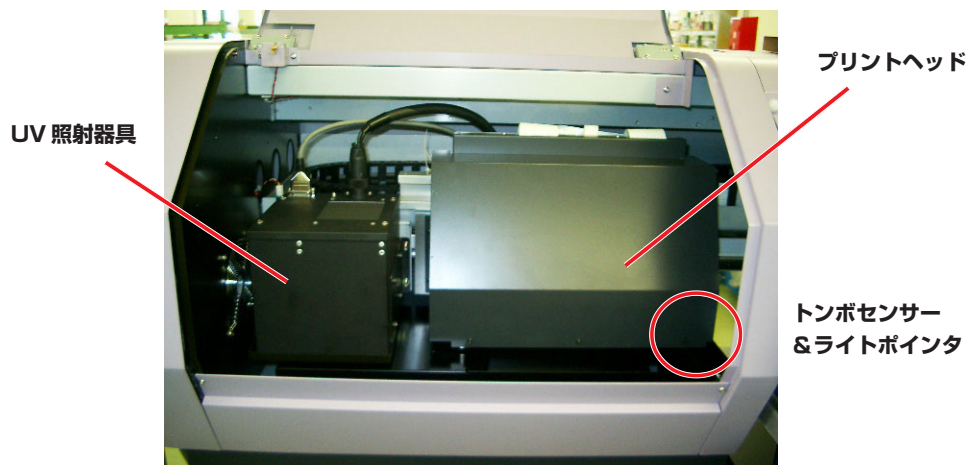


キャリッジ

キャリッジには、作図用のプリントヘッド、UV 照射器具、プリントヘッドカバー内にトンボセンサー、ライトポインタを搭載しています。キャリッジの待機位置は、UV ランプの状態によって異なります。

UV ランプが点灯している場合は、左側のステーション内で待機します。

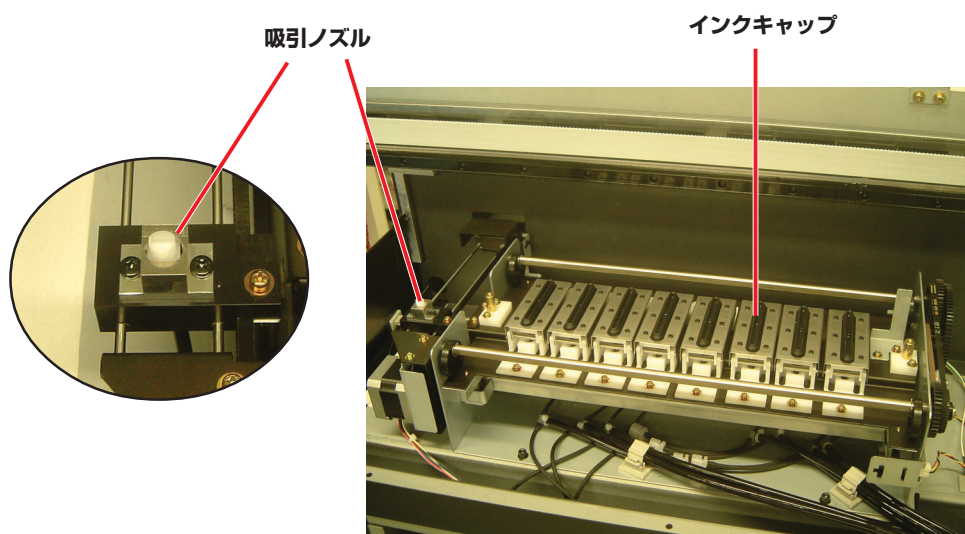
UV ランプが消灯している場合は、右側のステーション内で待機します。



キャッピングステーション

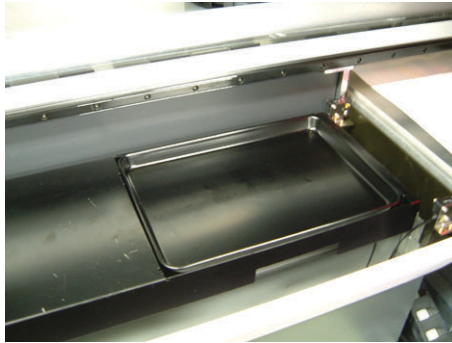
本装置正面右側メンテナンスカバー内部にあるキャッピングステーションは、プリントヘッドのメンテナンスを行うインクキャップ、吸引ノズル機構で構成されています。

(⇒ P.3-3)



フラッシングトレイ

フラッシングトレイは、本体正面の左側メンテナンスカバー内部にあります。
プリントヘッドがフラッシングした際に、フラッシングトレイに廃インクがたまります。
溜まった廃インクはこまめに清掃してください。(⇒ P.3-5)



1

作図の前に

ケーブルを接続する

インターフェイスケーブルを接続する

コンピュータと本装置をインターフェイスケーブルで接続します。
本装置は、2種類のインターフェイスケーブルが使用可能です。ご使用のコンピュータや、出力ソフトに合わせて使用するケーブルと接続を選択してください。



- ★ インターフェイスケーブルを接続する場合は、主電源スイッチをオフにしてください。

IEEE1394 インターフェイスをご使用の場合は

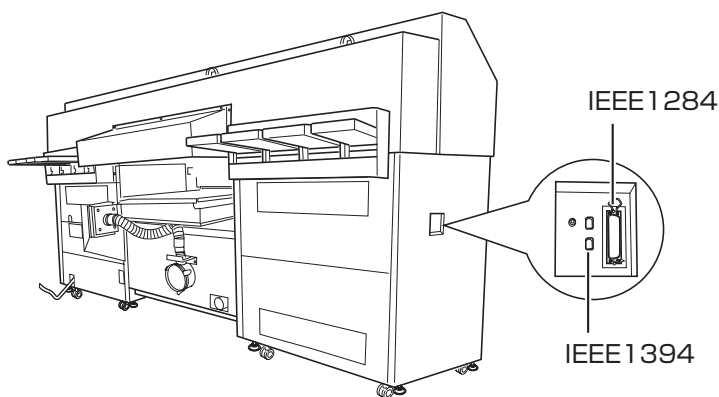
ご使用のコンピュータが IEEE1394 のインターフェイスを搭載している場合は、コンピュータと本装置を IEEE1394 のインターフェイスケーブルで接続します。



- ★ ご使用の RIP が IEEE1394 インターフェイスに対応している必要があります。
- ★ IEEE1394 の 2 つあるコネクタは、どちらでもご使用できます。
- ★ IEEE1394 のボードがコンピュータに付いていない場合は、お近くの RIP メーカーまたは弊社営業所までお問い合わせください。

IEEE1284 準拠インターフェイスをご使用の場合は

コンピュータと本装置を IEEE1284 の準拠インターフェイスケーブルで接続します。
IEEE1284 で接続する場合、IEEE1394 を使用したデータ送信より遅くなります。



電源ケーブル接続について



警告

★ 電源ケーブル接続について

本装置は、電源取得の際に、配電盤の工事が必要です。

本装置の電源ケーブル接続はお客様が行うことは出来ません。

電源ケーブルを接続する場合は、必ず弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。

また設置場所の移転等により、電源ケーブルの接続を変更する場合も同様に、必ず弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。サービスコールをせずに、お客様による電源ケーブル接続を行った際に生じた不具合については、弊社はいっさい責任を負いかねますので、ご了承ください。

1

作図の前に

UV 装置と UV 照射器具について

UV 装置

本装置の右下に設置されてある UV 装置は、UV 照射器具、UV 表示灯と連動しています。



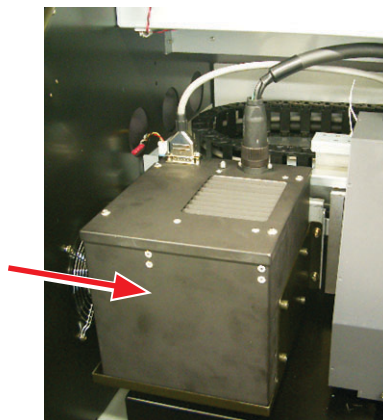
UV 照射器具



- ★ 点灯中の UV ランプから出る光を直接肉眼で見ないでください。
- ★ 点灯中、消灯後は触らないでください。熱くなり、大変危険です。

主電源スイッチをオンにしてから、2 分間後には照射可能状態になります。

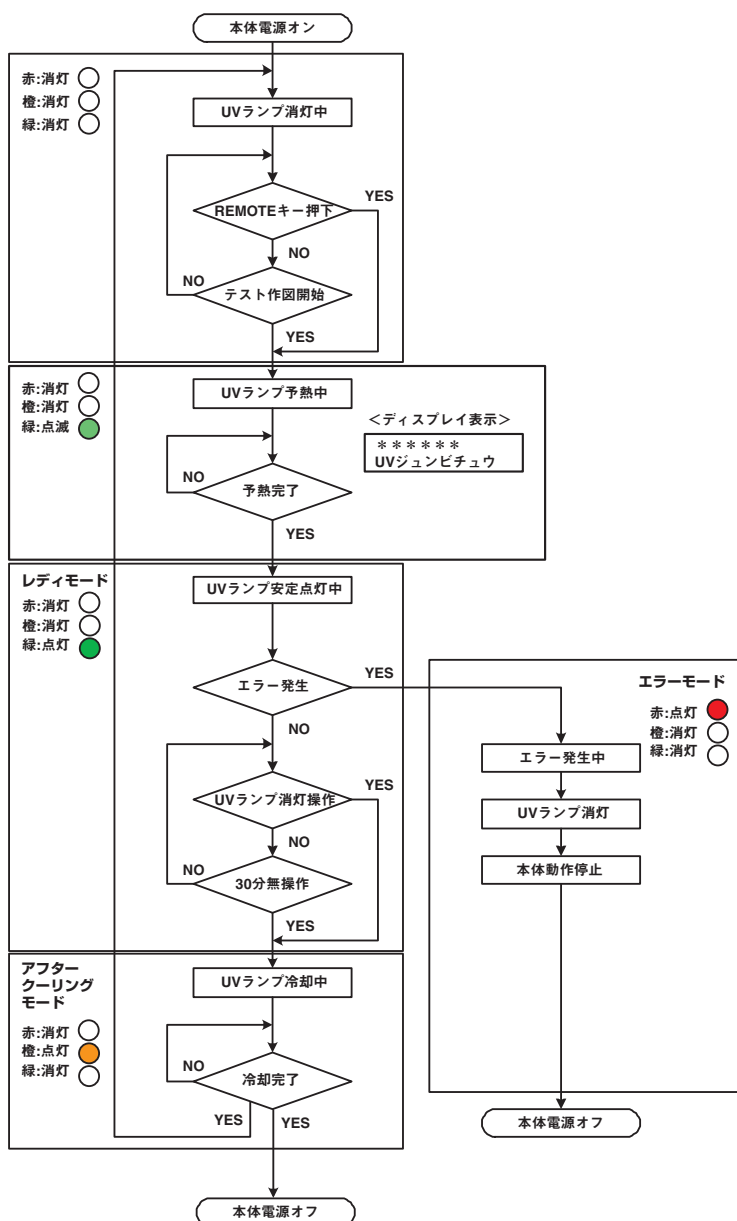
UV 照射器具は、シャッター機構を内蔵しています。作図時のみ自動的にシャッターが開きます。









UV 照射器具表示灯の働きについて

主電源スイッチの下にある、3つのUV照射器具表示灯の動作について説明します。表示灯には3つのモードがあります。本装置前面の表示灯にて、各モードの状態を表します。また、UVランプは30分以上作図がないと自動的に消灯します。長時間作図しない場合（30分以上）は、UVランプを消灯してください。（⇒P.4-14）

点灯フローチャート



表示灯の説明

モード	UV ランプの状態	概要
レディモード		
点灯/点滅 (グリーン) 	[作図可能状態] UV ランプの予熱中 (点滅) UV ランプの予熱完了 (点灯) UV ランプ安定点灯中 (予熱時間 2分 30 秒～3 分)	[REMOTE]キー、または[TEST]キーを押して[テストサクス]を選択した時、UV ランプを予熱します。予熱が完了すると、UV ランプの準備完了となり、作図を開始します。
消灯 	[作図不可能状態] UV ランプの消灯中 もしくは他の 2 モード	→ UV ランプの準備ができていません。
アフタークーリングモード		
点灯 (オレンジ) 	[作図不可能状態] UV ランプを冷却中 (6 分間)	以下の場合に、UV ランプを消灯します。 ・ 消灯するオペレーションをした時 ・ 作図後 30 分以上が経過した時 ・ 本装置にエラーが起きた時 UV ランプ消灯後、ランプ部を冷却しています。 UV ランプは再点灯できず、本装置も作図動作は行えません。一旦、消灯するまでお待ちください。
消灯 	他の 2 モード	
エラーモード		
点灯 (レッド) 	[作図不可能状態] エラーが発生 (UV ランプは消灯する)	① UV 電源の異常 ② UV ランプのオーバーヒート UV ランプを消灯し、ランプ冷却ファンを停止します。本装置の作図動作はストップします。 ③ UV 照射器具のシャッターが正常に動作しない場合
消灯 	正常	

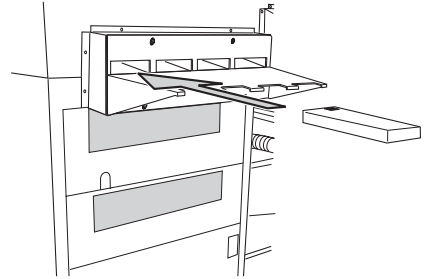
インクカートリッジを入れる

インクカートリッジを挿入します。



★ インクカートリッジを差し込む場合は、ICチップがある方を上面にむけて、横にして差し込んでください。

★ 主電源スイッチをオンにした後は、必ず初期充填を行ってください。
(⇒ P.2-6)



ディスプレイには、次のように色を表示します。

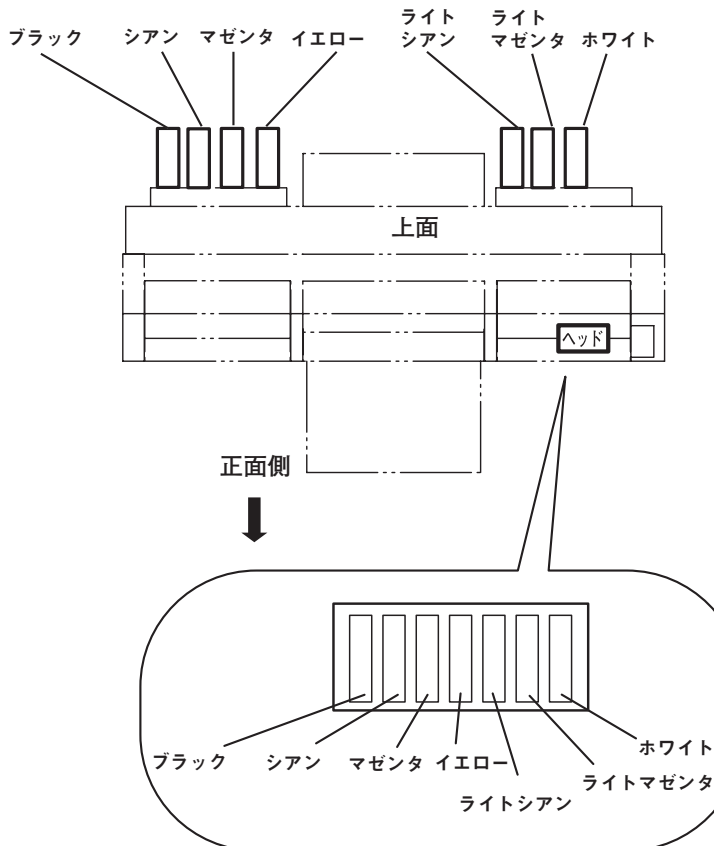
ブラック: K, シアン: C, マゼンダ: M, イエロー: Y,

ライトシアン: c, ライトマゼンダ: m, ホワイト: W, 特色: S

インクステーションとヘッドの関係

1列のノズルに対して1色のインクが対応しています。

ヘッドのノズル詰まりのチェックや、インクエンドとなったカートリッジの交換、インクを充填する場合の対応関係にご使用ください。



インクカートリッジ取り扱い上のご注意



- ★ インクカートリッジは、弊社推奨のインクカートリッジをご使用ください。
- ★ インクには直接ふれないようにしてください。誤ってインクを付けてしまった場合は、石けんや水ですぐに洗い落としてください。万一、インクが目に入った場合は、大量の流水で洗い、医師に相談してください。
- ★ インクカートリッジは冷暗所で保存してください。
- ★ インクカートリッジを寒い所から暖かい所に移した場合は、3時間以上、室温環境下に放置してから使用してください。
- ★ インクカートリッジは開封してから6カ月以内に使い切ってください。開封後、長時間経過したものは作図品質が低下します。
- ★ インクカートリッジは、子供の手の届かない場所に保管してください。
- ★ 未使用のインクカートリッジは、産業廃棄物処理業者に内容物を明確にして処理を委託してください。
- ★ 一部成分において（光重合開始剤）、水性生物に対する毒性があります。自然水系、生活排水への漏洩流出を防いでください。
- ★ インクカートリッジに記載している有効期限を過ぎた場合は、そのインクカートリッジを使用しないでください。
- ★ インクカートリッジをご使用の前に、必ず安全データシート（MSDS）をお読みください。



- ★ インクカートリッジを強く振らないでください。強く振ったり、振り回したりすると、カートリッジからインクがもれることがあります。
- ★ インクカートリッジは分解しないでください。
- ★ インクカートリッジのインクを詰め替えないでください。故障の原因になります。また、インクを詰め替えて使用したことによって生じた不具合について、弊社はいっさい責任を負いかねます。

白インク（ホワイト）の取り扱いについて

白インク（ホワイト）は他のインクに比べて長期使用しない場合カートリッジ内部で、沈殿してしまう場合があります。白インクの状態を良好に保つため、3章をご覧になり必ず定期メンテナンス作業を行ってください。（⇒P.3-14）



- ★ インクカートリッジは、弊社推奨のインクカートリッジをご使用ください。
- ★ 一週間に一度、白インクの状態を良好に保つため、インクカートリッジを抜き、白インクをよく振ってください。

使用可能なメディアについて

使用可能なメディアサイズと、その取り扱い方法について説明します。

使用可能メディアサイズ

最大幅	700mm
最大長	600mm
最大作図幅	600mm
最大作図長	500mm
厚さ	50 mm 以下
重量	5 kg 以下

メディア取り扱い上の注意

メディアの取り扱いについて、次の点にご注意ください。



★ メディアの伸縮

包装を開けて間もないシート状のメディアは、使用しないでください。室内の温度や湿度によって、メディアが伸縮する場合があります。開封後、30分以上、使用する場所の外気にさらす必要があります。



★ メディアの反り

板状メディアは、平らなもの、作図面を上にして下に反っているもの（中央が浮いているもの）をご使用ください。上に反っているメディアは、テーブルに吸着できない場合があります。反りやすいメディアは、一回り小さめの台やパレットの上に置くなど、下反りになるように保管してください。



★ テーブルを使用する場合

吸着効果を維持するために、メディアが覆えないテーブル上の吸着穴は、できるだけ使用するメディアよりも薄いメディアで塞いでください。（⇒P.2-7）



★ その他の注意点

- ・ コート紙の表面に物を置かないでください。コート紙によっては変色する場合があります。
- ・ 本装置は、テーブル可動式です。吸着しきれないカールしたメディアや、テーブル動作時にずれてしまうメディアは使用できません。テープ貼付などでメディアを固定してからご使用ください。

メニューモードについて

本装置には3つのモードがあります。各メニューモードについて説明します。

ローカルモード

ローカルモードは、作図準備状態のモードです。

全てのキーが有効です。

コンピュータから、データを受信できます。ただし、作図は行いません。

ローカルモードでは以下の操作が可能です。

1. ジョグキーを押して、作図原点や作図範囲を設定します。
2. 【TEST】キーを押して、「テスト作図」を行います。
3. 【CLEANING】キーを押して「ヘッドクリーニング」を行います。
4. 【COPY】キーを押して、作図したデータを繰り返して作図します。
5. 【FUNCTION】キーを押して、各種機能を設定します。(→ファンクションモード)

ファンクションモード

ローカルモード時に、【FUNCTION】キーを押すとファンクションモードになります。

作図方法に関する機能設定を行います。詳細は、4章設定機能、5章メンテナンス機能をご覧ください。

リモートモード

受信したデータを作図します。

作図中に【REMOTE】キーを押すと、一時停止します。

ローカルモード時は、【REMOTE】キーを押すとリモートモードになります。

メモリーモード

受信したデータを作図しながら、複数版のコピー用に印刷情報（パス数、解像度、色など）を記憶します。

リモートモード時に【COPY】を押すと、メモリーモードになります。

2章

基本操作

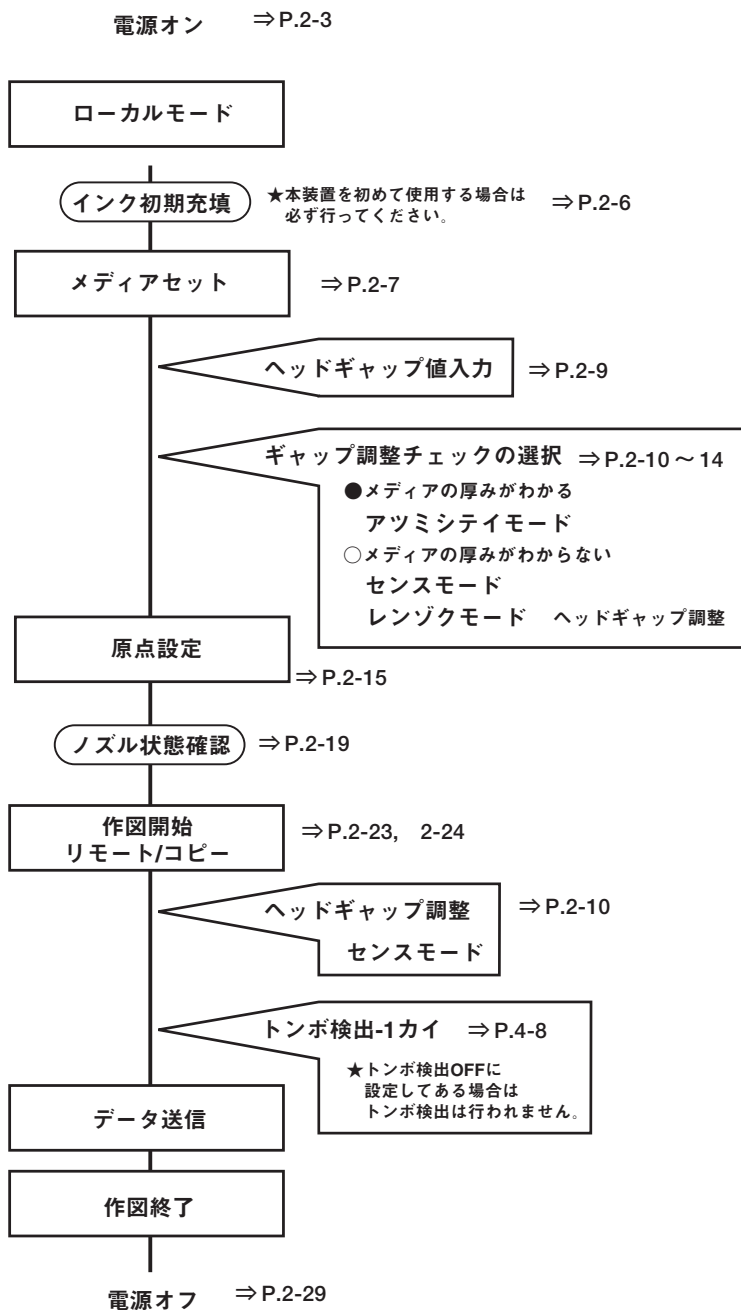
作図を行うために必要な操作について説明します。

本章の内容

作業の流れ	2-2
電源をオンにする	2-3
カバーについて	2-5
インクの初期充填を行う	2-6
メディアをセットする	2-7
作図原点を設定する	2-15
ノズル詰まりの確認 / 解消	2-19
データを作図する	2-21
新しいインクに交換する	2-27
カートリッジ異常が発生したら	2-28
電源のオフ	2-29

作業の流れ

電源を入れてから、作図が終了するまでの作業について説明します。
各項目の詳細は、参照ページをご覧ください。



電源をオンにする

1. UV 装置の電源をオンにします。
「|」側に倒します。



2. 主電源スイッチをオンにします。
「|」側に倒します。



電源をオンにすると[BOOT]を表示し、続けてファームウェアのバージョンを表示します。

初期動作を実行します。

BOOT

Ver. * . * *

シバラクオマチクダサイ



注意

- ★ テーブルが移動します。手をついていると危険です。
- ★ UV 装置の電源がオフの場合は、エラーを表示します。UV 装置の電源をオンにし、本装置の電源を入れ直してください。

ERROR 72
UV デンゲン OFF

- ★ 温水装置の温度が一定温度になっていない場合は、メッセージを表示します。この場合は、作図できません。表示が消えると、作図ができます。

<<ローカル>>
オンスイジュンビチュウ

2

基本操作

3. ローカルモードになります。

<<ローカル>>

4. 接続してあるコンピュータの電源をオンにします。

本装置の情報を表示する

【ENTER】キーを押して、本装置の情報を表示します。以下はローカルモード中に情報を表示する方法を説明します。



- リモートモードでも【ENTER】キーを押して、同様に情報を表示できます。

操作手順

1. ローカルモードになっていることを確認します。

<<ローカル>>

2. 【ENTER】キーを押すと、インク残量を表示します。



ザンリョウ KCMYcmW
1 2 3 4 5 6 7

3. 【ENTER】キーを押すと、バージョン、コマンドなどの情報を表示します。



V 1. 1 0 / M R L - 2 B



- 使用機種情報について、メンテナンス項目の「マシンジョウホウ」でも確認することが出来ます。(⇒P.5-29)

4. 【ENTER】キーを押すと、現在のUVランプの照射時間を表示します。



UV ショウシャジカン
6 0 0 h 0 0 m



- UVランプの照射時間については、「UVランプを交換する」(⇒P.5-17)を参照してください。

5. 【ENTER】キーを押すと、ローカルモードに戻ります。



<<ローカル>>

カバーについて



注意

- ★ 作図中にカバーを開けないでください。作図中にカバーを開けると、画像の作図が中断され、継続できなくなります。
- ★ カバーは、取っ手を持って開閉してください。樹脂面を持って開閉すると破損の原因になります。

作図中にカバーを開けると、安全のためキャリッジが停止し、本装置の作図動作が止まります。この場合、次の操作手順で本装置、およびコンピュータを再起動してください。

操作手順

1. 作図中にカバーを開けると、メッセージを表示します。
作図を停止します。

!カバーオープン
カバーヲシメテクダサイ

2. コンピュータからのデータ送信を停止します。
3. カバーを閉めます。

4. 【ENTER】キーを1回押します。



(COVER OPEN)
< ENT >ヲオシテクダサイ

シバラクオマチクダサイ

5. キャリッジが動き始めます。
本装置の電源をオンにした時と同じ初期動作をします。

2

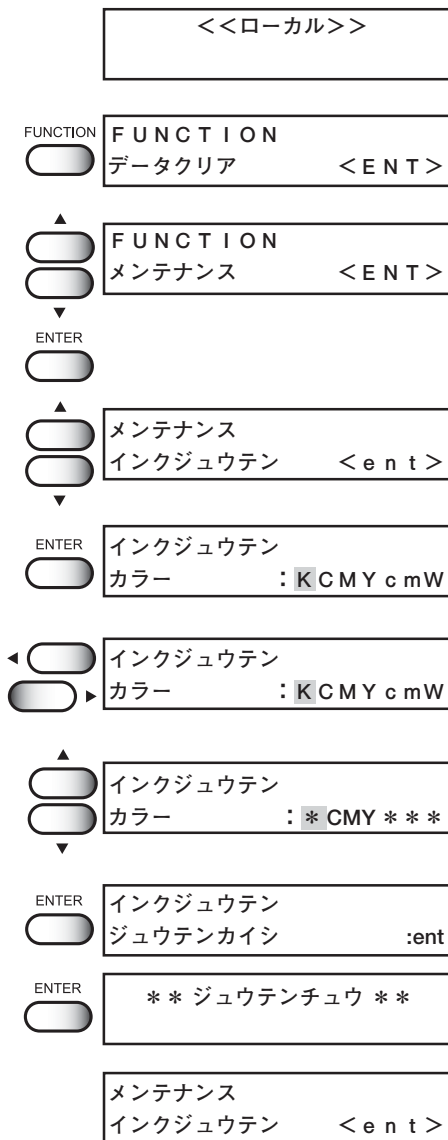
基本操作

インクの初期充填を行う

本装置を初めて使用する場合、本装置にインクカートリッジを取り付けてインクを充填する必要があります。新しくインクを交換する場合は、P.2-26 をご覧ください。

操作手順

1. インクステーションにインクカートリッジを正規の位置まで差し込み、セットしてあることを確認します。
2. ローカルモードになっていることを確認します。
3. [FUNCTION] キーを押します。
4. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、[メンテナンス]を選択します。
5. [ENTER] キーを押します。
6. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、[インクジュウテン]を選択します。
7. [ENTER] キーを押します。
8. ジョグキー【◀】または【▶】を押して、インクを充填する色を選択します。
9. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、インクを充填する色を表示させます。
インク充填をしない場合は「*」にします。
10. [ENTER] キーを押します。
11. 再度 [ENTER] キーを押します。
自動的にインク充填を開始します。
12. インク充填を終了すると、右の表示に戻ります。
[END] キーを2回押しと、ローカルモードに戻ります。



メディアをセットする

メディアのサイズによっては、テーブル上の吸着穴を全て塞げないことがあります。必要に応じて、紙、フィルムなどの使用するメディアよりも薄いシートで穴を塞いでください。またメディアが動いてしまい、作図に影響を及ぼすような場合は、粘着テープでメディアを補助的に固定してください。

使用可能メディア

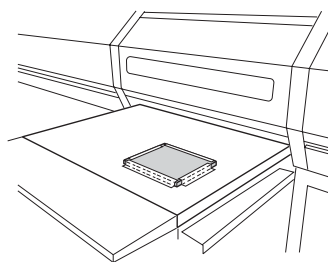
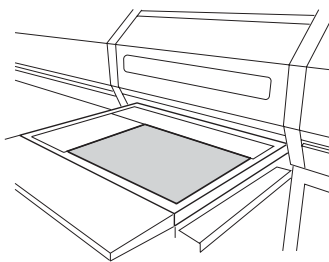
以下の条件を満たしているメディアのみ、ご使用できます。

サイズ： 600 mm x 500 mm 以下

厚さ： 50 mm 以下



- ★ 使用可能なメディアの厚みは、50 mm までです。50mm 以上厚みのあるメディアを使用するとカバーが破損します。
- ★ 粘着テープは、テープの糊やテープ自体がテーブルに残らない物をお使いください。
- ★ 反りのあるメディアは使用しないでください。正常に作図することができません。
- ★ テーブル面よりも大きなメディアは使用しないでください。
- ★ 重いメディアに作図する場合、テーブルの手前側に置くとテーブルがメディアの重さで傾いてしまうことがあります。その場合はテーブルの中央部に置いて作図を行ってください。
- ★ 作図中は、UV 光遮へい板に手を付かないでください。テーブルが傾き、作図が停止する場合があります。



フロント遮光カーテンを取り付ける

メディアをセットした場合、メディアの高さによっては、UVランプの光が漏れてしまう場合があります。光漏れを防ぐため、付属のフロント遮光カーテンを正面カバーに取り付けます。カーテンの先端がテーブル面につかない程度に、セットしてください。

フロント遮光カーテン小



フロント遮光カーテン大



フロント遮光カーテンの取り付け方

1. フロント遮光カーテン大をフロントカバーの取手部分に取り付けます。
マグネットを上にして、取り付けます。

フロントカバー
取手部分

フロントカバー

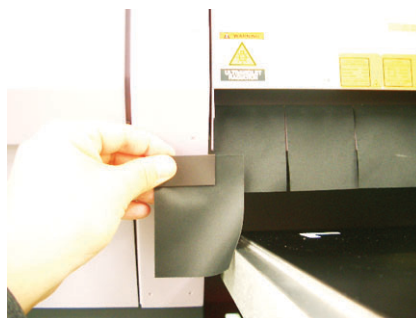
フロント遮光カーテン
大のマグネット部分



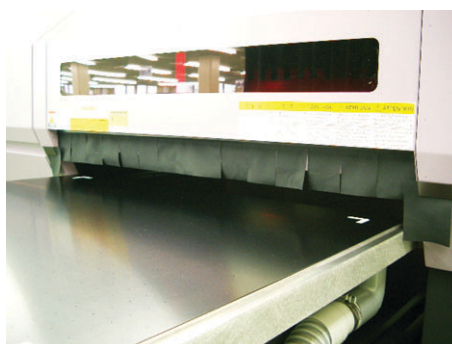
2. 奥まで入れ込みます。



3. フロント遮光カーテン小をカバーの両端に取り付けます。
UV ランプの光が漏れないように取り付けます。



完成図



メディアをセットする前は、3つの設定をする必要があります。

- ヘッドギャップ値の入力 → ヘッドギャップ値を入力し、固定します。
- ヘッドギャップ調整のチェック方法選択
 - メディアの厚さがわからない → センスモードまたはレンゾクモード
 - メディアの厚さがわかる → アツミシテイモード
- ギャップチェック → レンゾクモードに設定した場合は、必ず行います。

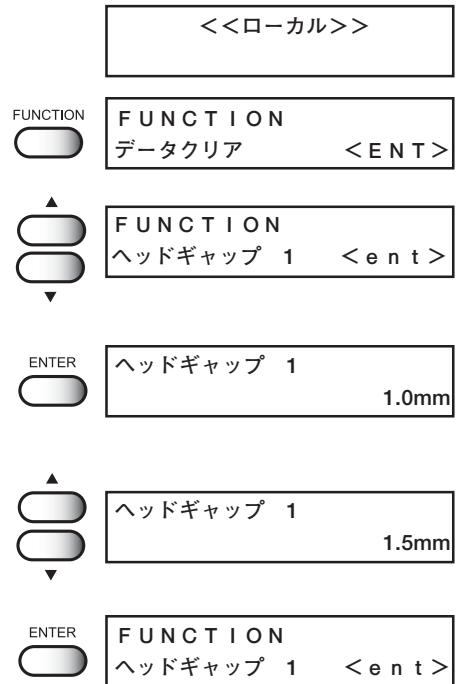
【ヘッドギャップ】 値の入力

ヘッドとメディアとのギャップ値を入力し、すべてのメディアにこの値が反映されます。お好みの数値を入力してください。タイプ登録（P.4-4）されている番号が表示されます。

設定値：0.9～2.0mm（初期値：1.0mm）

操作手順

1. ローカルモードになっていることを確認します。
2. 【FUNCTION】 キーを押します。
3. ジョグキー【▲】または【▼】で【ヘッドギャップ】を選択します。
4. 【ENTER】 キーを押します。
タイプ1に反映します。
5. ジョグキー【▲】または【▼】でヘッドギャップ値を入力します。
6. 【ENTER】 キーを押して、【ヘッドギャップ】に戻ります。



ヘッドギャップ調整のための [チェックハウハウ] の選択

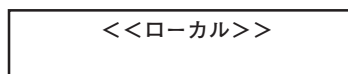
ヘッドギャップ値で入力した値を元にして、作図時ギャップ調整のためにチェック方法を選択します。チェックには、3種類の方法があります。使用するメディアに従って、チェック方法を選択します。

メディアの厚さがわからない場合

- センスモード : メディアの厚みが作図ごとに異なる場合、センスモードを選択します。データ作図時、コピー作図時にヘッドギャップ調整を行います。
- レンゾクモード : 同じ厚さのメディアを使用して印刷する場合は、連続モードにします。ここでヘッドギャップ調整を一度行くと、作図時にヘッドギャップ調整を行いません。必ずギャップチェックを行ってください。
⇒ P.2-13

操作手順

1. ローカルモードになっていることを確認します。



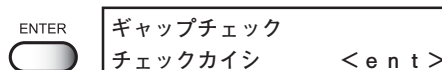
2. [FUNCTION] キーを押します。



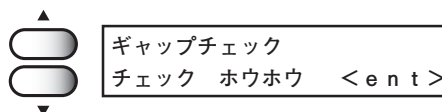
3. ジョグキー [▲] または [▼] で [ギャップチェック] を選択します。



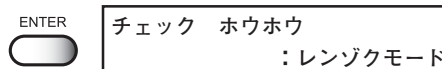
4. [ENTER] キーを押します。



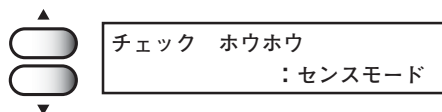
5. ジョグキー [▲] または [▼] で [チェックハウハウ] を選択します。



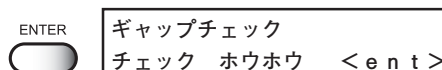
6. [ENTER] キーを押します。



7. ジョグキー [▲] または [▼] で [センスモード] または [レンゾクモード] を選択します。




8. [ENTER] キーを押して、チェックハウハウに戻ります。



メディアの厚さがわかる場合

設定できるメディアの厚さは0～50mmです。

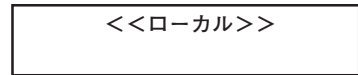
- アツミシテイモード : メディアの厚みがわかっている場合は、数値を入力します。作図時にもヘッドギャップ調整は行いません。



★ メディアの厚さが変わり、また厚さがわかっている場合は、必ず厚みを指定してください。厚みを指定していない場合は、プリントヘッドまたはUV照射器具を破損する恐れがあります。

操作手順

- ローカルモードになっていることを確認します。



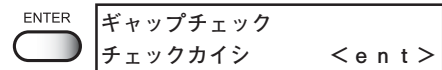
- 【FUNCTION】キーを押します。



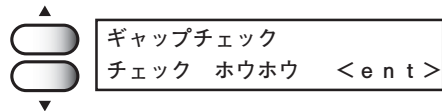
- ジョグキー【▲】または【▼】で【ギャップチェック】を選択します。



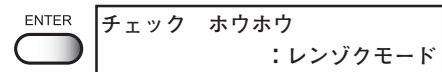
- 【ENTER】キーを押します。



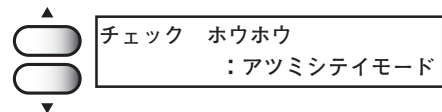
- ジョグキー【▲】または【▼】で【チェックホウホウ】を選択します。



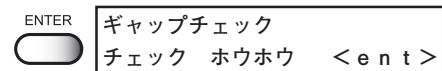
- 【ENTER】キーを押します。



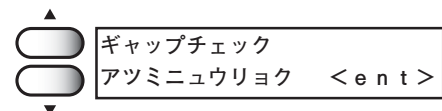
- ジョグキー【▲】または【▼】で【アツミシテイモード】を選択します。



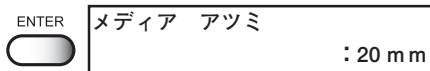
- 【ENTER】キーを押して、チェックホウホウに戻ります。



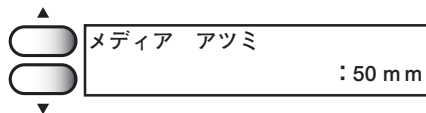
- ジョグキー【▲】または【▼】で【アツミニュウリョク】を選択します。



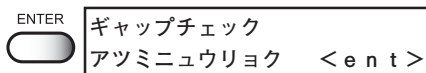
10. 【ENTER】 キーを押します。



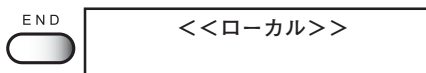
11. ジョグキー 【▲】 または 【▼】 でメディアの厚さを入力します。



12. 【ENTER】 キーを押します。
メディアの最上点がヘッドギャップ設定値になるようにテーブルを調整します。
「アツミニュウリョク」に戻ります。



13. 【END】 キーを押して、ローカルモードに戻ります。



ヘッドギャップをチェック [ギャップチェック]

レンズモードを選択している場合、必ずギャップチェックを行います。

使用するメディアの厚みに応じて、プリントヘッドとテーブルの高さを調整する必要があります。メディアの厚みに対して適正なテーブル高さでない場合は、作図も適正に行われません。また、作図品質の低下、またはメディアや本装置、プリントヘッドが破損するなど大変危険です。



★ [レンズモード] を選択している場合
電源投入後またはデータクリア等の初期化後、作図時に一度だけヘッドギャップ調整を行います。メディアが変わった場合ギャップチェック動作を行わないため、必ずヘッドギャップ調整を行ってください。

操作手順

- ローカルモードになっていることを確認します。

<<ローカル>>

- [FUNCTION] キーを3回押します。

FUNCTION
3回

FUNCTION
ギャップチェック <ENT>

- [ENTER] キーを押します。

ENTER

ギャップチェック
チェックカイシ <ent>

- [チェックカイシ] を選択し、[ENTER] キーを押します。

テーブルが最下点にない場合、右表示にして、
テーブルを最下点まで降下します。

ENTER

テーブルコウカチュウ
シバラクオマチクダサイ

- メディアをテーブル上にセットします。

- セット後、[ENTER] キーを押します。
サブパネルのバキュームスイッチがオンになっていない場合は、自動的にバキュームがオンになります。

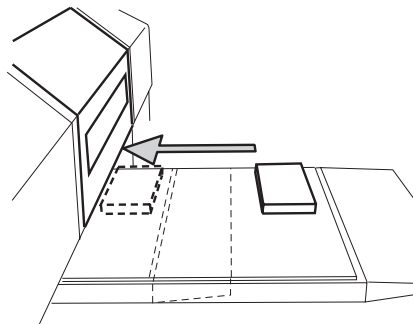
ENTER

ギャップチェック
メディアヲセットシテクダサイ

7. ジョグキー【▲】を押して、メディアの最後部分が正面カバーの端面に届くまで、テーブルを移動させます。



ギャップチェック
テーブルイドウ



8. 【ENTER】キーを押します。
テーブルが上昇し、自動的にヘッドギャップ調整を行います。



ギャップチェック
シバラクオマチクダサイ

9. 調整が終了すると、「チェックカイシ」に戻ります。

ギャップチェック
チェックカイシ < e n t >

10. 【END】キーを押して、ローカルモードに戻ります。

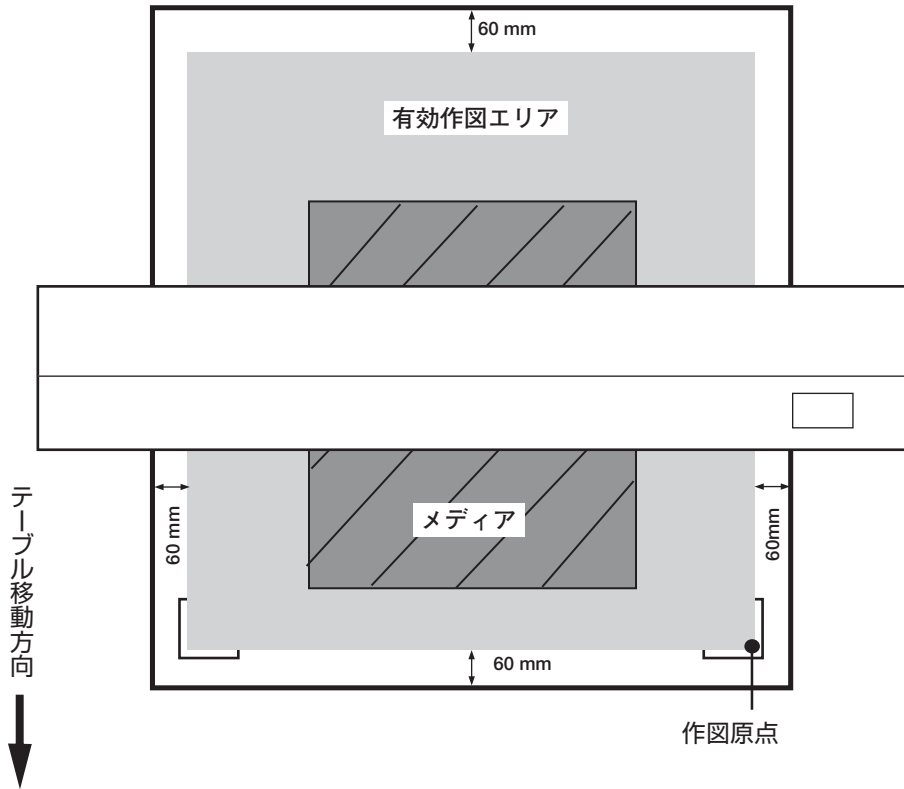


<<ローカル>>

作図原点を設定する

初期値

作図原点は新たに設定するまで、下図のように設定してあります。



作図原点の設定

初期値以外の場所で作図する場合は、作図原点を変更します。

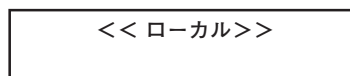
作図原点の設定方法は、2種類あります。

- ジョグキーによる作図原点の設定
- ファンクションメニュー「ゲンテン」設定からの作図原点の設定

ジョグキーによる作図原点の設定

操作手順

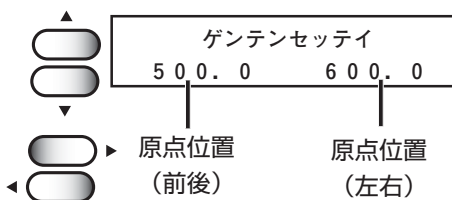
1. ローカルモードにします。



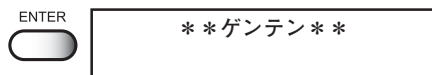
2. ジョグキー【▲】【▼】【◀】【▶】を押し、作図原点を設定する位置まで動かします。



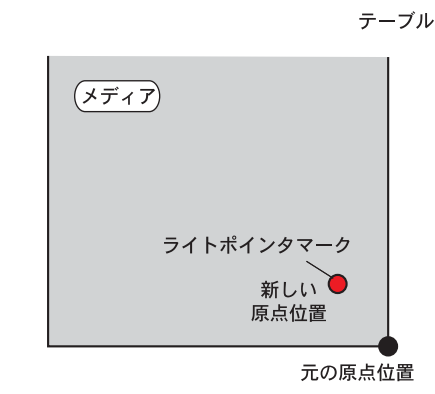
- テーブル、またはメディア上に赤いライトポインタ「●」マークを映します。その点が表示座標になります。



3. 作図原点を決定したら、【ENTER】キーを押します。




- 再度、作図原点を変更するまで、この設定を保存します。
- 正確に原点設定をする場合は、【FUNCTION】メニューの「ゲンテン」設定で、ゲンテンを設定します。
- ジョグキーによる原点設定は、電源をオフすると設定値がクリアされます。



ジョグキーによる原点位置

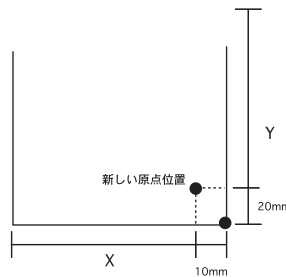
正確に作図原点位置を設定する場合 [FUNCTION] - [ゲンテン]

原点位置を正確に設定する場合、ファンクションメニューから X,Y 原点の設定をします。この設定で原点を設定した場合、設定した値が原点位置 (0.0) となります。



★ 設定後、電源をオフにしても原点位置はクリアされませんが、ジョグキーで原点を更新する場合は設定した値がクリアされます。(⇒P.2-16)

注意



操作手順

1. ローカルモードになっていることを確認します。

<<ローカル>>

2. [FUNCTION] キーを押します。

ENTER FUNCTION
データクリア <ENT>

3. ジョグキー [▲] または [▼] を押し、[ゲンテン] を選択します。

▲

ENTER FUNCTION
ゲンテン <ENT>

▼

4. [ENTER] キーを押します。

ENTER ゲンテン
X オフセット <ent>

5. 再度 [ENTER] キーを押し、[X オフセット] を選択します。
X 原点の設定します。

ENTER ゲンテン (500mm)
X オフセット: 0mm

6. ジョグキー [▲] または [▼] を押し、数値を入力します。

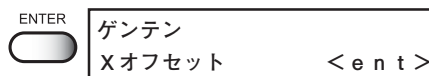
▲

ENTER ゲンテン (490mm)
X オフセット: 10mm

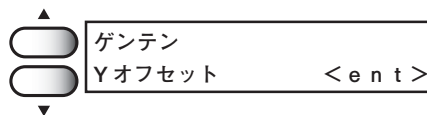
▼

1 行目のカッコ内の数値は、原点から最大有効範囲までの距離を表示しています。

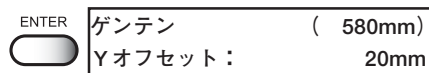
7. 【ENTER】 キーを押します。
ディスプレイには手順 4 に戻ります。



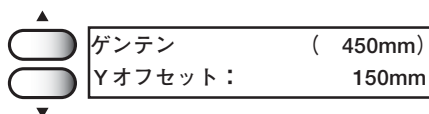
8. ジョグキー 【▲】 または 【▼】 を押し、【Y オフセット】 を選択します。
Y 原点の設定します。



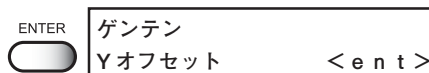
9. 【ENTER】 キーを押します。



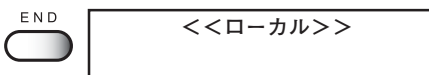
10. ジョグキー 【▲】 または 【▼】 を押し、数値を入力します。



11. 【ENTER】 キーを押し、Y 原点を設定します。
ディスプレイは手順 8 に戻ります。原点が設定されました。



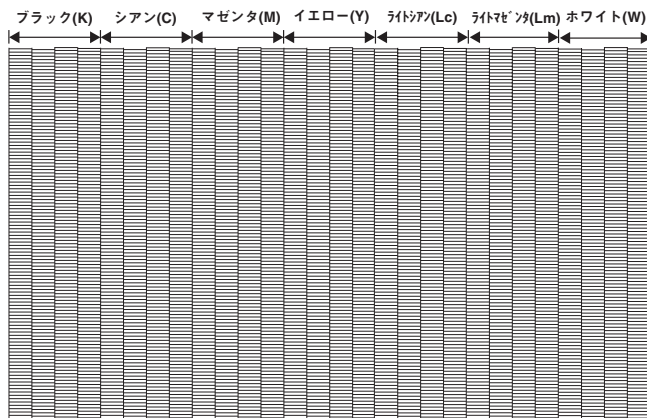
12. 【END】 キーを 3 回押して、ローカルモードに戻ります。



ノズル詰まりの確認 / 解消

テスト作図を行い、ノズル詰まりなどの作図不良（カスレや抜け）がないか確認します。異常がある場合は、クリーニング機能を実行します。

正常なパターン



テスト作図を行う



注意

★ UV 照射器具の温度が一定温度になっていない場合、または温水装置の温度が一定温度になっていない場合は、メッセージを表示します。この場合は、作図できません。表示が消えると、作図ができます。

オンスイジュンビチュウ

UV ジュンビチュウ

メディアがセットされ、原点位置をセットしてあることを確認してください。

1. ローカルモードになっていることを確認します。
2. 【TEST】キーを押します。
ヘッドギャップ調整が行われていない場合は、ギャップチェックを行います。(⇒P.2-13)
3. 【ENTER】キーを押し、テスト作図を開始します。
4. テスト作図が終了すると、テーブルが手前に移動し、ローカルモードになります。
5. 作図結果を確認します。
正常な場合は、操作を終了します。**異常があった場合は、次の操作に進みます。**

<<ローカル>>



テストサクス
ノズルチェック <ENT>



** テスト サクス **

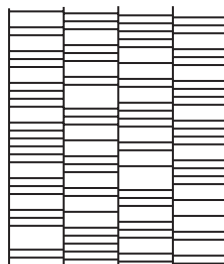
<<ローカル>>

異常なパターン

右のような異常なパターンが作図された場合は
ヘッドのクリーニングを行います。
クリーニングには、2種類あり、パターン作図の
結果によって使い分けてください。

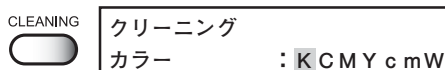
ノーマル： 線の抜けがある時
ハード： ノーマル で作図不良が改善しない時

また、画質品質が改良されない場合は、吸引ノズル、
キャップのクリーニングをする必要があります。
3章日常のお手入れを参照してください。

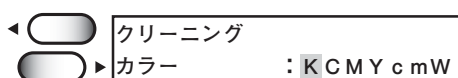


クリーニングの実行

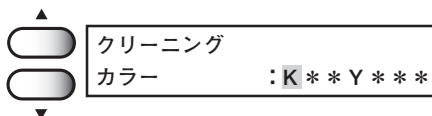
1. 【CLEANING】キーを押します。



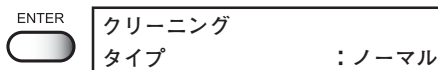
2. ジョグキー【◀】または【▶】を押し、ク
リーニングを実行するヘッドを選択します。



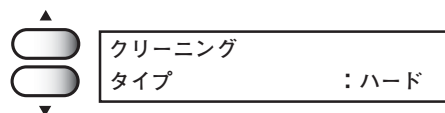
3. ジョグキー【▲】または【▼】を押し、ク
リーニングを実行するヘッドを表示します。
クリーニングを実行しない場合は「*」にしてく
ださい。



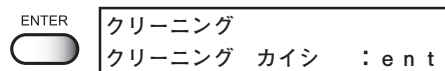
4. 【ENTER】キーを押します。



5. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、ク
リーニングタイプを選択します。



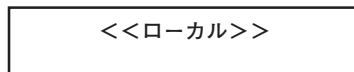
6. 【ENTER】キーを押します。



7. 【ENTER】キーを押して、クリーニングを開
始します。



8 クリーニングが終了すると、ローカルモード
になります。




9. 作図原点が自動的に更新されるので、再度テ
スト作図を実行し、作図結果を確認します。
作図結果が正常になるまで、<クリーニング→テ
スト作図>を繰り返します。

データを作図する

作図を開始する

作図の開始手順を説明します。

各種機能の設定は、「4章 ファンクション機能について」をお読みください。



注意

★ UV 照射器具の温度が一定温度になっていない場合、または温水装置の温度が一定温度になっていない場合は、メッセージを表示します。この場合は、作図できません。表示が消えると、作図ができます。

<リモート>
UV ジュンビチュウ

<リモート>
オンスイジュンビチュウ

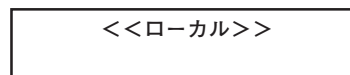


- 両方のエラー表示がされていても、データは送信できます。作図は表示が消えてから開始します。

操作手順

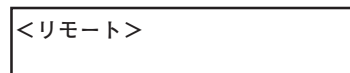
1. メディアをセットし、バキュームスイッチがオンになっているか確認してください。

2. ローカルモードになっていることを確認します。



3. 【REMOTE】 キーを押します。

REMOTE



- センスモードに設定した場合はヘッドギャップ調整を行います。ギャップチェック (P.2-13) を参照してください。
- センスモード以外でも、電源投入後またはヘッドギャップモードに変更した場合、最後に設定したモードとヘッドギャップ値にてギャップチェックを行います。
- トンボ検出が設定されている場合は、トンボチェック動作と同様の操作で、トンボ検出を行います。詳細は 4 章をご覧ください。(⇒P.4-8)
トンボ検出が必要でない場合は、【END】 キーを押します。リモートに戻ります。

テーブルコウカチュウ
シバラクオマチクダサイ

トンボケンシュツ

- UV 光量で[レイヤ]を設定している場合は、リモート表示の右下にレイヤ番号を表示します。これにより、光量の強さを確認できます。この状態でジョグキー【▲】または【▼】を押して、レイヤを変えることにより、UV 光量の変更ができます。(⇒ P.5-21)

<リモート> 1

UV 光量の
レイヤ番号



注意

★ トンボが検出されない場合は、エラー表示し、ローカル画面に戻ります。

- 「ERROR35 トンボケンシュツ」が表示された場合は、再度 [FUNCTION メニュー] - [トンボセッテイ] で設定した後、トンボチェックを行ってください。

ERROR 35
トンボケンシュツ

4. コンピュータからデータを送信します。

作図条件を表示します。

データの送信方法については、出力ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。

解像度 600 DPI

<リモート> 600 X 600
HOST / 4P

優先順位 パス
(P.4-6)

5. 作図を開始します。



- 作図原点は、作図が終了しても変更されません。
- 繰り返し、同じデータを作図する場合は、コピー機能を使用します。(⇒ P.2-23)




注意

★ 作図中に UV ランプによる熱で、メディアが浮き上がり、印刷が中断される場合があります。新しいメディアをセットし直し、作図を開始してください。

- #### 6. 作図終了後、バキュームスイッチをオフにして、メディアを取り外します。

繰り返し作図する（コピー）

直前に作図したデータ（1版）を再度、作図します。
操作パネルまたはサブパネルでも操作は可能です。操作方法も同様です。



注意

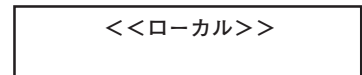
★ UV 照射器具の温度が一定温度になっていない場合、または温水装置の温度が一定温度になっていない場合は、メッセージを表示します。この場合は、作図できません。表示が消えると、作図ができます。

<コピー>
UV ジュンピチュウ

<コピー>
オンスイジュンピチュウ


操作手順

1. データを作図終了後、ローカルモードにします。
メディアをセットし、バキュームスイッチをオンにしてください。



2. 【COPY】 キーを押します。
コピー作図実行済み回数を表示します。



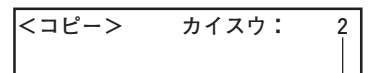
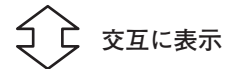
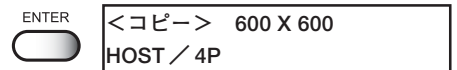


注意

★ 直前に作図したデータがない場合は、下記のメッセージを表示し、コピー作図はできません。

コピー
データガアリマセン

3. 【ENTER】 キーを押します。
作図条件と作図中のコピー回数を交互に表示します。

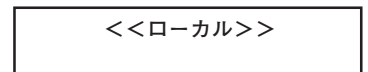


作図中
コピー回数



- サブパネルを使用する際は、ENTER キーを押す必要はありません。
- センスモードに設定した場合はヘッドギャップ調整を行います。ギャップチェック (P.2-13) を参照してください。
- トンボ検出が設定されている場合は、トンボチェック動作と同様の操作で、トンボ検出を行います。詳細は4章をご覧ください。(⇒ P.4-8) トンボ検出が必要でない場合は、【END】キーを押します。リモートに戻ります。

4. 作図終了後、ローカルモードに戻ります。
バキュームスイッチをオフにして、メディアを取り外します。

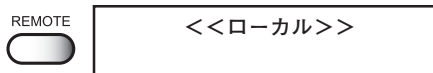


作図を中止する

作図を途中で中止する場合、作図動作を止め、すでに受信したデータを本装置から消去します。

操作手順

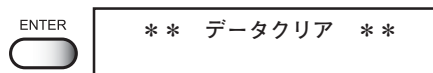
1. 作図中に、【REMOTE】キーを押すと、作図動作を中止します。



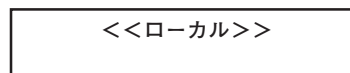
2. コンピュータからデータを送信している場合は、コンピュータ側でデータ送信を止めます。



3. 【FUNCTION】キーを押します。
[データクリア]を表示します。



4. 【ENTER】キーを押します。
受信データを消去し、ローカルモードに戻ります。

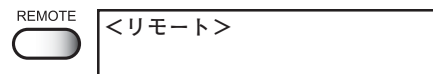


複数の版を繰り返し作図する（複数版コピー）

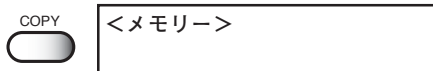
複数の版を最大4版まで重ねて作図する、データをコピーする手順を説明します。
また、コピーモードで【FUNCTION】キーを押すことにより、最大4版までの版を最大4回までコピーできます。

操作手順

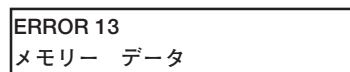
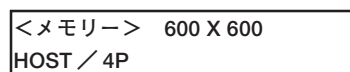
1. ローカルモードで、【REMOTE】キーを押し、リモートモードにします。



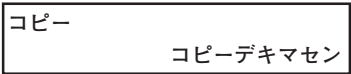
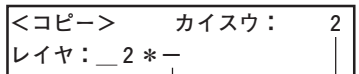
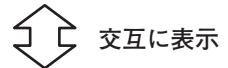
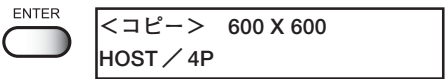
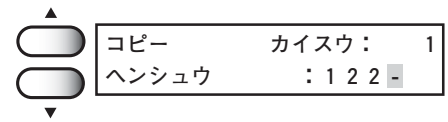
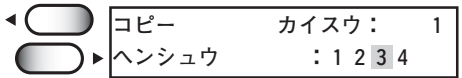
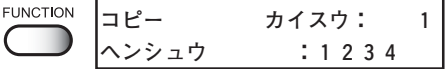
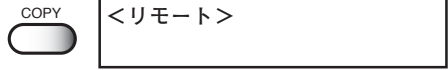
2. リモートモードで作図待機中に、【COPY】キーを押し、メモリーモードにします。
メモリーモードは、リモートモードと同等に受信データの作図を行います。
メモリーモードは、複数版コピーをするため、各版毎の印刷情報を記録します。



3. コンピュータから、複数回（最大4版まで）データを送信して作図を行います。
ただし、版毎に違う解像度だったり、別の版に同じ色がある場合は、複数版コピーはできません。
このような時は右のエラーを表示して、作図終了後にメモリーモードを終了します。



4. 全ての版データの作図終了後、【COPY】キーを押してメモリーモードを終了させます。
メモリーモードの切り替えは作図前か作図後に行い、作図中の切り替えは行わないでください。
5. 【REMOTE】キーを押して、ローカルモードにします。
6. 【COPY】キーを押します。
コピー作図実行済み回数を表示します。
7. 重ね書きする版の順番および回数を設定する場合は、【FUNCTION】キーを押します。
コピー編集モードになります。重ね書きする版の順番および回数を設定しない場合は、手順10から行います。
8. ジョグキー【◀】または【▶】を押し、重ね書きする版の作図順を選択します。
左から1番目、2番目
9. ジョグキー【▲】または【▼】を押し、重ね書きする版を選択します。
右の表示は、1版を作図した後に2版を2回作図します。「-」は、作図しないことを示します。
10. 【ENTER】キーを押して、コピーを実行します。
作図条件と複数版コピー作図の状況を交互に表示します。
複数版コピーができない条件でエラーになった場合、エラーを表示してコピーを実行しません。



作図中
コピー回数

- 1～4：作図中のコピー版番号
- _：作図済みのコピー版
- *：作図予定のコピー版
- ：作図しない

11. 各版を記録した順序で作図し、ローカルモードに戻ります。

＜＜ローカル＞＞

12. 再度コピーをする場合は、メディアを交換して手順5から行います。

コピー回数をクリアする

繰り返し作図した回数の表示を0回に初期化することができます。

操作手順

1. ローカルモードにします。

＜＜ローカル＞＞

2. 【COPY】キーを押します。



コピー カイスウ： 10
<ENT>

3. 【FUNCTION】キーを2回押します。



コピー カイスウ： 10
カイスウ クリア :ent

4. 【ENTER】キーを押して、コピー回数のクリアを実行します。



コピー カイスウ： 0
<ENT>

クリアすると、コピー開始画面に戻ります。

新しいインクに交換する

インクカートリッジ内のインクが少なくなってくるとメッセージを表示します。
なお、作図は続行できますが、作図中にインクが無くなる場合があります。
速やかに新しいインクカートリッジに交換してください。



- ★ [ニアエンド]を表示したら、速やかにインクを交換してください。
- ★ インクカートリッジを差し込む場合は、IC チップがある方を上面にむけて、横にして差し込んでください。

<使用中に、インク残量が少なくなった場合>

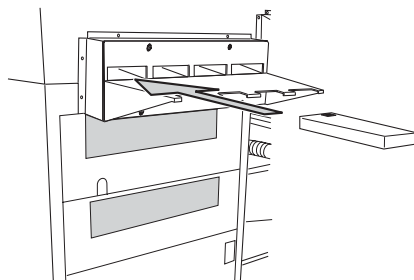
インク残量が少ない色を表示します。
右の表示は、ブラックインクの残量が少ないことを示しています。

<<ローカル>>	ニアエンド
カラー	:K

交換手順

1. 作図中に、メッセージを表示します。
2. 新しいインクと交換します。
インク色を表示したインクカートリッジを引き抜いて、新しいインクカートリッジをセットします。

<<ローカル>>	ニアエンド
カラー	:K



3. [REMOTE] キーを押して、リモートモードにします。
連続して作図ができます。



カートリッジ異常が発生したら

インクカートリッジに異常が発生したら、メッセージを表示します。
作図、クリーニング等、インク吐出に関する動作は全てできなくなります。
速やかに新しいインクカートリッジに交換して下さい。



★ カートリッジ異常を表示したまま長時間放置しないでください。ノズル詰まりの原因になります。ノズルが詰まった場合、サービスマンによる修理が必要になります。

1. カートリッジ異常の詳細を表示します。

カートリッジ異常の内容を確認することができます。詳細は、「6章困ったときは」のメッセージを表示するトラブルを参照してください。

! インクカートリッジ
カラー : KCMYcmW

2. ローカルモードの時に【ENTER】キーを押します。

ENTER



<<ローカル>>

3. 【ENTER】キーを押します。

インクカートリッジに異常がなければローカルモードに戻ります。

複数のカートリッジ異常が発生している場合、再度【ENTER】キーを押すと表示されます。

【ENTER】キーを押し、すべてのカートリッジ異常の表示が終わると、ローカルモードに戻ります。

ENTER



! インク IC イジョウ
カラー : KCMYcmW

! インク ヒジュンセイ
カラー : KCMYcmW

! インク シュルイ
カラー : KCMYcmW

! インク カラー
カラー : KCMYcmW

! キゲン ギレ (2カゲツ)
カラー : KCMYcmW

! カートリッジ サイセット
カラー : KCMYcmW

電源のオフ

電源をオフにする場合は、データを受信していないか、未出力のデータが残っていないかを確認してください。



注意

- ★ カバーは閉めたままにしてください。
- ★ UV 電源装置の消灯作業を行い、「COOLING」ランプ（オレンジ）が消えてから、UV 電源をオフしてください。

1. UV 消灯作業を開始します。
2. UV ランプ表示灯の「COOLING」ランプ（オレンジ）が消えます。
3. 接続してあるコンピュータの電源をオフにします。
4. 主電源スイッチをオフにします。
「○」側に倒します。



3章

日常のお手入れ

日常行うお手入れについて説明します。

お手入れに必要な消耗品は、販売店または弊社営業所でお求めください。

清掃棒（型番：SPC-0384）

メンテナンス用洗剤液（型番：SPC-0385）

本章の内容

日常のお手入れ	3-2
画質不良が解消されない場合は[ステーションメンテ]	3-3
フラッシングトレイのクリーニング	3-5
廃インクタンクのインクが溜まったら	3-7
温水装置の水を交換する[お風呂のカカ]	3-8
白インク（ホワイト）の定期メンテナンス[お休みのメンテナンス]	3-14
作図中のインク滴のボタ落ちを防ぐためには	3-16
フィルタのお手入れ	3-20

日常のお手入れ

本装置の精度を保ちながら末永くお使いいただけるよう、使用頻度に応じて、または定期的にお手入れをしてください。

長期間使用しない場合は



- ★ 必ず主電源スイッチをオフにしてください。(⇒ P.2-29)
- ★ セットしてあるメディアを取り除いてください。

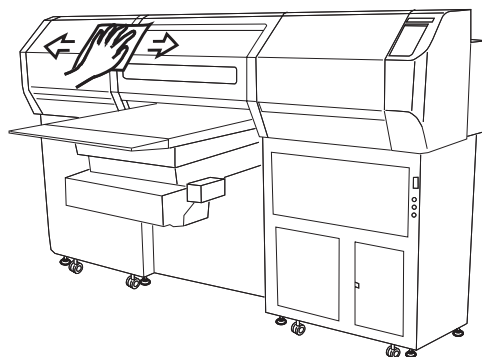
お手入れ上のご注意



- ★ 本装置は、絶対に分解しないでください。感電および破損する原因になります。
- ★ 本装置の内部に水気が入らないようにしてください。内部が濡れると、感電および破損する原因になります。
- ★ お手入れは、主電源スイッチをオフにし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。思わぬ事故が発生する原因になります。
- ★ UV ランプの温度が完全に下がってから、お手入れを行ってください。火傷をする危険性があります。
- ★ ベンジン、シンナーや研磨剤の入った薬品は使用しないでください。カバーの表面が変質・変形する恐れがあります。
- ★ 本装置の内部に潤滑油などを注油しないでください。プリンタ内部が故障する恐れがあります。

テーブル、外装のお手入れ

本体の外装が汚れた場合は、柔らかい布に水または水で薄めた中性洗剤を含ませ、堅くしぼってから拭き取ってください。テーブル上のホコリも清掃してください。



画質不良が解消されない場合は[ステーションメンテ]

ステーション内部の汚れがひどい場合、またヘッドのクリーニング機能（⇒ P.2-20）を実行しても画質不良が解消されない場合は、洗浄キットを使用して吸引ノズルとキャップのクリーニングを行います。

洗浄キットには、以下の物が入っています。アルコール、水等は使用しないでください。

- ・メンテナンス用洗浄液（SPC-0385）
- ・手袋 ・清掃棒(SPC-0384) ・ゴーグル



★ 清掃をする場合は、必ず付属のゴーグルと手袋を着用してください。インクが目に入る場合があります。



注意

★ キャリッジを手でキャッピングステーションから出さないでください。キャリッジは操作キーを使用して動かします。

ステーション内部の洗浄

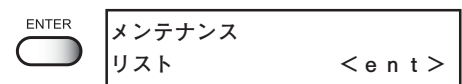
1. ローカルモードから、【FUNCTION】キーを押します。



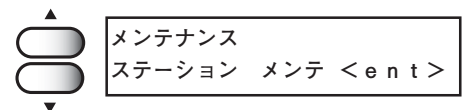
2. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、[メンテナンス]を選びます。



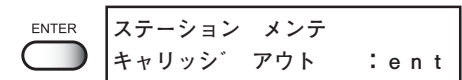
3. 【ENTER】キーを押します。



4. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、[ステーションメンテ]を選びます。



5. 【ENTER】キーを押します。




- 6 【ENTER】キーを押します。
キャリッジが移動します。

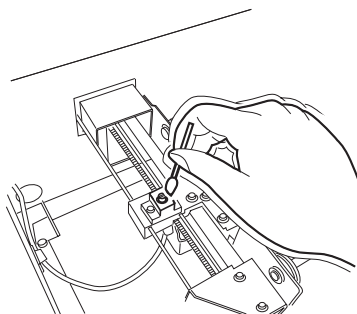


7. 右側のメンテナンスカバーを開けます。



8. メンテナンス用洗浄液を含ませた専用の清掃棒で吸引ノズルのよごれを取り除きます。

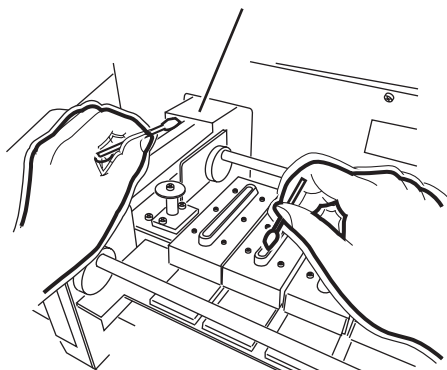
 ★ 吸引ノズルはていねいにクリーニングしてください。
注意



- 汚れ、曲がりかひどい場合は、新しい吸引ノズルと交換する必要があります。販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
- 専用の清掃棒をお求めの場合は、販売店または弊社営業所までお問い合わせください。

9. キャップのゴムや、吸引ノズルカバーの内側に付着したインク等を専用の清掃棒で拭き取ります。

吸引ノズルカバー



10. メンテナンスカバーを閉め、【ENTER】キーを押します。

初期動作を実行し、ローカルモードに戻ります。



ステーションメンテ
シュウリョウ : e n t

シバラク オマチクダサイ

<<ローカル>>

フラッシングトレイのクリーニング

フラッシングトレイにたまった廃インクをふき取ります。

クリーニングに必要な物：

メンテナンス用洗浄液（SPC-0385）・手袋・紙タオル・ゴーグル



★ 清掃をする場合は、必ず付属のゴーグルと手袋を着用してください。インクが目に入る場合があります。



注意

★ キャリッジを手でキャッピングステーションから出さないでください。キャリッジは操作キーを使用して動かします。

★ フラッシングトレイにたまった廃インクは、こまめに取り除いてください。UV ランプの光に当たり、固まって除去できなくなる場合があります。

操作手順

1. ローカルモードから、【FUNCTION】キーを押します。

<<ローカル>>

FUNCTION



FUNCTION

データクリア

<ENT>

2. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、[メンテナンス]を選びます。



FUNCTION

メンテナンス

<ENT>

3. 【ENTER】キーを押します。

ENTER



メンテナンス

リスト

<ent>

4. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、[ステーションメンテ]を選びます。



メンテナンス

ステーション

メンテ

<ent>

5. 【ENTER】キーを押します。

ENTER



ステーション

メンテ

キャリッジ

アウト

:ent

6. 【ENTER】キーを押します。

キャリッジがテーブル上に移動します。

ENTER



3

日常のお手入れ

7. 左側のメンテナンスカバーを開けます。



8. フラッシングトレイにたまった廃インクをメンテナンス用洗浄液を含ませた紙タオルで拭き取ります。
固まったインクがある場合は、軽くたたいて取り除きます。



★ UV ランプの光によって強固に固まり、除去できなくなったインクがある場合、固まったインクによってヘッドを破損する恐れがあります。この場合には、新しいフラッシングトレイと交換する必要があります。販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。

9. メンテナンスカバーを閉め、【ENTER】キーを押します。
初期動作を実行し、ローカルモードに戻ります。



ステーション メンテ
シュウリョウ : e n t

シバラク オマチクダサイ

<<ローカル>>

廃インクタンクのインクが溜まったら

ヘッドクリーニングなどで使用したインクは、廃インクタンクに溜まります。



- 予備の廃インクタンクをお求めの場合は、お近くの販売店または弊社営業所までお問い合わせください。
- 廃インクを移すポリエチレンタンクをご用意ください。



★ ヘッドクリーニング中などのインク排出中の場合は、排出が終了してから作業を行ってください。

廃インクがタンクに一杯になると、次のエラーを表示します。

！ハイインクタンク
ハイインクタンク フル

交換手順

1. 廃インクボックスカバーを開けます。
2. 廃インクタンクを下げながら、手前に引き出します。



注意

- ★ 廃インクタンクを引き出す際に、廃インクを飛ばさないように、廃インクタンクの口をティッシュなどで押さえながら、ゆっくり引き出してください。
- ★ インクで床を汚さないように、下に紙を敷いてから廃インクタンクを交換してください。



3. 廃インクを別のポリエチレンタンクに移します。



- ★ 廃インクは、使用している地域の条例に従って処分してください。

4. 空にした廃インクタンクを再度セットします。
廃インクボックスカバーを締めます。



注意

- ★ 空の廃インクタンクを入れる場合、ケースの角で指などのけががないように注意して入れてください。



5. 【ENTER】キーを押して、終了します。
ローカルモードに戻ります。



ハイインク タンク
タンクシヨリカンリヨウ : e n t

<<ローカル>>

3

日常のお手入れ

温水装置の水を交換する[オンスイロカン]

インクの状態を適温に保つため、温水装置を稼働させます。温水装置内の温水タンクに、不凍液と水をいれます。半年に一回、必ず確認してください。

補充・交換に関する注意



- ★ 水のつぎたしはできません。
- ★ 水と不凍液の混合液の割合は、水 2 : 不凍液 1 にしてください。その後補充、または交換を行ってください。
- ★ 不凍液を入れず、水だけを温水タンクに入れた場合は、ヘッドが故障する原因になります。
- ★ 温水装置に必要な水量、温水タンク内の汚れを確認するために半年に一回、温水装置の確認をしてください。
- ★ 温水タンクの水不足が頻繁に起きる場合は、販売店または弊社営業所までサービスコールしてください。
- ★ 不凍液と混ぜた水は、使用している地域の条例に従って処分してください。



不凍液の取り扱い上のご注意



- ★ 不凍液を取り扱う場合は、必ず付属のゴーグルおよび手袋を着用してください。



- ★ 不凍液は、弊社専用の不凍液をご使用ください。温水装置が故障する恐れがあります。



- ★ 不凍液には直接ふれないようにしてください。誤って不凍液を付けてしまったときは、石けんを使って、すぐに流水で洗い落としてください。万一、不凍液が目に入ったときは、大量の流水で洗い、医師に相談してください。
- ★ 不凍液は冷暗所で保存してください。
- ★ 不凍液は、子供の手の届かない場所に保管してください。
- ★ 不用となった不凍液は、産業廃棄物処理業者に内容物を明確にして処理を委託してください。
- ★ 不凍液をご使用前に、必ず製品安全性データシート (MSDS) をお読みください。



- 予備の温水タンクをお求めの場合は、お近くの販売店または弊社営業所までお問い合わせください。
- 廃温水タンク水を移すポリエチレンタンクをご用意ください。
- 温水タンクの水が不足すると、次のエラーを表示します。エラーを表示した場合は、下記の手順と同様に、水を交換してください。

ERROR 70
ミズブソク

不凍液の補充・交換方法

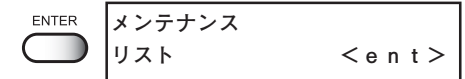
1. ローカルモードから、【FUNCTION】キーを押します。



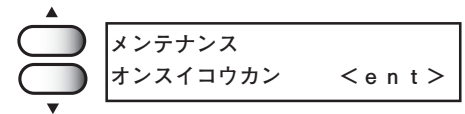
2. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、【メンテナンス】を選びます。



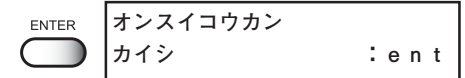
3. 【ENTER】キーを押します。



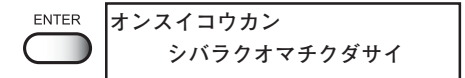
4. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、【オンスイコウカン】を選びます。



5. 【ENTER】キーを押します。



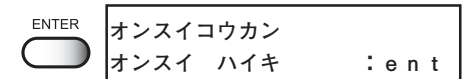
6. 【ENTER】キーを押すと、温水装置の冷却作業を開始します。



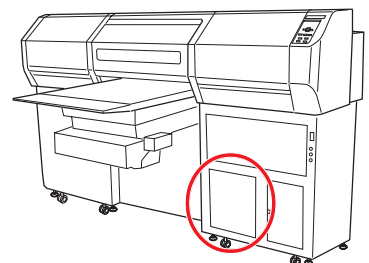
注意 ★「シバラクオマチクダサイ」が消えるまえに、温水装置は触らないでください。高温のため、火傷をすする恐れがあります。

また、交換作業前に本装置を使用していた場合、「シバラクオマチクダサイ」が消えるまで約20分程かかります。

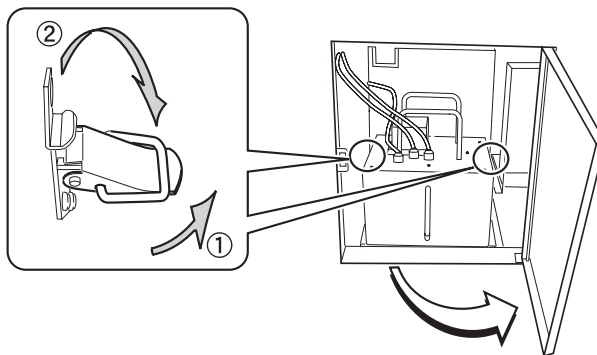
7. 【オンスイハイキ】が表示されたら、【ENTER】キーを押します。




8. 温水装置カバーを開けます。

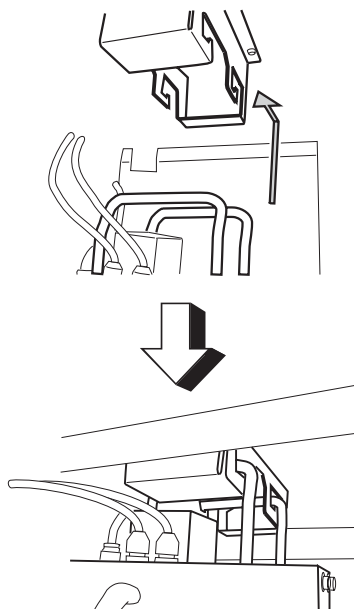


9. カバーの両サイドにあるキャッチクリップを外します。




10. 温水装置カバーを持ち上げ、温水装置のハンガーをフックにかけます。

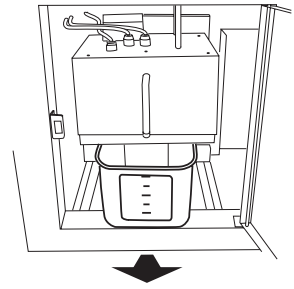
 **注意** ★ フックにハンガーを掛ける際は、ケーブル、チューブを折り曲げたり、無理な力をかけて引っ張らないでください。温水装置の故障の原因となります。




11. 温水タンクを取り出します。

 ★ 水はこぼれないように交換してください。万一、こぼれてしまった場合は、必ずふき取ってください。


注意



12. 廃温水タンク水を別のポリエチレンタンクに移します。

 ★ 水はこぼれないように交換してください。万一、こぼれてしまった場合は、必ずふき取ってください。


注意

 ★ 廃温水タンク水は、使用している地域の条例に従って処分してください。

13. 空の温水タンクを温水装置にセットします。


14. 温水装置を元に戻し、キャッチクリップを締めて、カバーを閉じます。

15. 【ENTER】キーを押します。
本装置内にたまった不凍液を排出します。

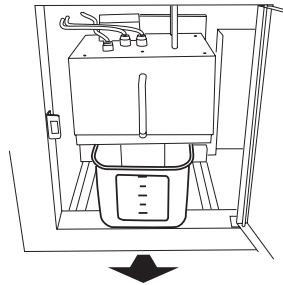
ENTER  オンスイコウカン
タンク セット : e n t

オンスイコウカン
シバラクオマチクダサイ


16. 【オンスイハイキ】が表示されたら、【ENTER】キーを押します。


ENTER  オンスイコウカン
オンスイ ハイキ : e n t

17. 温水装置カバーを開け、温水タンクを取り出します。




18. 再度、廃温水タンク水を別のポリエチレンタンクに移します。

 ★ 水はこぼれないように交換してください。万一、こぼれてしまった場合は、必ずふき取ってください。

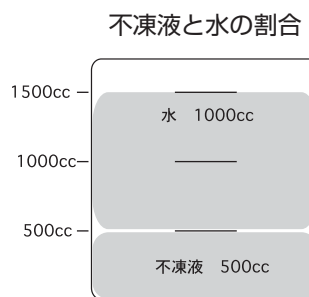
 ★ 廃温水タンク水は、使用している地域の条例に従って処分してください。

19. 温水タンクを洗います。

 ★ 中性洗剤を使用してタンクを洗った場合は、よく水でタンクをゆすいでください。



20. 温水タンクに不凍液と水を入れます。
付属の不凍液 500cc を入れた後に、水 1000cc の水を入れてください。



21. 温水タンクと温水装置を元に戻し、キャッチクリップを締めて、カバーを閉じます。

22. 【ENTER】キーを押します。

ENTER
オンスイコウカン
フトウエキ セット : e n t

23. 【END】キーを押し、【オンスイコウカン】を終了します。

END
メンテナンス
オンスイコウカン < e n t >

白インク（ホワイト）の定期メンテナンス[ホワイトメンテナンス]

白インク（ホワイト）は他のインクに比べて沈殿しやすい性質があります。本装置を2週間以上使用しない場合、プリンタ内部またはカートリッジ内部で沈殿してしまう場合があります。沈殿した場合、作図時にノズル詰まりが発生し、正常な作図結果が得られなくなります。これを防ぐため、また白インクの状態を良好に保つために、必ず下記の定期的メンテナンスを行ってください。



- ★ 一週間に一度、始業前に必ず以下のメンテナンスをしてください。
- ★ インクカートリッジは、弊社推奨のインクカートリッジをご使用ください。

操作手順

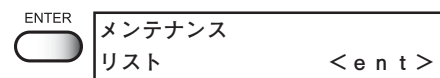
1. ローカルモードから、【FUNCTION】キーを押します。



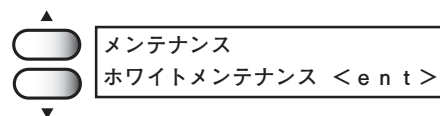
2. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、[メンテナンス]を選びます。



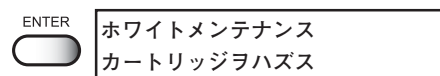
3. 【ENTER】キーを押します。



4. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、[ホワイトメンテナンス]を選びます。

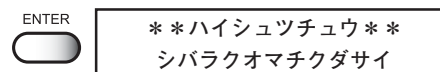


5. 【ENTER】キーを押します。



6. 白インクカートリッジをインクステーションから抜きます。

7. 【ENTER】キーを押します。
白インクの排出作業を行います。



8. 白インクカートリッジを 20 回以上ゆっくりと左右に振ります。

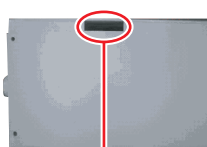
振ったときにインクが漏れ出すのを防ぐため、手袋を着用して紙タオルなどでカートリッジ上面の A 部とカートリッジ底面の B 部をしっかりと塞ぎ、ゆっくりとインクを流すように左右に 20 回以上振ります。



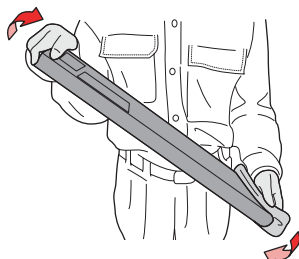
- 強く振りすぎると内部のパックを傷つけ、インク漏れの原因となることがあるため、慎重に行ってください。
- インク残量が少ないと十分にかくはんできない場合があるので、カートリッジが縦になるまで傾けてください。



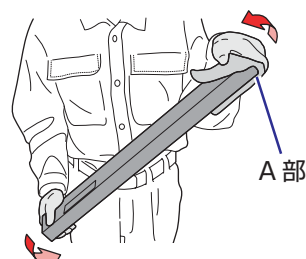
A 部(針の差し口)



B 部(底面の隙間)



繰り返す



A 部

紙タオルでしっかりと押さえ
てゆっくり振る

9. 白インクカートリッジをインクステーションに戻します。



ホワイトメンテナンス カートリッジリセット

ジュウテンチュウ シバラクオマチクダサイ

10. 【ENTER】キーを押し、インク充填を開始します。

白インク充填終了後に、右記表示になります。

メンテナンス ホワイトメンテナンス <ent>

作図中のインク滴のボタ落ちを防ぐためには

ヘッドガードプレートのクリーニング

キャリッジ下面のヘッドガードプレートには、作図によるインク滴が発生することがあります。インク滴のボタ落ちによりメディアが汚れたり、作図不良の原因となりますので、定期的にキャリッジ下面をクリーニングしてください。

クリーニングに必要なもの： 清掃棒（SPC-0384）、
メンテナンス洗剤（SPC-0385）、手袋、メガネ



- ★ 必ず電源をオフにしてから、クリーニングを行ってください。
- ★ 十分にUV照射器具が冷えてから作業を行ってください。

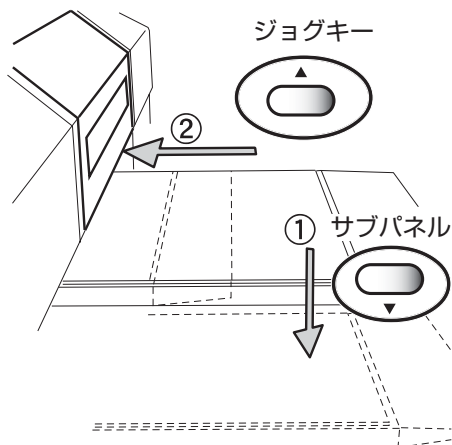
操作手順

1. ローカルモードになっていることを確認します。

<<ローカル>>

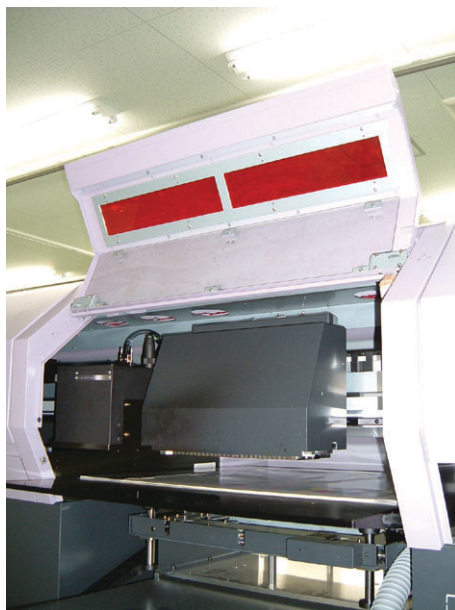
2. サブパネルの【▼】キーを押して、テーブルを下げます。

3. ジョグキー【▲】を押して、テーブルを奥側に移動させます。



4. ジョグキー【▶】を押して、ヘッドをテーブル上まで動かします。

5. 本装置の電源をオフにして、正面カバーを開けます。



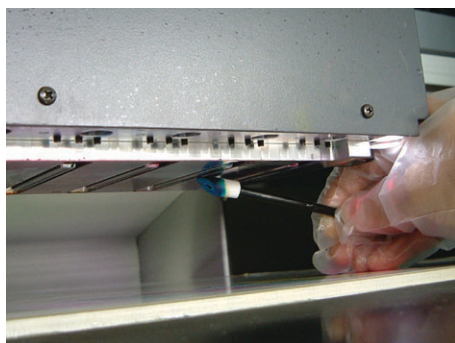
6. メンテナンス洗淨液を含んだ清掃棒でキャリッジ下面をクリーニングします。
清掃棒の背部分を使って、キャリッジ下面をクリーニングします。



★ ヘッド、ノズルには絶対に触らないでください。破損する原因になります。



● 専用の清掃棒をお求めの際は、販売店または弊社営業所までお問い合わせください。



7. クリーニング終了後、正面カバーを閉め、電源をオンにします。

ノズル面のクリーニング

ヘッドのノズル面に、作図によるインク滴が発生したり、インク滴のボタ落ちによりメディアを汚した場合に実行してください。

操作手順

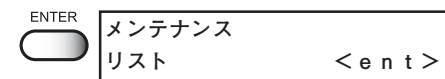
1. ローカルモードから、【FUNCTION】キーを押します。



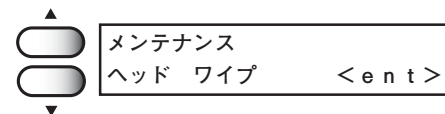
2. ジョグキー【▲】または【▼】を押し、[メンテナンス]を選びます。



3. 【ENTER】キーを押します。



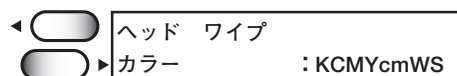
4. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、[ヘッド ワイブ]を選びます。



5. 【ENTER】キーを押します。

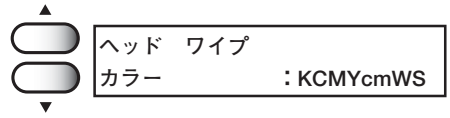


6. ジョグキー【◀】または【▶】を押し、インク滴が付着しているヘッドを選択します。



作図中のインク滴のボタ落ちを防ぐためには

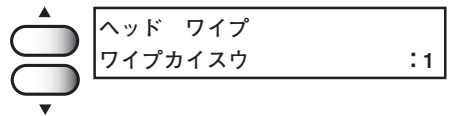
7. ジョグキー【▲】または【▼】を押し、ワイプのオン/オフ表示します。
OFF表示は-となります。



8. 【ENTER】キーを押します。



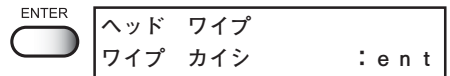
9. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、ワイピングの回数1～9回を選びます。



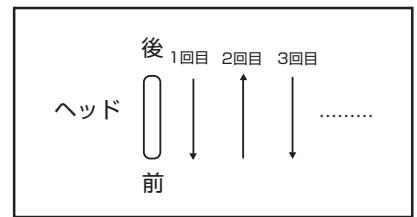
10. 【ENTER】キーを押します。



11. 【ENTER】キーを押します。



12. ワイピングが開始されます。



吸引の動作

フィルタのお手入れ

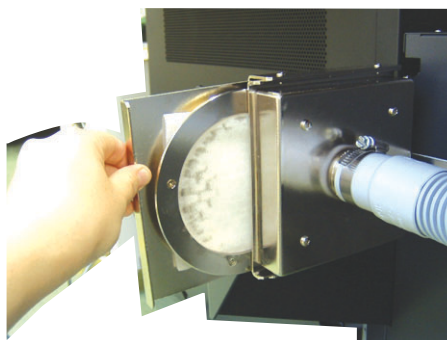
本装置には、テーブル用にフィルタが付いています。

フィルタがつまると、メディアの吸着力が落ちます。ホコリの付着は、掃除機などで除去してください。インク付着により、目詰まりが始まっている場合は、フィルタを交換してください。

フィルタ：型番 A101437

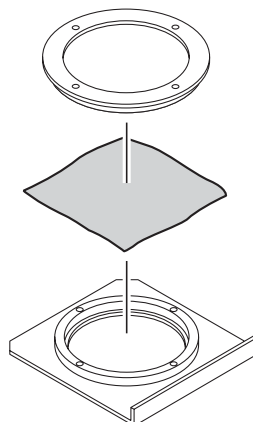
1. バキュームスイッチをオフにします。

2. フィルタユニットからフィルタホルダーを引き抜き、取り外します。



3. フィルタホルダーから古いフィルタを取り出し、新しいフィルタと交換します。

フィルターは、四つ折り状態のまま位置を合わせ、全周をはさみこみ固定します。



4. フィルタホルダーをフィルタユニットに取り付けます。

フィルタユニットにホルダを戻します。

4章

ファンクション機能について

ファンクション機能について説明します。

本章の内容

ファンクションメニューについて	4-2
複数の作図条件をまとめて登録する（タイプの選択）	4-4
各設定機能を登録する	4-5
トンボ検出の動作設定 [トンボセンサー]	4-8
UV照射器具の消灯 [UV ショウトウ]	4-14
ディスプレイの表示言語を変更する [DISPLAY]	4-15

ファンクションメニューについて

ファンクションメニューとは、本装置の作図条件を設定するメニューのうち、ファンクション（作図機能）について設定する項目のことを言います。ファンクションメニューの構造と操作を覚えて、作図条件を設定しましょう。

（ファンクションメニューの[メンテナンス]については、「5章メンテナンス機能」をお読みください。）

ファンクションメニューの設定は、一連の作図設定をまとめて使用可能にするために、まず最初に設定する作図方法をタイプ 1 から 4 に割り当ててから、各詳細設定を行います。

作図条件の設定の前に

作図条件の各設定をする前に、ファンクションメニューの基本操作について説明します。以下の 3 点を確認してから、ファンクションメニューの作図条件の各設定をします。

1. メニューモードが《ローカル》モードになっているかを確認します。
2. ディスプレイに表示する言語が選択してあるか確認します。
3. 作図条件の一連の設定を記憶する[タイプ]を選択します。

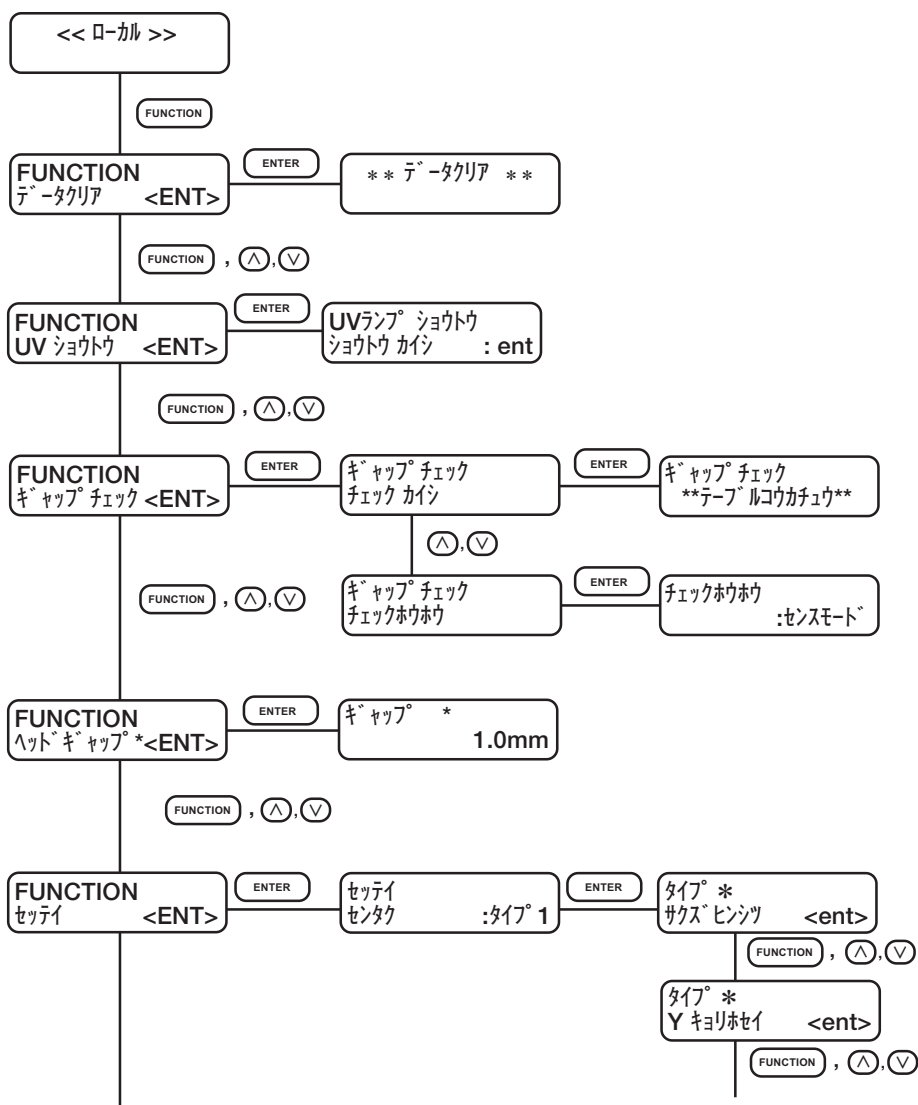
ファンクションメニュー設定の前に基本操作の確認をして、各作図条件を設定します。

メニューモードを確認する

ファンクションメニューの設定をする前に、メニューモードを確認します。メニューモードは、ローカルモードまたはファンクションモードから開始します。ディスプレイが、《ローカル》または《FUNCTION》になっているかを確認します。

メニューの基本操作

ここでは、各モードの切り替え、メニューの操作方法について説明します。
 各メニューに入る操作は、下図のようになります。
 詳細なメニュー構造は、付録をご覧ください。



複数の作図条件をまとめて登録する（タイプの選択）

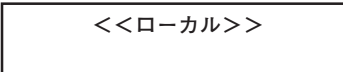










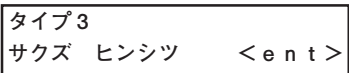
作図条件をファンクションモードで設定した場合に、その一連の作図条件をまとめてプロットに登録します。一連の作図条件は、タイプ 1 から 4 までの 4 種類を登録し、次回使用する場合に[タイプ]ごとの作図条件を使用可能です。使用するメディアや、作図方法に合わせて作図条件をタイプごとに設定しておくことと使用する際に便利です。

ここでは、作図条件をどのタイプに割り当てて登録するかを説明します。

選択可能なタイプは 4 種類あります。



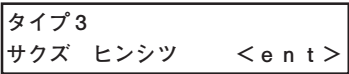
[タイプ 1] [タイプ 3]
[タイプ 2] [タイプ 4]

操作手順

1. ローカルモードになっていることを確認します。

2. 【FUNCTION】 キーを押します。
 
3. ジョグキー 【▼】 を押し、[セッテイ]を選択します。
 
4. 【ENTER】 キーを押します。
 
5. ジョグキー 【▲】 または 【▼】 を押して、タイプ 1 から 4 を選びます。

 
6. 【ENTER】 キーを押します。
各作図条件を設定します。(⇒ P.4-5)
 

タイプの変更

既にタイプ 1 から 4 の各作図条件を登録してある場合は、タイプを選択するだけで、作図に合わせた設定に切り替えて使用できます。

1. 上記操作手順 1 から 5 を実行します。
使用するタイプを選択します。

2. 【END】 キーを押します。
選択したタイプの作図条件で作図が行えます。
 

各設定機能を登録する

ファンクションモードには、9項目の設定機能があります。

また、設定機能の中には9項目の設定機能があります。下記は設定項目の内容を示しています。

機能名称	概要	参照	
データクリア	受信済みのデータを消去します。	P.2-24	
UV ショウトウ	UV ランプを消します。	P.4-14	
ギャップチェック	メディアをセットする場合のギャップチェックを行います。	P.2-13	
ヘッドギャップ	プリントヘッドとテーブルの高さを調整します。	P.2-9	
セッテイ	タイプ	作図条件をまとめて登録します。	P.4-4
	サクズヒンシツ	作図画像の品質を設定します。	P.4-5
	Y キョリホセイ	作図データのスケールを微調整します。	P.4-5
	UV コウリョウ	UV ランプの光量を調整します。	P.4-6
	リフレッシュ	プリントヘッドのリフレッシュを行います。	P.4-6
	ユウセンジュンイ	コンピュータと本装置の設定の優先順位を決めます。	P.4-6
	カサネヌリ	インクの重ね塗りをを行います。	P.4-6
	カラーパターン	作図中のノズル詰まりを確認できます。	P.4-7
	UV スキャン ツイカ	作図開始・終了付近でのUV 照射を設定します。	P.4-7
	ミリ/インチ	表示単位を決定します。	P.4-7
セッテイリセット	設定条件を初期化します。	P.4-7	
メンテナンス	お手入れに関する操作を行います。	P.5-1 ~	
ゲンテン	作図原点を設定します。	P.2-15	
トンボセンサー	トンボ検出に必要な設定とトンボ検出をします。	P.4-8	
DISPLAY	表示言語を設定します。	P.4-15	

[サクズ ヒンシツ]

作図品質を選択します。

【ヒョウグン】 :標準的な作図品質

【キイ】 :高品質・低スピード

【ハイ】 :高スピード・やや劣る品質

[Y キョリホセイ]

出力時に、作図データのスケールを微調整します。

調整値:± 0.39%

[UV コウリョウ]

UV ランプの硬化が弱くなった場合に、UV ランプの光量を調整します。通常、[ヒョウギョウ] に設定します。また、[レイヤ] を設定すると最大 4 レイヤまで、レイヤごとに UV 光量を設定できます。(⇒ P.5-21)

[ツヨイ]: 強い光量

[ヒョウギョウ]: 標準的な光量

[ヨイ]: 弱い光量

[ナ]: UV ランプのシャッターを閉じて印刷する

[イナナ]: 印刷せずにツヨイ光量で照射する

[レイヤ]: 版 (レイヤ) 毎に UV 光量を設定する。最大 4 版まで設定が可能

[リフレッシュ]

プリントヘッドのリフレッシュを行います。

ホコリが多い場所や、湿度が低い場所で本機能を使用し、ヘッドのインク詰まりを防ぎます。作図中、待機中の 2 パターンで設定できます。レベル数が大きいほど、リフレッシュ回数が多くなります。

リフレッシュ回数: レベル 0 ~ 3

(レベル 0 では、リフレッシュを行いません。)

[ユウセンジュンイ]

2 機能 (作図品質 [カク ヒンツウ] / 重ね塗り [カネヌリ]) をそれぞれ、本装置で設定した値を優先にするか、コンピュータで設定した値を優先にするか選択します。

[ホト]: コンピュータ (出力ソフト) の設定を優先して作図します。

[ハネ]: プロッタ (本装置) の設定を優先して作図します。

[カサネヌリ]

重ね塗りを設定します。

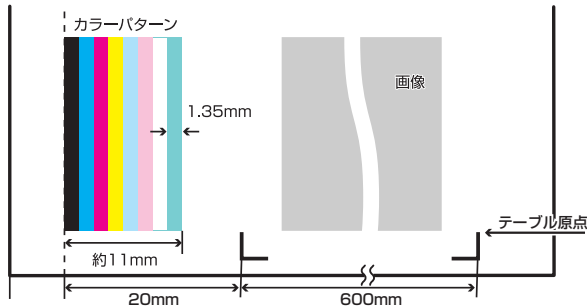
カサネヌリ回数: 1 ~ 9 回

[カラーパターン]

作図範囲の外側に塗りつぶしパターンを作図し、作図中のノズル詰まりを確認できます。

[ON]: 有効作図エリアの左端より +20mm の位置からパターン作図します。
8ヘッド使用時には、約 11mm の幅になります。

[OFF]: カラーパターンを作図しません。



[UV スキャン ツイカ]

作図終了した付近では、UV 照射不足により UV インクが未硬化の場合があります。
この場合、作図終了付近で UV を照射させながらスキャンを行う設定をします。

[UV スキャン ツイカ]: 0～9回
(0ではスキャンしません。)

作図中は、UV ランプの熱によりメディアが暖められます。

作図開始した付近ではメディアが暖められず、UV インクの密着性が低い場合があります。

この場合、作図開始付近で UV を照射させながらスキャンを行う設定をします。

[UV スキャン マエ]: 0～9回
(0ではスキャンしません。)

[ミリ/インチ]

ディスプレイに表示する設定値の単位を設定します。

出荷時は[ミリ]に設定してあります。

[ミリ]: 設定値の単位をミリで表示します。

[インチ]: 設定値の単位をインチで表示します。

[セッテイ リセット]

設定した作図条件を工場出荷時の設定値に戻します。タイプごとにリセットします。

ENTER: 設定をリセットします。

END: 設定をリセットしません。

トンボ検出の動作設定 [トンボセンサー]

トンボ検出をする前に、トンボ検出に必要な設定をします。
またトンボセンサーの反応チェックを行います。
トンボ検出は、作図する際に行われます。(→ P.2-21)

トンボ検出の動作を設定する [トンボセッテイ]

シートに印刷してあるトンボを自動で検出します。
セットしたシートの傾き／作図原点の補正を行い、印刷済みのメディアにプリントすることができます。トンボの形状は、下記の2タイプに対応しています。

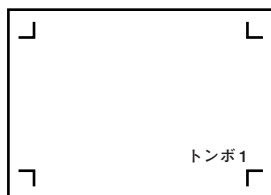


- ★ [ケンシュツ] 動作の初期値は OFF になっています。そのため、作図時には、メッセージを表示しません。
- ★ トンボを検出すると、トンボ 1 の位置に原点を設定します。ジョグキーで他の場所に原点を設定すると、その原点が有効になります。

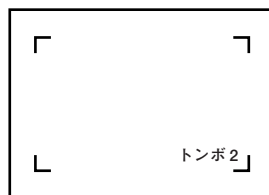
トンボマークの条件

印刷済みのトンボは、次の条件を満たしている必要があります。

- ・トンボの1辺の長さは、4～40mm であること
- ・トンボの線幅は、0.3～0.5mm であること。
- ・トンボとトンボの間には、汚れや画像が無いこと。(誤検出の原因になります。)

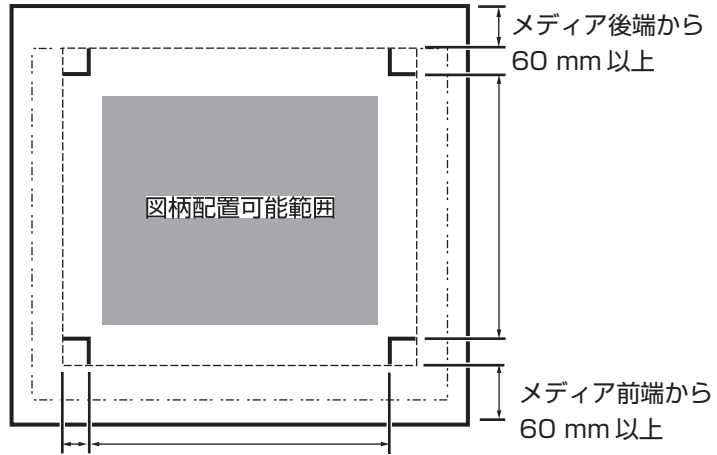


トンボ形状：タイプ1



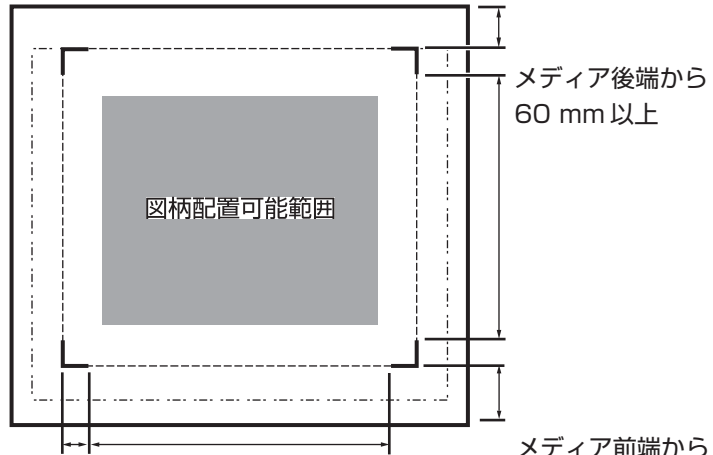
トンボ形状：タイプ2

トンボ形状：タイプ1



B: 50 mm 以上

トンボ形状：タイプ2

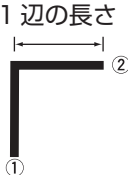

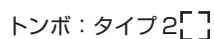
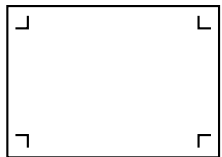
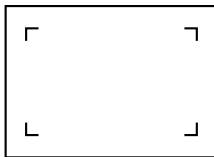


B: 50 mm 以上

トンボ検出の設定値：

トンボを検出する際に、次の4種類の動作を設定します。

下線は、初期値を表します。


設定項目	設定値	内容
トンボ検出	<u>OFF</u>	通常のメディアにデータ作図またはコピー作図する場合に設定します。
	マイカイ	トンボ位置が作図ごとに異なる場合、データ作図時またはコピー作図時ごとに、ライトポインタを使用してトンボ検出を行います。
	1カイ	同じ位置のトンボを使用してデータ作図またはコピー作図をする場合、ライトポインタを使用してトンボ検出位置を確認すると、次回は自動的にトンボ検出を行います。この機能を設定する場合は、メディアを同じ原点位置においてください。本装置電源をオンにした時またはデータクリアを実行した後は、必ず一度トンボ検出を行います。
サイズ	4～40mm	トンボ1辺の長さを設定します。 縦・横の線の長さが違う場合は、短い方に設定します。 
タイプ	<u>タイプ1</u> タイプ2	2種類のトンボの形状から選択します。 トンボ：タイプ1  トンボ：タイプ2   
スピード	1～10cm/s	トンボセンサーがトンボを検出する時の速度を設定します。初期値は5cm/sとなっています。

トンボ検出のための動作設定


1. ローカルモードになっていることを確認します。

<<ローカル>>


2. 【FUNCTION】 キーを押します。

FUNCTION 	FUNCTION データクリア <ENT>
---	-------------------------------


3. ジョグキー【▼】を押し、[トンボセンサー]を選択します。

	FUNCTION トンボセンサー <ENT>
---	--------------------------------



4. 【ENTER】 キーを押します。


ENTER 	トンボセンサー トンボセッテイ <ent>
--	-------------------------------

5. [トンボセッテイ]を選択し、【ENTER】キーを押します。


ENTER 	トンボセッテイ ケンシュツ : OFF
--	-----------------------------

6. ジョグキー【▲】【▼】を押し、[ケンシュツ]をするために、[OFF]以外を選択します。



 	トンボセッテイ ケンシュツ : マイカイ
--	------------------------------

- | | |
|--|----------------------------------|
|  | ● 「トンボ検出の設定値」を参照してください。(⇒P.4-10) |
|--|----------------------------------|


7. 【ENTER】 キーを押します。

ENTER 	トンボセッテイ サイズ : 10mm
--	----------------------------



8. ジョグキー【▲】【▼】を押し、[サイズ]の数値を入力します。

 	トンボセッテイ サイズ : 15mm
--	----------------------------


9. 【ENTER】 キーを押します。

ENTER 	トンボセッテイ ケイジョウ : TYPE1
--	-------------------------------



10. ジョグキー【▲】【▼】を押し、[ケイジョウ]を選択します。

 	トンボセッテイ ケイジョウ : TYPE2
--	-------------------------------


11. 【ENTER】 キーを押します。

ENTER 	トンボセッテイ スピード : 5cm/s
--	------------------------------

12. ジョグキー【▲】【▼】を押し、[スピード]の数値を入力します。

 	トンボセッテイ スピード : 10cm/s
--	-------------------------------

13. 【ENTER】 キーを押します。

ENTER 	トンボセンサー トンボセッテイ <ent>
--	-------------------------------

トンボセンサーの反応を確認する [トンボチェック]

トンボセンサーのトンボ読み取りチェックを行います。

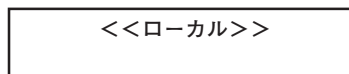
トンボマークの条件

印刷済みのトンボは、次の条件を満たしている必要があります。

- ・トンボの1辺の長さは、4～40mm であること
- ・トンボの線幅は、0.3～0.5mm であること。
- ・トンボとトンボの間には、汚れや画像が無いこと。(誤検出の原因になります。)

設定手順

1. ローカルモードになっていることを確認します。



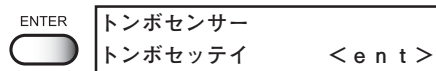
2. [FUNCTION] キーを押します。



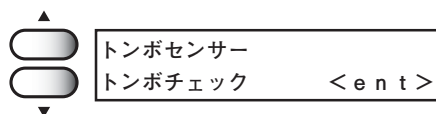
3. ジョグキー【▼】を押し、[トンボセンサー]を選択します。



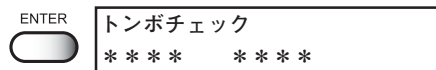
4. [ENTER] キーを押します。



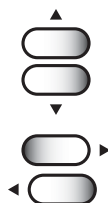
5. ジョグキー【▲】または【▼】を押し、[トンボチェック]を選択します。



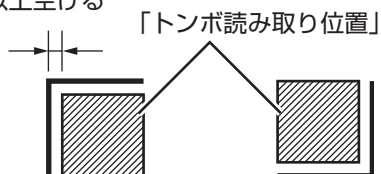
6. [ENTER] キーを押します。



7. ジョグキー【▲】、【▼】、【◀】または【▶】を押し、「トンボ読み取り位置」まで、ライトポイントを移動します。



1mm 以上空ける



トンボ形状：タイプ1

タイプ2

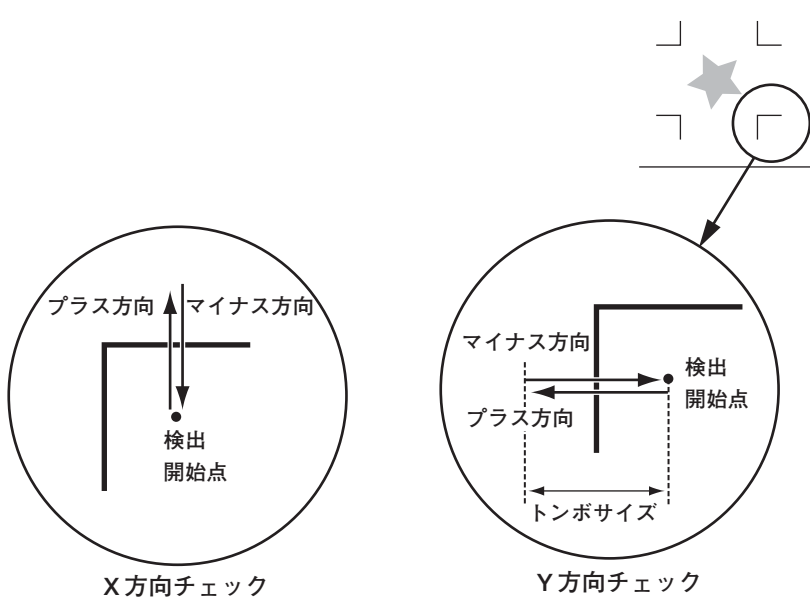
8. 【ENTER】 キーを押します。
 トンボ読みとりチェック動作を開始します。



トンボが検出されない場合はエラーを表示します。

9. トンボ読み取りチェックが終了します。

トンボセンサーの動き



UV 照射器具の消灯 [UV ショウトウ]

UV 照射器具は 30 分以上作図がないと自動的に消灯しますが、長い間隔をあけて作図をする場合、UV ランプの寿命を長く保つために、任意で UV ランプを消しておくことができます。再度作図が始まると、UV 照射器具は自動的に動作し、UV ランプが点灯します。



- 消灯までの時間を設定することができます。設定については「UV ランプの消灯時間を設定する」P.5-19 をご覧ください。消灯までの時間の初期値は 30 分です。
- 「ショウトウジカン」の設定が「ON」になっているまたは、長時間作図をしない場合（30 分以上）は、このメニューで UV ランプを消灯してください。
- ランプ消灯をしてから再点灯し、作図可能になるまで、10 分間ほどかかります。

操作手順

1. ローカルモードになっていることを確認します。

<<ローカル>>

2. [FUNCTION] キーを押します。

FUNCTION

FUNCTION

データクリア

<ENT>

3. ジョグキー [▲] または [▼] を押し、[UV ショウトウ]を選択します。



FUNCTION

UV ショウトウ

<ENT>

4. [ENTER] キーを押します。



UV ランプ ショウトウ

ショウトウ カイシ :ent

5. [ENTER] キーを押します。
UV 照射器具の消灯を開始します。



6. ランプが消灯すると完了メッセージを表示して、手順 3 に戻ります。

UV ランプ ショウトウ

ショウトウ カンリョウ

ディスプレイの表示言語を変更する [DISPLAY]

ディスプレイに表示する言語は、日本語または英語を選択できます。
プロッタの初期値は[Japanese]です。表示言語を英語にしてみましょう。

操作手順

1. ローカルモードになっていることを確認します。

<<ローカル>>

2. 【FUNCTION】 キーを押します。

FUNCTION



FUNCTION
データクリア <ENT>

3. ジョグキー【▲】を押し、[DISPLAY]を選択します。



FUNCTION
DISPLAY <ENT>

4. 【ENTER】 キーを押します。

ENTER



DISPLAY
センタク : JAPANESE

5. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、表示する言語を選びます。



DISPLAY
センタク : ENGLISH

6. 【ENTER】 キーを押します。
ローカルモードに戻ります。

ENTER



<< LOCAL >>

4

5章

メンテナンス機能

本装置を適正にお使いいただくよう、作図品質の悪化の解決や、UVランプの交換などのメンテナンスについて説明します。

本章の内容

メンテナンスについて	5-2
設定状態を作図する [リスト]	5-3
メディアの厚みが変わったら [トット仔ホエイ]	5-4
ステーション内部の清掃をする [キャリッジアウト]	5-6
ヘッドクリーニングでノズル詰まりが復旧しない場合 [インクシュテン] ..	5-7
ノズル面にインク滴が付着するのを防ぐ [イキワ化°ソク]	5-8
インクセットを変更する [インクセット]	5-9
インクを交換する [インクウカ]	5-14
電源投入時の微量クリーニングを選択する [ヘッドメンテナンス]	5-16
UVランプを交換する [UVランプ°]	5-17
UVランプの照射時間をリセットする [タイマーリセット]	5-18
UVランプの消灯時間を設定する [シャウトウ°カ]	5-19
UV硬化が弱くなったときのチェック方法 [ウカチェック]	5-20
UV照度の確認方法	5-23
特色インクのノズル詰まりを防止する [トクショクリフレッシュ]	5-28
本装置の情報を表示する [マシン°ヨウシヨ]	5-29
キャップゴムの種類を設定する [キャップ°ゴム]	5-30

メンテナンスについて

メンテナンスは、本装置を適正にお使いいただくためのお手入れに関する操作をいいます。メンテナンスは、ファンクションメニューの[メンテナンス]を選択し、各詳細を設定してから実行します。

メンテナンス機能の導入について

メンテナンス機能を実行する場合、操作パネル上で以下の操作が必要です。メンテナンス機能への導入操作を覚え、各メンテナンスを実行します。

操作手順

1. ローカルモードになっていることを確認します。

<<ローカル>>

2. [FUNCTION] キーを1回押します。

FUNCTION
FUNCTION
データクリア <ENT>

3. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、
[メンテナンス]を選択します。

▲
FUNCTION
メンテナンス <ENT>
▼

4. [ENTER] キーを押します。

ENTER
メンテナンス
リスト <ent>

5. 次の操作を選択します。

設定機能一覧

機能名称	概要	参照ページ
リスト	本装置の設定状態を作図します。	P.5-3
ドットイチホセイ	ヘッド高さを変更した後、ドット位置を補正します。	P.5-4
ステーションメンテ	ステーション内部の清掃を行います。	P.5-6
インクジュウテン	ノズル詰まりが復旧しない場合に行います。	P.5-7
ヘッドワイブ	ノズル面に付着したインク滴をクリーニングします。	P.3-18
テキキ ワイピング	定期的にノズル面をワイピングします。	P.5-8
インクセット	標準の7色インクセットからお好みのインクセットに変更します。	P.5-9
インクコウカン	インクの交換をします。	P.5-14
オンスイコウカン	温水装置の水を交換します。	P.3-8
ホワイトメンテナンス	白インクの定期メンテナンスを行います。	P.3-14
ヘッドメンテナンス	電源投入時の微量クリーニングを実行するヘッドを選択します。	P.5-16
UV ランプ	消耗した UV ランプを交換します。	P.5-17
トクショクリフレッシュ	白インクをセットしている場合、白インクに適したリフレッシュ動作を行うために設定変更します。	P.5-28
マシンジョウホウ	本装置のファームウェアバージョン、シリアル番号を表示します。	P.5-29
キャップゴム	キャップゴムの種類を設定します。	P.5-30

設定状態を作図する [リスト]

本装置の設定状態を出力します。
メンテナンスの参考にしてください。

1. ファンクション機能の設定[セッテイ]に関する情報
2. メンテナンス機能のドット位置補正[ドットイチホセイ] の情報
3. 本装置で使用中のファームウェアのバージョン情報
4. 保守（サービスエンジニア用）に必要な各設定値



- ★ A4 サイズ以上のシートを縦にセットして、作図を行ってください。
- ★ ヘッドギャップ調整が行われていない場合は、ギャップチェックを行ってください。(⇒P.2-13)

```

LIST (System Ver0.93) (I/F Ver . ) S/N :

(1) セッテイ < タイフ* 1 > タイフ* 2 タイフ* 3 タイフ* 4
          サグス`ネウシキ ヒョウシ`ユン :ネスト ヒョウシ`ユン :ネスト ヒョウシ`ユン :ネスト ヒョウシ`ユン :ネスト
          UV コウリョウ ツヨイ ツヨイ ツヨイ ツヨイ
          リフレクツ ヲ
          サグス`チュウ レ`ル 1 レ`ル 1 レ`ル 1 レ`ル 1
          タイキチュウ レ`ル 1 レ`ル 1
          カネナリ 1 :ネスト 1 :ネスト 1 :ネスト 1 :ネスト
          オートグリーンング OFF OFF OFF OFF
          ミリオンチ ミリ ミリ ミリ
(2) ケンチン
      X オフセット 0mm
      Y オフセット 0mm
(3) DISPLAY JAPANESE
(4) ト`ットイチホセイ
      ハ`ターン 1 ハ`ターン 2 ハ`ターン 3 ハ`ターン 4
      0.0 0.0
      ハ`ターン 5 ハ`ターン 6 ハ`ターン 7
      0.0 0.0
(5) ランニング`メーター
      UVシヨウシヤ`シ`カン 0h0m
      ヘッ`キ`キヤア . mm
      イングサ`ンリョウ K: % C: % M: % Y: % o: % m: % m: % m: %
      ショット カウツ K: 134 C: 86.469 M: 0 Y: 0
      o: 0 m: 0 K: 0
      スキャ`ン カイズ 1 (x1000)
      サグス`チュウ m ft
      サグス`メンセキ m2 sq.ft
      ショウ`シ`カン h
  
```

操作手順

1. A4 サイズ以上のメディアをセットし、作図原点を設定します。

2. メンテナンス項目の[リスト]を選択します。
(⇒P.5-2)

メンテナンス
リスト <ent>

3. 【ENTER】キーを押します。
自動的に作図を開始します。



リスト

4. 【END】キーを2回押して、ローカルモードに戻します。

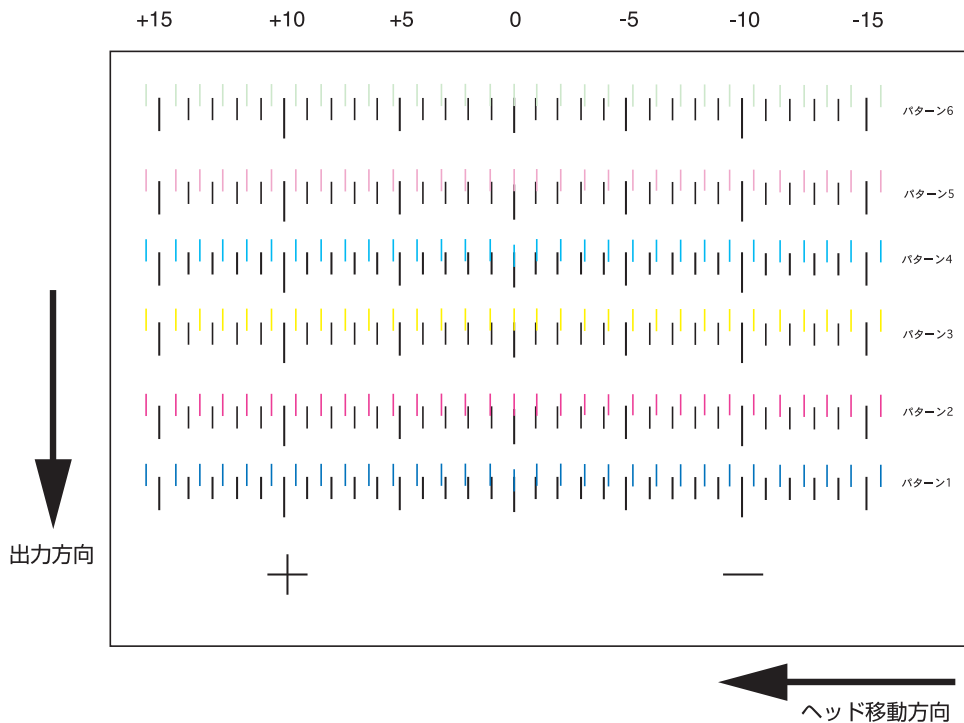


<<ローカル>>

メディアの厚みが変わったら[ドットイチホセ]

作図のインク落下点の位置を補正し、適正な作図結果を得られるようにします。
6パターンのテスト作図のインク落下点を比較して補正します。プリントヘッドの高さを調整した後は、必ずドット位置補正を実行してください。

●パターン作図例



操作手順

1. A4 サイズ以上のメディアをセットし、作図原点を設定します。

2. メンテナンス項目の[ドットイチホセ]を選択します。(⇒ P.5-2)

メンテナンス
ドットイチホセ <ent>

3. [ENTER] キーを押します。
ヘッドギャップ調整が行われていない場合は、ギャップチェックを行います。(⇒ P.2-13)

ENTER
ドットイチホセ
サクズカイシ :ent

4. [ENTER] キーを押します。
ドット位置補正のテストパターン作図を開始します。
テストパターンは6種類作図します。

ENTER
** サクズチュウ **

5. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、パターン1のドット位置補正をします。

出力した6パターンは、作図した順にパターン1から6と呼びます。

パターン1の適正なドット位置をジョグキーで選択します。

テストパターンが、1本の直線になっている位置を選びます。



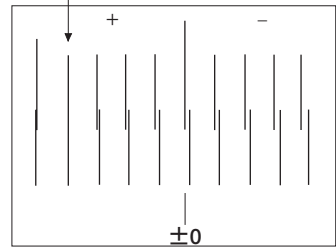
注意

★ 直線のパターンの補正值が、-15から+15の中にある場合は、ヘッドの高さ調整をしてから、もう一度、ドット位置補正を実行してください。



ドットイチホセイ
パターン1 : * . *

プラス方向に0位置から4本目が直線で表示しています。この場合のドット位置補正值は4.0です。



6. 【ENTER】キーを押します。



ドットイチホセイ
パターン1 : * . *

7. 手順5・6の操作を再実行し、続けてパターン6までのドット位置補正をします。

各パターンの適正ドット位置を選択します。

ドットイチホセイ
パターン2 = 0 . 0

ドットイチホセイ
パターン3 = 0 . 0

ドットイチホセイ
パターン4 = 0 . 0

ドットイチホセイ
パターン5 = 0 . 0

ドットイチホセイ
パターン6 = 0 . 0

パターン作図開始画面に戻ります。

8. 【ENTER】キーを押し、ドット位置補正を完了します。



メンテナンス
ドットイチホセイ < e n t >

9. 【END】キーを2回押して、ローカルモードに戻します。



<<ローカル>>

ステーション内部の清掃をする[キャリッジ アウト]

ステーション内部の清掃の際にキャリッジを移動します。




- ★ 手でキャリッジをキャッピングステーションから出さないでください。キャリッジはジョグキーを使用して動かします。

操作手順

1. メンテナンス項目の[ステーションメンテ]を選択します。(⇒ P.5-2)


メンテナンス
ステーションメンテ <ent>

2. 【ENTER】キーを押します。

ENTER	ステーションメンテ
	キャリッジアウト :ent

- 3 【ENTER】キーを押します。


キャリッジがテーブル上に移動します。吸引ノズルが前に移動し、キャリッジがステーション上から移動します。

ENTER	ステーションメンテ
	シュウリョウ :ent

4. メンテナンスカバーを開けて、ステーション内部のメンテナンスを行います。

キャップ、吸引ノズル、キャリッジのクリーニングについては、3章をご覧ください。

5. メンテナンスカバーを閉じて、【ENTER】キーを押します。

ENTER	シバラクオマチクダサイ
	

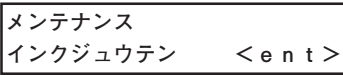



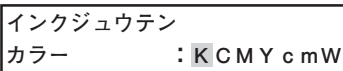

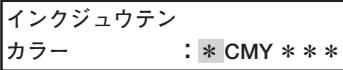

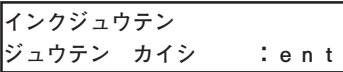

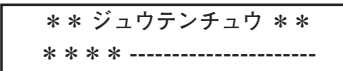


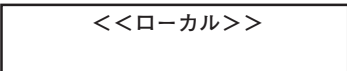
ローカルモードに戻ります。

<<ローカル >>

ヘッドクリーニングでノズル詰まりが復旧しない場合[インクジュウテン]

ヘッドクリーニング (⇒P.2-20) を行っても、ノズル詰まりが復旧しない場合、本機能を使用します。

操作手順

1. メンテナンス項目の[インクジュウテン]を選択します。(⇒P.5-2)

2. 【ENTER】キーを押します。


3. ジョグキー【◀】または【▶】を押し、インクを充填するヘッドを選択します。


4. ジョグキー【▲】または【▼】を押し、インクを充填するヘッドを表示させます。充填を行わないヘッドは「*」を表示させます。


5. 【ENTER】キーを押します。


6. 【ENTER】キーを押します。インク充填を開始します。


7. インク充填を終了すると、右の表示に戻ります。

8. 【END】キーを2回押して、ローカルモードに戻します。



5

メンテナンス機能

ノズル面にインク滴が付着するのを防ぐ [ティキ ワイピング]

ヘッドのノズル面に作図によりインク滴が付着する場合があります。

本機能は、設定された回数分印刷した後、ヘッド面のワイブを行い、ヘッド面に付着したインク滴を取り除きます。

操作手順

1. メンテナンス項目の[ティキ ワイピング]を選択します。(⇒P.5-2)

メンテナンス ティキ ワイピング < e n t >

2. [ENTER] キーを押します。

ENTER ティキ ワイピング カンカク : インサツ カイスウ
--

3. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、メンテナンス間隔を選択します。(スキャンカイスウ, インサツカイスウ)

▲ ティキ ワイピング カンカク : スキャン カイスウ ▼



- 「スキャンカイスウ」は、設定したスキャン回数(100～800回)をこえた印刷終了時にノズル面の清掃を行います。
- 「インサツカイスウ」は、設定した印刷回数(1～4回)ごとにノズル面の清掃を行います。

4. [ENTER] キーを押します。

ENTER ティキ ワイピング スキャン カイスウ : 1 0 0

5. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、回数を設定します。

▲ ティキ ワイピング スキャン カイスウ : 2 0 0 ▼
--

設定値:

スキャンカイスウ: 100～800(100回単位)
インサツカイスウ: 1～4

7. [ENTER] キーを押します。

ENTER メンテナンス ティキ ワイピング < e n t >
--

8. [END] キーを2回押して、ローカルモードに戻します。

END <<ローカル>>

インクセットを変更する【インクセット】

本装置の標準インクセットは7色（ブラック、シアン、マゼンタ、イエロー、ライトシアン、ライトマゼンタ、ホワイト）ですが、以下のインクセットに変更することができます。

- カラー色だけの6色インクセットに変更（6色のみ、白インクは使用しない）
- 特色インクを追加した8色インクセットに変更
- 7番目の白インクを特色インクに変更



注意

- ★ インクセット中に、カバーを開けたり、電源をオフにしたりしないでください。正常にインクセットの変更が出来なくなります。
- ★ 充填するインクカートリッジは、インクが十分に入っているものをセットしてください。インクが十分に入っていない場合は、正常にインクセットの変更が出来なくなります。
- ★ 廃インクタンク内の容量を確認してください。廃インクの量が多い場合は、廃インクを捨ててください。（⇒P.3-7参照）

■ カラー色だけの6色インクセットに変更する

7色インクセットから6色インクセットに変更する手順を説明します。

操作手順

1. メンテナンス項目の[インクセット]を選択します。（⇒P.5-2）

メンテナンス
インクセット < e n t >

2. 【ENTER】キーを押します。

ENTER
インクセット
U v - 7 [K C M Y c m S]

3. 6色対応のインクセットを選択します。
ジョグキー【▲】または【▼】を押して、
「Uv-6 [KCMYcm]」を選択します。

▲
▼
インクセット
U v - 6 [K C M Y c m]

4. 【ENTER】キーを押します。

ENTER
インクセット : K C M Y c m
セットイシマスカ? : e n t

5. 【ENTER】キーを押します。

ENTER
インクセット : * * * * * W
カートリッジヲハズス

6. 不要になる白インクカートリッジを外します。

5

メンテナンス機能

7. 【ENTER】 キーを押します。
不要になったインクカートリッジのインクを洗浄
します。



センジョウチュウ
シバラクオマチクダサイ

8. 右の表示になったら、洗浄液カートリッジ
をセットします。

インクセット :*****W
センジョウジグヲセット

9. 【ENTER】 キーを押します。
洗浄液を吸引し、洗浄します。



センジョウチュウ
シバラクオマチクダサイ

10. 右の表示になったら、洗浄液カートリッジを
外します。

インクセット :*****W
センジョウジグヲハズス

11. 【ENTER】 キーを押します。
吸引した洗浄液を廃インクタンクへ排出します。



センジョウチュウ
シバラクオマチクダサイ

インクセット :KCMYcm
シバラクオマチクダサイ

洗浄液排出後、ローカルモードに戻ります。

<<ローカル>>



- 7色インクセットに設定を戻す場
合は、手順3まで戻り、「Uv-7
[KCMYcmW]」を選択して
ください。

■ 特色インクを追加した8色インクセットに変更する

8色インクセットには、2種類のインクセットがあります。

1. Uv-8[KCMYcmWS] : 7色インクセットに特色インクを追加した8色インクセット
2. Uv-8[KCMYcmSs] : 7色インクセットの白インクを特色インクに、さらに特色インクを1つを追加した8色インクセット

7色セットから特色インクを追加した8色インクセットに変更する手順を説明します。

操作手順

1. メンテナンス項目の[インクセット]を選択します。(⇒P.5-2)

メンテナンス
インクセット < e n t >

2. [ENTER] キーを押します。

ENTER
インクセット
U v - 7 [K C M Y c m S]


3. 8色インクセットが表示されているのを確認し、[ENTER] キーを押します。
[Uv-8 [KCMYcmWS]] を選択します。

ENTER
インクセット : K C M Y c m W S
セッテイシマスカ? : e n t

4. [ENTER] キーを押します。

ENTER
インクセット : * * * * * * S
カートリッジヲセット

5. 特色のインクカートリッジをセットします。



注意 ★ 充填するインクカートリッジは、インクが十分に入っているものをセットしてください。インクが十分に入っていない場合は、正常にインクセットの変更が出来なくなります。


6. [ENTER] キーを押します。
セットされたインクカートリッジのインク充填を開始します。

ENTER
* * ジュウテンチュウ * *
シバラクオマチクダサイ

インク充填が終了すると、ローカルモードに戻ります。

インクセット : K C M Y c m W S
シバラクオマチクダサイ

<<ローカル>>

- 
- 7色インクセットに設定を戻す場合は、手順3まで戻り、「Uv-7 [KCMYcmW]」を選択してください。

■ 7色インクセットの7番目の白インクを特色に変更する

7色インクセットから、白インクの代わりに特色インクを使う7色インクセットに変更する手順を説明します。

操作手順

1. メンテナンス項目の[インクセット]を選択します。(⇒P.5-2)

メンテナンス
インクセット < e n t >

2. 【ENTER】キーを押します。

ENTER
インクセット
U v - 8 [K C M Y c m W S]

3. 7色対応のインクセットを選択します。
ジョグキー【▲】または【▼】を押して、
「Uv-7 [KCMYcmS]」を選択します。

インクセット
U v - 7 [K C M Y c m S]

- 4 【ENTER】キーを押します。

ENTER
インクセット : K C M Y c m S
セットイシマスカ? : e n t

- 5 【ENTER】キーを押します。

ENTER
インクセット : * * * * * W
カートリッジヲハズス

- 6 不要になる白インクカートリッジを外します。

7. 【ENTER】キーを押します。
不要になったインクカートリッジのインクを洗浄
します。

ENTER
* * センジョウチュウ * *
シバラクオマチクダサイ

- 8 右の表示になったら、洗浄液カートリッジを
セットします。

インクセット : * * * * * W
センジョウジグヲセット

インクセットを変更する【インクセット】

9. 【ENTER】 キーを押します。
洗浄液を吸引し、洗浄します。
- ENTER
- **センジョウチュウ**
シバラクオマチクダサイ
10. 右の表示になったら、洗浄液カートリッジを外します。
- インクセット :*****W
センジョウジグハズ
11. 【ENTER】 キーを押します。
吸引した洗浄液を廃インクタンクへ排出します。
- ENTER
- **センジョウチュウ**
シバラクオマチクダサイ
12. 右の表示になったら、特色のインクカートリッジをセットします。
- インクセット :*****S
カートリッジヲセット
13. 【ENTER】 キーを押します。
セットされたインクカートリッジのインク充填を開始します。
インク充填が終わると、ローカルモードに戻ります。
- ENTER
- **ジュウテンチュウ**
シバラクオマチクダサイ
- インクセット :KCMYcmS
シバラクオマチクダサイ
- <<ローカル>>

インクを交換する [インクコウカン]

インクを交換する場合には、下記の手順に従ってインクを交換します。

操作手順

1. メンテナンス項目の[インクコウカン]を選択します。(⇒P.5-2)

メンテナンス
インクコウカン < e n t >

2. [ENTER] キーを押します。

ENTER
インクコウカン
カラー : K C M Y c m W

3. ジョグキー【◀】または【▶】を押し、インクを交換するカートリッジを選択します。

◀ ▶
インクコウカン
カラー : K C M Y c m W

4. ジョグキー【▲】または【▼】を押し、インクを交換するカートリッジを表示させます
交換を行わないカートリッジは、「*」を表示させます。

▲ ▼
インクコウカン
カラー : * C M Y * * *

5. [ENTER] キーを押します。

ENTER

6. 交換するインクカートリッジを外します。
充填してあるインクを廃インクタンクへ排出します。

インクコウカン
カートリッジヲハズス

7. 右の表示になったら、洗浄液カートリッジをセットします。

センジョウチュウ
シバラクオマチクダサイ

8. [ENTER] キーを押します。
洗浄液を吸引します。

ENTER
インクコウカン
センジョウジグヲセツト

センジョウチュウ
シバラクオマチクダサイ



- 洗浄液カートリッジは、お近くの販売店または弊社営業所にてお求めください。

9. 右の表示になったら、洗浄液カートリッジを外します。

ENTER
インクコウカン
センジョウジグヲハズス

センジョウチュウ
シバラクオマチクダサイ

吸引した洗浄液を廃インクタンクへ排出します。

10. 終了後、インクステーションに各インクカートリッジを差し込みます。



インクコウカン
カートリッジリセット

11. 【ENTER】キーを押します。
インク充填が始まります。

ジュウテンチュウ
シバラクオマチクダサイ

インク交換が終了すると「インクコウカン」に戻ります。

メンテナンス
インクコウカン < e n t >

電源投入時の微量クリーニングを選択する[ヘッドメンテナンス]

電源投入時に行う微量クリーニングを実行するヘッドを選択します。

操作手順

1 [メンテナンス]-[ヘッドメンテナンス]を選択します。(⇒P.5-2)

メンテナンス
ヘッドメンテナンス < e n t >

2 [ENTER] キーを押します。

ENTER
ヘッドメンテナンス
カラー : KCMYcmW

3 ジョグキー [◀] [▶] を押し、微量クリーニングするカートリッジを選択します。

←
ヘッドメンテナンス
カラー : KCMYcmW
→

4 ジョグキー [▲] [▼] を押し、微量クリーニングのオン・オフを選択します

↑
ヘッドメンテナンス
カラー : * * * YcmW
↓

5 [ENTER] キーを押します。

ENTER
メンテナンス
ヘッドメンテナンス < e n t >

6 [END] キーを2回押して、ローカルモードに戻します。

END
<<ローカル>>

UV ランプを交換する [UVランプ]

UV ランプは消耗品です。

本装置は、UV ランプの照射使用時間をカウントし、交換時期をお知らせします。

UV ランプの照射時間を確認する

操作手順

1. ローカルモードになっていることを確認します。

<<ローカル>>

2. 【ENTER】 キーを数回押します。

照射使用時間を表示します。

ディスプレイは、照射使用時間 1 3 0 時間 0 5 分
を示しています。



- 「本装置の情報を表示する」(⇒
P.2-4) を参照してください。

ENTER

UV ショウシャジカン
1 3 0 h 0 5 m

3. 【ENTER】 キーを押すと、ローカルモードに
戻ります。

ENTER

<<ローカル>>

UV ランプを交換する

一定の照射時間を超えると、ランプ交換のメッセージを表示します。

メッセージを表示したら、お早めにランプを交換するため、サービスコールしてください。

【ENTER】 キーを押し、UV ランプの交換を
行います。

ENTER

! UV ランプ
! UV ランプ コウカン : e n t



- ★ 交換メッセージが表示された場合は、新しいUV ランプと交換する必要があります。販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。

5

メンテナンス機能

UVランプの照射時間をリセットする【タイマーショック】

UVランプを交換後、本装置で記憶している照射時間をリセットします。

操作手順

1. メンテナンス項目の[UVランプ]を選択します。
(⇒P.5-2)

メンテナンス	
UVランプ	< e n t >

2. 【ENTER】キーを押します。

ENTER	
UVランプ	
コウリョウソクテイ	< e n t >

3. ジョグキー【▲】または【▼】を押し、[タイマーショックカ]を選択します。

▲	
UVランプ	
タイマーショックカ	< e n t >
▼	

4. 【ENTER】キーを押します。

ENTER	
UVタイマーショックカ	
ショックカ カイシ	: e n t

5. 再度、【ENTER】キーを押します。
照射時間を初期化します。

ENTER	
-------	--

6. 動作を終了すると、右の表示に戻ります。

UVランプ	
タイマーショックカ	< e n t >

7. 【END】キーを2回押して、ローカルモードに戻ります。

END	
<<ローカル>>	










UV ランプの消灯時間を設定する [ショウトウジカン]

UV ランプの消灯時間を設定します。

連続照射 OFF OFF を選択した場合は、自動的に UV ランプが設定した時間後に消灯する作業を行います。初期値は 30 分となっています。

連続照射 ON ON にを選択した場合は UV ランプが常時点灯している状態になります。消灯する場合は、UV ショウトウ (⇒ P.4-14) メニューでランプを消灯します。

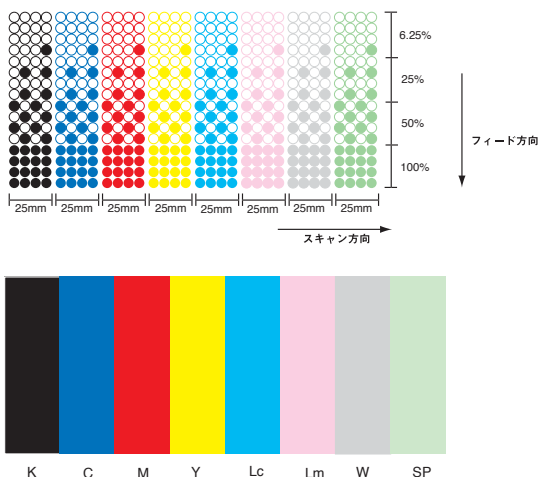
操作手順

- | | | |
|--|---|-------------------------------|
| 1. メンテナンス項目の[UV ランプ]を選択します。
(⇒ P.5-2) |  | メンテナンス
UV ランプ < e n t > |
| 2. [ENTER] キーを押します。 |  | UV ランプ
コウリョウソクテイ < e n t > |
| 3. ジョグキー [▲] または [▼] を押し、
[ショウトウジカン] を選択します。 |  | UV ランプ
ショウトウジカン : e n t |
| 4. [ENTER] キーを押します。 |  | UV ランプ
レンゾクショウシャ : ON |
| 5. ジョグキー [▲] または [▼] を押し、
[レンゾクショウシャ] を OFF に選択します。 |  | UV ランプ
レンゾクショウシャ : OFF |
| 6. [ENTER] キーを押します。 |  | ショウトウジカン
0 0 h 0 0 m |
| 7. ジョグキー [▲] または [▼] を押し、消灯
する時間を分単位で入力します。 |  | ショウトウジカン
0 1 h 3 0 m |
| 8. [ENTER] キーを押します。 |  | UV ランプ
ショウトウジカン < e n t > |
| 9. [END] キーを押して、ローカルモードに戻
ります。 |  | <<ローカル>> |

UV 硬化が弱くなったときのチェック方法【コウカチェック】

UV ランプの消耗にともない、インクの硬化が弱くなる場合があります。
硬化チェックをすることにより、インクの硬化度をチェックし、UV ランプの光量を変更
することができます。また、UV 光量は、版ごと（最大 4 版）に調整が可能です。

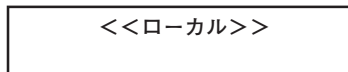
UV 硬化チェックテストパターン



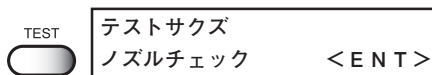
操作手順

1. テーブルに、作図パターン用としてメディアをセットしておきます。
バキュームスイッチをオンにしてください。その後、作図原点を設定します。

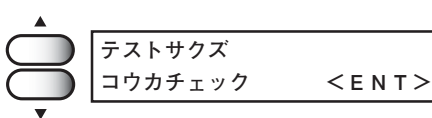
2. ローカルモードになっているか、確認します。



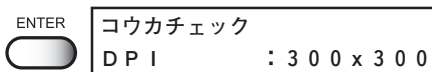
3. 【TEST】 キーを押します。



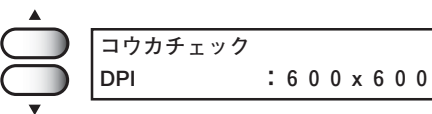
4. ジョグキー【▲】または【▼】を押し、【コウカチェック】を選択します。



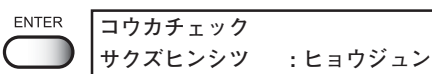
5. 【ENTER】 キーを押します。



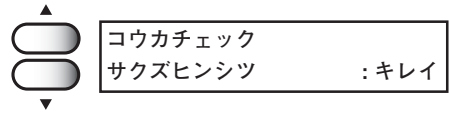
6. ジョグキー【▲】または【▼】を押し、解像度を選択します。



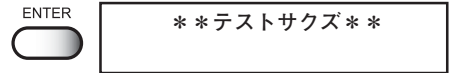
7. 【ENTER】 キーを押します。



8. ジョグキー【▲】または【▼】を押し、作図品質を選択します。



9. 【ENTER】キーを押すと、テスト作図を開始します。



注意

★ UV 照射器具の温度が一定温度になっていない場合、または温水装置の温度が一定温度になっていない場合は、メッセージを表示します。この場合は、作図できません。表示が消えると、作図ができます。

UV ジュンビチュウ

オンスイジュンビチュウ

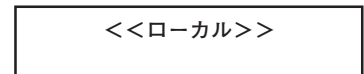
10. テスト作図終了後、作図パターンをチェックします。

UV 光量が弱くなっている場合は、良質な作図パターンは得られません。その場合は、次の手順に進んでください。

UV 光量の変更

操作手順

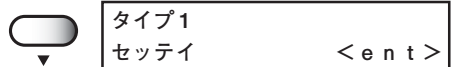
1. ローカルモードになっているか、確認します。



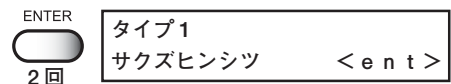
2. 【FUNCTION】キーを押します。



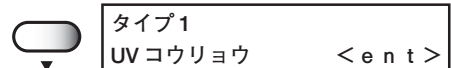
3. ジョグキー【▼】を押し、【セッテイ】を選択します。



4. 【ENTER】キーを2回押します。



5. ジョグキー【▼】を押し、【UV コウリョウ】を選択します。



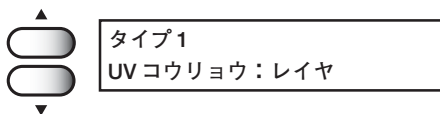
6. 【ENTER】 キーを押します。



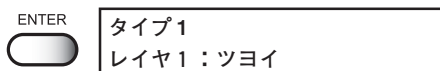
7. ジョグキー【▲】または【▼】を押し、光量を選択します。

右の表示は、[レイヤ]を選択しています。

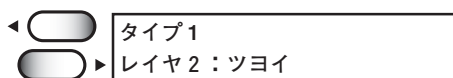
[レイヤ]以外を選択した場合は、手順 11 から行ってください。



8. 【ENTER】 キーを押します。



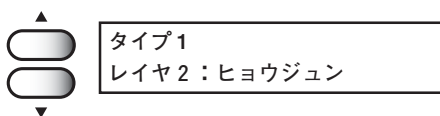
9. ジョグキー【◀】または【▶】を押し、レイヤを選択します。



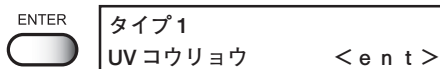
10. ジョグキー【▲】または【▼】を押し、光量を選択します。

[ムコウ]を選択すると、それ以降のレイヤの光量は、[ムコウ]を選択する前のレイヤの光量で作図します。

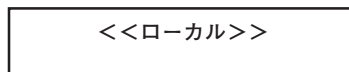
例： 4つのレイヤを作図する場合、レイヤ3の光量を[ムコウ]に設定すると、レイヤ1とレイヤ2の光量が有効になります。よって、有効な光量のレイヤを繰り返し適用します。つまり、レイヤ3はレイヤ1の光量で、レイヤ4はレイヤ2の光量で作図します。



11. 【ENTER】 キーを押します。



12. 【END】 キーを3回押して、ローカルモードに戻ります。



13. 再度、UV 硬化をチェックします。

メディアをセットし、UV 光量の作図パターンを作成します。(⇒ P.5-20)



● UV 光量の度合いを変更しても、変化がない場合は、UV ランプが消耗しています。下記の方法で確認してください。

■ UV ランプの照射時間を確認する (⇒ P.2-4、5-17)

■ レイヤ毎に UV 光量を設定している場合、作図待機中のリモートモードで、レイヤを変えることができます。(⇒ P.2-22)

■ UV ランプの照度を確認 (⇒ P.5-23)

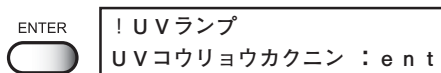
■ UV ランプ交換のためサービスコールをする (⇒ P.5-17)

UV 照度の確認方法

UV ランプの消耗にとまれない、インクの硬化が弱くなる場合があります。
添付の照度計を使用して、UV ランプの照度を測定します。
付属の照度計取り扱いマニュアルを参照し、UV ランプの照度を確認してください。

一定の照度時間を超えると、照度確認のメッセージを表示します。

【ENTER】キーを押し、添付の照度計で照度
を確認します。



UV照度測定について

UV ランプのレベルを変更しても、作図後のUV 硬化が上らない場合があります。これはUV ランプの消耗により、十分な照度が得られていません。

UV ランプ照度測定の日安

出荷時のランプ照度と 1000 時間経過後のランプ照度は、照度計の内側に記載されています。この値を元に照度を確認してください。



- ランプは時間経過につれて照度が低下します。1000 時間を超えると約 30% 低下します。著しく照度が低下している場合は、UV ランプの故障が考えられますので、お近くの販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
- 1000 時間経過後も、急に照度が落ちたり、点灯が不安定になることはありませんが、照度は徐々に低下します。UV 硬化性能チェック (⇒ P.5-20 参照) または照度測定をこまめに行ってください。

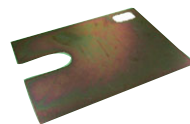
付属品 : UJ 照度セット



照度計



照度計ブラケット①



照度計ブラケット②



★ 照度測定の際の注意

- 測定をする際は、必ず付属のゴーグルと手袋を着用してください。
- 肌を UV ランプの光から守るために、長袖を着用してください。



操作手順

1. ローカルモードになっていることを確認します。

<<ローカル>>

2. FUNCTION キーを押します。



FUNCTION
データクリア <ENT>

3. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、[メンテナンス]を選択します。



FUNCTION
メンテナンス <ENT>

4. [ENTER] キーを押します。



メンテナンス
リスト <ent>

5. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、[UVランプ]を選択します。



メンテナンス
UVランプ <ent>

6. [ENTER] キーを押します。



UVランプ
コウリョウソクテイ <ent>

7. [コウリョウソクテイ]を選択し、[ENTER] キーを押します。



UVコウリョウソクテイ
ヘッドイドウ :ent

8. [ENTER] キーを押し、ヘッドをキャップステーションに移動させます。
ヘッドが移動します。

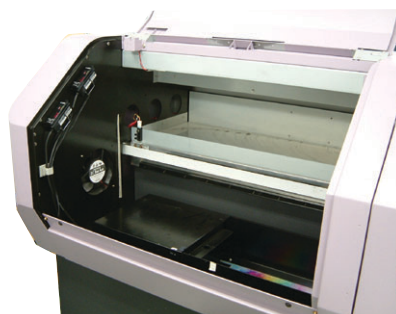


イドウチュウ
シバラクオマチクダサイ

9. 左側メンテナンスカバーを開けます。

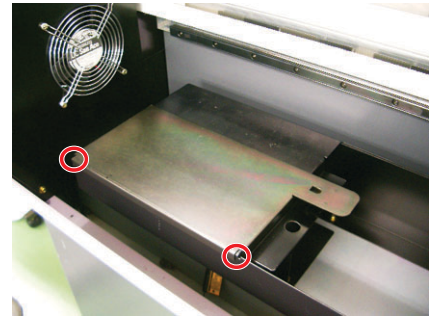
ヒダリカバー
アケテクダサイ

10. フラッシングトレイを外して、UV照度計をセットします。

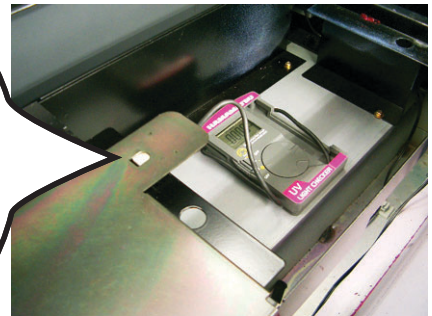
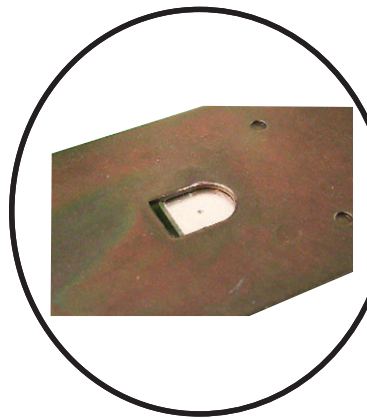
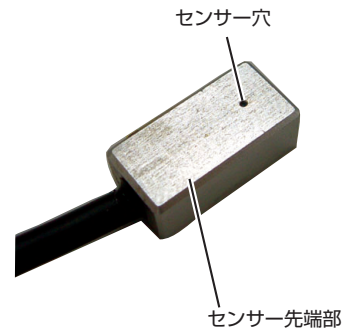


UV 照度計のセット方法

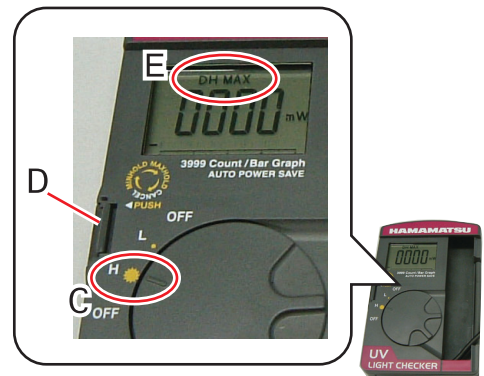
- A. 照度計ブラケット①を突き当てて、セットします。



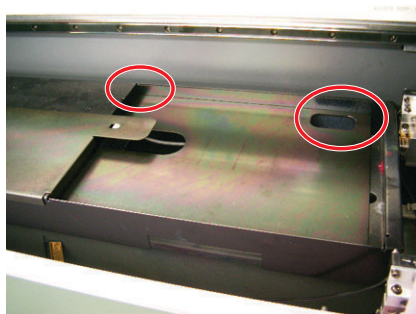
- B. 照度センサー先端部を照度計ブラケット①にセットします。センサー穴を上に向け、ブラケット穴に出るようにします。確実に奥まで差し込んでください。



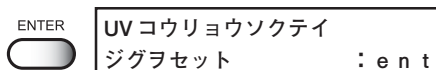
- C. 照度計のスイッチを「H」にセットします。
- D. 左側のボタンを数回押します。
- E. 「DH MAX」を表示させます。



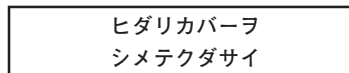
- F. 左上のコーナーに合わせて、取っ手が右上になるように、照度計ブラケット②をかぶせます。



11. 照度計をセット後、【ENTER】キーを押します。



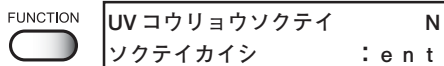
12. 左側メンテナンスカバーを閉じます。



13. UV 光量の強さを選択します。

【FUNCTION】キーを押し度に、UV 光量の強さが切り替わります。ディスプレイの右上に選択した UV 光量の強さを表示します。

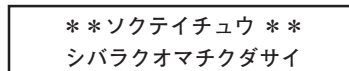
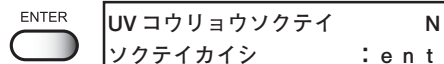
H: 強い、N: 標準、L: 弱い



14. 【ENTER】キーを押し、測定開始します。



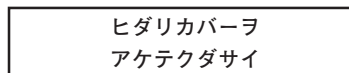
- 測定時ランプが点灯していない場合は、点灯までに時間がかかります。



15. 測定終了後、左側メンテナンスカバーを開けます。



- メンテナンスカバーを開ける前に、【ENTER】キーを押すと、手順 13 に戻り UV 光量を測定することができます。



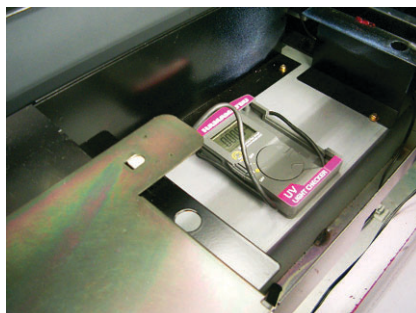
16. 照度計ブラケット②を取り外し、測定値を確認します。



- 測定値の目安は、照度計の内側をご覧ください。



- ★ 照度測定後、照度計ブラケット②の左半部分は、UV ランプの熱で熱くなっていますので、触らないでください。火傷をする恐れがあります。



17. 測定値を確認後、【ENTER】キーを押します。

ENTER
UV コウリョウソクテイ
ジグヲカクニン : e n t

18. ジョグキー【▶】を押し、照度測定を終了します。

▶ UV コウリョウソクテイ
ソクテイ< >シュウリョウ

再度測定をする場合はジョグキー【◀】を押します。UV 照度計のセット方法Eを行ってください。



注意

★ 再度測定を行う場合は、時間をおいてから行ってください。UV ランプの熱により、正しい測定値が得られません。

UV コウリョウソクテイ
ソクテイカイシ : e n t

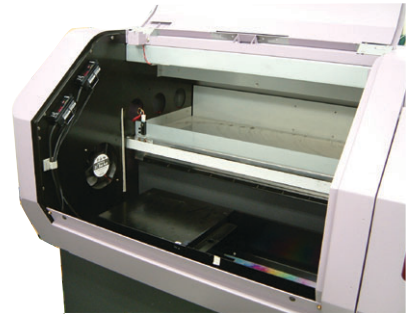
ヒダリカバーヲ
シメテクダサイ

19. 照度計と照度計ブラケット①を取りはずします。



注意

★ 照度測定後は、照度計ブラケット①、また照度計のセンサー部分が UV ランプの熱で熱くなっています。少し時間をおいてから取り外してください。火傷をする恐れがあります。



20. フラッシングトレイを取り付けて、【ENTER】キーを押します。

ENTER
UV コウリョウソクテイ
トレイヲセツト : e n t

21. 左側メンテナンスカバーを閉めます。
原点検出を行い、「ローカル」画面に戻ります。

ヒダリカバーヲ
シメテクダサイ

<<ローカル>>

5

メンテナンス機能

特色インクのノズル詰まりを防止する[トクショクリフレッシュ]

本装置は、ヘッドのノズル詰まりが発生しないように電源オンの状態でリフレッシュを行っていますが、白インクは他の色のインクと特性が異なるため、通常のリフレッシュでもノズル抜けが発生する場合があります。このような場合、白インクが充填されているヘッドのリフレッシュ動作を、白インクに適したリフレッシュ動作に変更することでノズル抜けを防ぎます。

操作手順

1. メンテナンス項目の[トクショクリフレッシュ]を選択します。(⇒P.5-2)

メンテナンス
トクショクリフレッシュ<ent>

2. [ENTER] キーを押します。

ENTER
トクショク リフレッシュ
カラー :*****



- 特色リフレッシュの初期値は全てオフ(*)です。

3. ジョグキー【▶】または【◀】を押して、特色リフレッシュするヘッドを選択します。

トクショク リフレッシュ
カラー :*****

4. ジョグキー【▲】または【▼】を押し、特色リフレッシュのオン・オフを選択します。

トクショク リフレッシュ
カラー :*****WS



- 白インクを充填しているヘッドをオンにしてください。表示は「W」となります。
- インクセットを変更して、特色インクに白インクを充填している場合も、そのヘッドをオンにしてください。表示は「S」となります。

5. [ENTER] キーを押し、設定を有効にします。

ENTER
メンテナンス
トクショクリフレッシュ<ent>

本装置の情報を表示する[マシンジョウホウ]

本装置のファームウェアバージョン、シリアル番号を表示します。


トラブル発生時に、販売店または弊社営業所にこの情報とトラブル内容とをご連絡ください。付録のお問い合わせシートをご利用いただくと、速やかに対処いたします。

操作手順


1. メンテナンス項目の[マシンジョウホウ]を選択します。(⇒ P.5-2)

メンテナンス
マシンジョウホウ <ENT>

2. [ENTER] キーを押します。


ENTER	マシンジョウホウ
	バージョン <ENT>

3. 再度 [ENTER] キーを押し、[バージョン]を選択します。



ENTER	MAIN	Ver * . * . *
	I / F	Ver * . * . *

バージョンが表示されます。

4. [ENTER] キーを押し、[バージョン]に戻ります。


ENTER	マシンジョウホウ
	バージョン <ENT>

5. ジョグキー【▲】または【▼】を押して、[シリアルNo.]を選択します。


	マシンジョウホウ
	シリアルNo. <ENT>

6. [ENTER] キーを押します。


シリアル番号を表示します。

ENTER	シリアルナンバー
	S / N * * * * * * *

7. [ENTER] キーを押し、[シリアルNo.]に戻ります。

ENTER	マシンジョウホウ
	シリアルNo. <ENT>

8. [END] キーを3回押して、ローカルモードに戻ります。

END	<<ローカル>>
	

キャップゴムの種類を設定する[キャップゴム]

キャップゴムを交換後、取り付けたキャップゴムの種類を設定します。

操作手順

1. メンテナンス項目の[キャップゴム]を選択します。(⇒P.5-2)

メンテナンス キャップ ゴム	< e n t >
-------------------	-----------

2. 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	キャップ ゴム タイプ : ヒヨウジュン
-------	-------------------------

3. ジョグキー【▲】または【▼】を押し、キャップゴムの種類を選択します。

▲	キャップ ゴム タイプ : OPT-J 0 1 6 5	▼
---	--------------------------------	---

4. 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	メンテナンス キャップ ゴム	< e n t >
-------	-------------------	-----------

5. 【END】 キーを2回押して、ローカルモードに戻ります。

END	<<ローカル>>
-----	----------

6章

困ったときは

本装置になんらかの異常が発生した場合、エラーメッセージを表示した場合のトラブルの解消方法について説明します。

本章の内容

故障？と思う前に	6-2
作図不良が発生したときは	6-4
メッセージを表示するトラブル	6-5

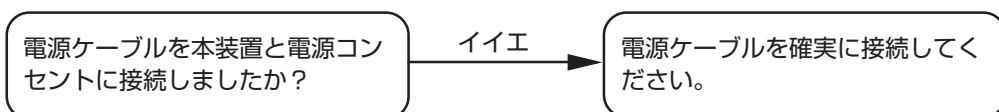
故障？と思う前に

ディスプレイにエラーメッセージを表示しない

故障？と思う前にもう一度確認してください。対処しても正常に戻らない場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

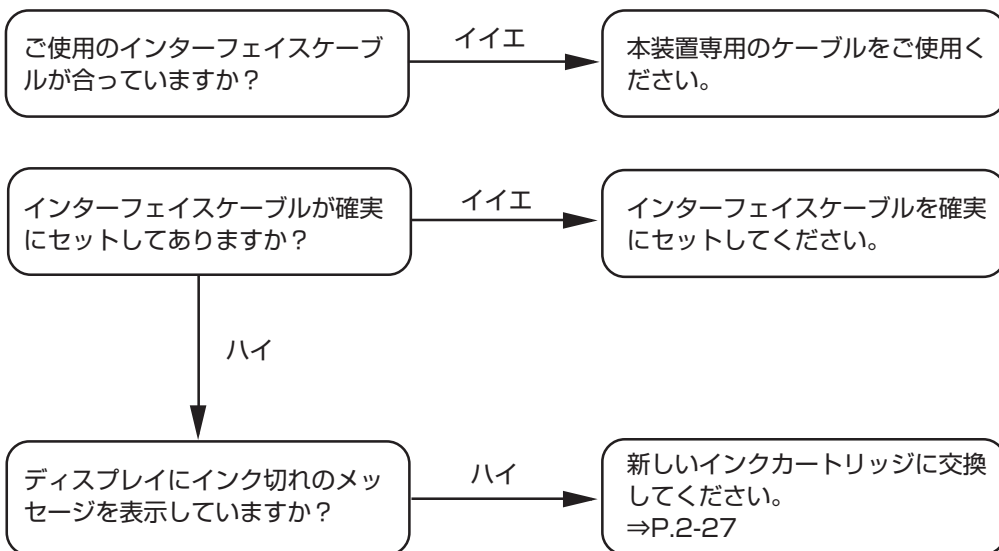
電源が入らない

電源が入らない場合の原因の多くは、電源やコンピュータのケーブル接続ミスによるものです。接続が適正かもう一度確認してください。



作図できない

作図ができない場合は、データが適正に本装置に送られていない場合があります。また、作図機能に不良がある場合や、メディアのセット方法に問題がある場合などが考えられます。



ディスプレイにメッセージを表示する

「オンスイジユンビチュウ」または「UV ジュンビチュウ」

ディスプレイに「オンスイジユンビチュウ」と表示された場合、温水装置の水温が一定に達していません。また「UV ジュンビチュウ」と表示された場合は、UV ランプの温度が一定に上がっておらず、UV ランプが使用できず、作図することはできません。

一定の温度になるまで作図はできません。

一定の温度になるまで、待機してください。一定温度に達するとディスプレイ表示が消え、作図が可能になります。

作図不良が発生したときは

ここでは、作図品質に問題があるときの対処方法を説明します。症状に従って対処してください。対処しても改善しない場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

スジ/カスレが発生する

- 対処方法：1. ヘッドクリーニングを行ってください。⇒P.2-20
2. ステーション内部のメンテナンスをしてください。
⇒P.3-3、P.5-6
3. ヘッドが通過する部分にゴミが付着している場合は、ゴミを取り除いてください。

作図中のメディア上に大きなインク滴が落ちる

- 対処方法：1. インクキャップのクリーニングをしてください。
⇒P.3-3
2. ヘッドクリーニングを実行してください。⇒P.2-20
3. メディア表面のホコリを取り除いてご使用ください。
4. テーブル表面に付着しているホコリをクリーニングしてください。
5. キャリッジ下面のクリーニングをしてください。
⇒P.3-16

作図中にメディアが浮き上がり、作図が中断する

作図中にUVランプによる熱で、メディアが浮き上がり、印刷が中断される場合があります。

- 対処方法：新しいメディアをセットし直し、作図を開始してください。

メッセージを表示するトラブル


何らかの異常が発生すると、ブザーが鳴りディスプレイにメッセージを表示します。
メッセージの内容によって対処してください。

ワーニングメッセージ

ワーニングメッセージ	原因	対処方法
! UV ランプ UV ランプ コウカン : e n t	UV ランプの交換時期です。	販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
! UV ランプ UV コウリョウカクニン : e n t	UV ランプの照度を測定する時期になりました。	UV ランプ照度確認を行ってください。⇒ P.5-23
<<ロ-加>> ニアエンド カラー : K C M Y c m W	インクカートリッジのインク残量が少なくなりました。	【REMOTE】キーを押すと、1ファイルごとと作図します。早めに表示しているヘッドのインクカートリッジを交換してください。
<<ロ-加>> インクキゲン カラー : K C M Y c m W	インクカートリッジの有効期限が切れかかっています。	【REMOTE】キーを押すと、作図ができません。表示している色のカートリッジを早めに交換してください。
! インクエンド カラー : K C M Y c m W	インクカートリッジのインクが終わりました。	表示しているヘッドのインクカートリッジを交換してください。
! インクカートリッジ カラー : K C M Y c m W	インクカートリッジが装着されていません。	表示しているヘッドのインクカートリッジを取り付けてください。
! ハイインク タンク ハイインク タンク フル	廃インクタンクが一杯になりました。	廃インクタンクを取り変えてください。
! メディア タカイ テーブルヲサゲテクダサイ	ジョグ操作中にプリントヘッドとメディアが衝突する可能性を検出しました。	サブパネルのジョグキー【▼】を押し、ディスプレイにOKのメッセージが出るまでテーブルを下げます。その後ジョグ操作を再開します。 または、メディアをテーブルから外し、【ENTER】キーを押してください。

6

困ったときは

ワーニングメッセージ	原因	対処方法
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> !インク ICイジョウ カラー : KCMYcmW </div>	インクカートリッジのICチップが正常に読めませんでした。	表示している色のインクカートリッジを再挿入してください。再度表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> !カートリッジ イジョウ カラー : KCMYcmW </div>	装填したインクカートリッジが異常です。	挿入したカートリッジを抜いて再挿入してください。再度表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> !カートリッジ サイセット カラー : KCMYcmW </div>	インクの残量が多いカートリッジを挿入した直後に、ニアエンドを検出した。	挿入したカートリッジを抜いて再挿入してください。再度表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> !ヒジュンセイ インク カラー : KCMYcmW </div>	インクカートリッジがミマキ純正品ではありません。	ミマキ純正品をお使いください。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> !インク シュルイ カラー : KCMYcmW </div>	装填したインクカートリッジの種類が異なります。	装填したインクカートリッジの種類を確認してください。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> !インク カラー カラー : KCMYcmW </div>	装填したインクカートリッジの色が、前回装填した色と異なります。	表示している色と装填したインクカートリッジの色を確認してください。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> !キゲン ギレ (2カゲツ) カラー : KCMYcmW </div>	インクカートリッジの有効期限が切れています。	表示している色のインクカートリッジを交換してください。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> !メンテナンス ワーニング ワイパ タンク フル <div style="text-align: center;">  交互に表示 </div> </div>	ワイパ廃インクタンクがフル間近です。	販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> !メンテナンス ワーニング OK : <ENT> </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> !ワイパ タンク フル サービスコール シテクダサイ </div>	ワイパ廃インクタンクがフルになりました。	販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。

エラーメッセージは、エラー番号を表示します。エラーメッセージを表示した場合は、電源をオフにしてしばらくたってから電源をオンにしてください。

それでもメッセージを表示する場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

エラーメッセージ	原因	対処方法
ERROR 01 MAIN ROM	制御基板に異常が発生しました。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 02 MAIN RAM		
ERROR 03 POWER +5V	制御基板に異常が発生しました。 POWER+5V POWER+35V	
ERROR 03 POWER +35V		
ERROR 04 フラッシュ SAVE	制御基板に異常が発生しました。	
ERROR 05 FPGA ss		
ERROR 06 UHC ss nnnn		
ERROR 07 DFC ss		
ERROR 10 コマンドエラー	コマンドデータ以外のデータを受信しました。	インターフェイスケーブルを確実に接続してください。
	本装置に適合していないインターフェイスケーブルが使われています。	規格に適合したインターフェイスケーブルを使用してください。

エラーメッセージ	原因	対処方法
ERROR 11 パラメータエラー	数値範囲外のパラメータを受信しました。	ホストコンピューターの出力設定値を確認してください。
ERROR 12 オフスケール	作図範囲外に作図しました。	作図範囲を確認してください。
ERROR 13 メモリーデータ	メモリーモードでデータ受信中に、版毎に違う解像度だったり、同色がある場合に発生します。	複数版コピーを行う場合、解像度が同じで、版毎に同色が発生しないデータを使用してください。
ERROR 20 I/F ボード	I/F ボードと制御基板のインターフェイスにエラーが発生しました。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 23 ホスト I/F	ホストコンピュータと I/F ボードとの通信にタイムアウトエラーが発生しました。	ケーブルが確実に接続してあるか、またはホストコンピュータ側でエラーが発生していないか確認してください。
ERROR 24 I/F イニシャル	I/F ボードと制御基板の初期動作不良です。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 34 ミサクズデータアリ	操作パネルで不当なオペレーションをしました。	正しいオペレーションをしてください。
ERROR 30 オペレーションエラー	受信済みで未作図のデータがあるのに、ファンクション機能の設定機能を変更しようとしています。	受信済みのデータを全て作図するか、データクリアを実行してから、設定機能を変更してください。

エラーメッセージ	原因	対処方法
ERROR 35 トンボケンシュツ	トンボ検出ができませんでした。(メディア検出後のトンボ検出動作において)	<ol style="list-style-type: none"> 1. メディアがカールしていないか確認してください。 2. トンボ検出開始点の指定が正しいか確認してください。(⇒P.2-21) 3. 白地に黒のトンボが印刷してあるか確認してください。 4. トンボ間に印刷や汚れがないか、ゴミが付着していないか確認してください。 5. トンボ検出の各種設定に誤りがないか確認してください。(⇒P.4-8) 6. 上記の確認事項に異常が無いのにトンボが検出できない場合は、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
ERROR 36 ヘッドギャップ	ヘッドとメディアのギャップが小さいです。	ヘッドギャップ調整を再度行ってください。
ERROR 40 モータアラーム X	X モーターに過大な負荷がかかりました。	<p>一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。</p> <p>再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。</p>
ERROR 41 モータアラーム Y	Y モーターに過大な負荷がかかりました。	
ERROR 42 X オーバーカレント	X モーターの過電流エラーを検出しました。	
ERROR 43 Y オーバーカレント	Y モーターの過電流エラーを検出しました。	
ERROR 44 スキャンハンイ	スキャン範囲外へ移動要求がありました。	
ERROR 50 ゲンテンケンシュツ X	X 軸の原点検出が行えませんでした。	

エラーメッセージ	原因	対処方法
ERROR 51 ゲンテンケンシュツ Y	Y軸の原点検出が行えません でした。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 52 テーブルタカサセンサ	テーブルの原点位置検出が行 えませんでした。	
ERROR 53 ステップモータゲンテン	ステップモータの原点位置検 出が行えませんでした。	
ERROR 60 FLASHING nnnn	フラッシング実行タイムアウト エラーが発生しました。	
ERROR 61 TEMP ss	ヘッド温度が異常です。	
ERROR 70 ミズブソク	温水量が不足しています。	温水タンクの水量を確認 してください。(⇒P.3-8)
ERROR 71 オンスイ ソウチ ss	温水装置関連のエラーが発生 しました。	一度、電源をオフにし て、しばらくたってから 電源をオンにしてくださ い。再度、表示する場 合は、販売店または弊社 営業所にサービスコールし てください。
ERROR 72 UV デンゲン OFF	起動時に UV 装置の電源がオ フになっています。	
ERROR 73 UV ソウチ ss	UV 装置関連のエラーが発生 しました。	
ERROR 74 UV ソウチ	UV 装置が異常信号を出力 しています。	
ERROR 90 F/W	F/W の不具合が発生しまし た。	

付録

各種仕様や構成、ファンクションメニュー構造を示します。

本章の内容

基本仕様	付録 -2
インク仕様	付録 -3
警告ラベルについて	付録 -4
お問い合わせシート	付録 -6
機能フローチャート	付録 -7

基本仕様

項目		UJF-605C
作図ヘッド部	方式	オンデマンドピエゾヘッド
	仕様	8ヘッド
作図分解能		300 dpi、600 dpi、1200 dpi、2400 dpi
作図モード	300 x 300 dpi	2 pass 単方向、4/8 pass 単方向・高速印字
	600 x 600 dpi	4/8 pass 単方向、16 pass 単方向・高速印字
	1200 x 1200 dpi	8 pass 単方向、16/32 pass 単方向・高速印字
	1200 x 2400 dpi	16 pass 単方向、32 pass 単方向・高速印字
使用可能インク		専用 UV 硬化インク（弊社純正インク） Bk、C、M、Y、Lc、Lm、6色+W白 合計7色
インク供給		インクカートリッジからのチューブ供給 インク残量表示機能あり インクエンド検出機能あり
インク容量		440 cc（各色1本）
使用可能メディア		サイズ 700 x 600 mm 厚さ 50mm 以下
最大作図範囲		幅 600 x 長さ 500 mm
距離精度	絶対精度	± 0.1 mm
	再現性	± 0.2 mm
直角度		± 0.5 mm/500mm
ヘッドギャップ調整		自動ヘッドギャップ調整可能。エリアセンサにより、メディア表面をセンサし、テーブル上下動作をする。
メディア吸着		プロアバキュームによる吸着固定
UV 装置		UV 照射装置内蔵、UV 電源
廃インクタンク		ボトル式（2000 cc / タンクフルセンサ付き）
インターフェイス	ホスト	IEEE1284 準拠、IEEE1394 準拠
	テーブル	双方向専用ポート各 4
コマンド		MRL-II B <ESC/Plバール2ハース ミマキオリジナルコマンド>
騒音	待機時	55 dB 以下 (FAST-A, 前後左右 1 m)
	動作連続音	65 dB 以下
	動作不連続音	70 dB 以下
安全規格		VCCI-クラス A、UL、CE マーク、CB レポート
インク安全性		MSDS
電源仕様	本体、UV 装置	単相 AC200 ~ 240 V
消費電力		4.0 kVA 以下 (本体 : 0.5 kVA、UV 装置 : 1.8 kVA、ヒータ : 1kVA、印刷 : 0.7kVA)

項目		UJF-605C
設置環境	使用可能温度	15 ~ 30 ℃
	相対湿度	35 ~ 65 %Rh (結露なきこと)
	精度保証温度	18 ~ 25 ℃
	温度勾配	± 10 ℃/h 以下
	粉塵	オフィス相当
重量		約 420 kg
外形寸法		2250 (W) x 1570 (D) x 1370 (H) mm 以下

インク仕様

詳細は、販売店または弊社営業所にお問い合わせください。

項目		品番・仕様
形態		専用 UV インクカートリッジ
インク種類		ブラック、マゼンタ、シアン、イエロー、ライトシアン ライトマゼンタ、ホワイト
インク容量		440CC
有効期間		製造日より 1 年間
保存温度	保存時	15℃～35℃
	輸送時	0℃～60℃ 2週間以内



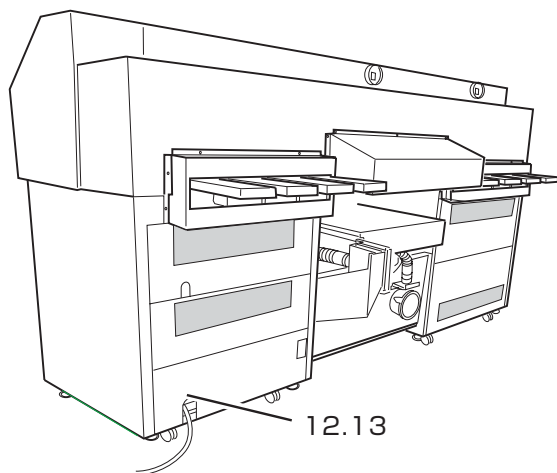
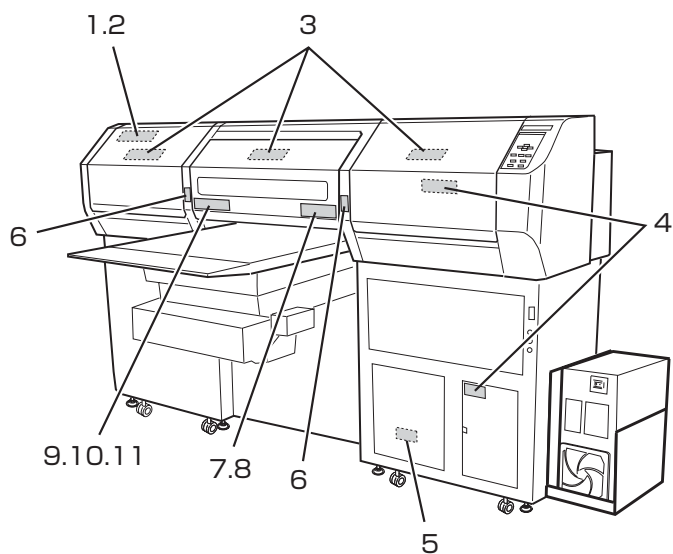
- ★ インクは、-4℃以下の環境で長時間放置すると凍結します。
万一、凍結した場合は、室温（25℃）で3時間以上かけて解凍してから使用してください。
- ★ インクカートリッジを分解したり、インクを詰め替えないでください。故障の原因になります。

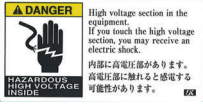
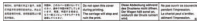









警告ラベルについて

本装置には、下記の警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。

なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり剥がれた場合は、新しい警告ラベルを販売店または弊社営業所にてお買い求めください。

ラベルの位置



No.	注文 No	ラベル	No.	注文 No	ラベル
1	M903764		8	M901607	
2	M903763		9	M903747	
3	M903946		10	M904131	
4	M903330		11	M904148	
5	M963239		12	M904130	<p>This product complies with 21 CFR chapter I and subchapter J.</p>
6	M904152		11	M902396	<p>Equipment to be connected to earthed mains outlet only. Apparatus can turn clockwise, cannot rotate. Apparatus shall rotate till Jordan rotating.</p>
7	M901549				

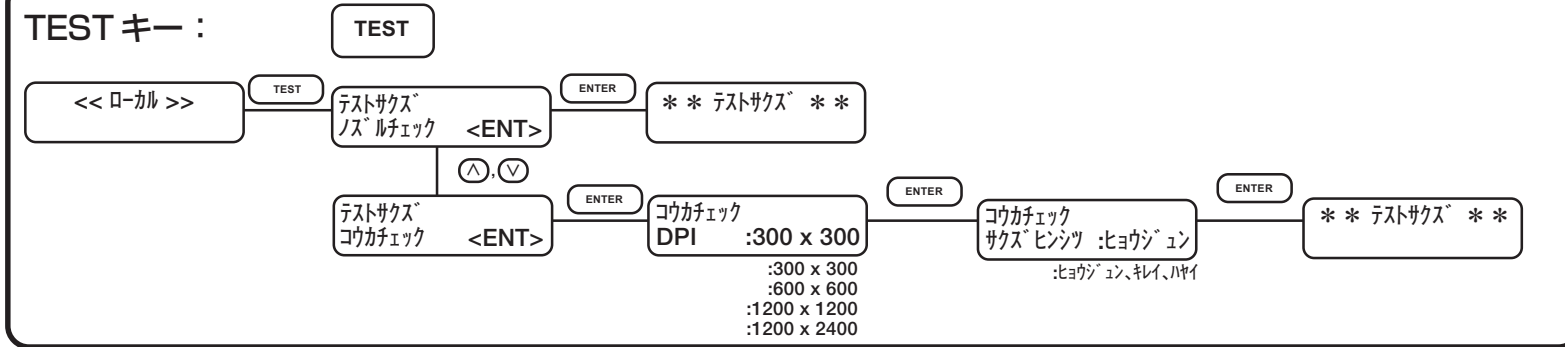
お問い合わせシート

プリンターの故障、異常動作については、このシートをお使いください。
下記の必要事項をご記入の上、巻末の弊社営業所まで FAX でお送りください。

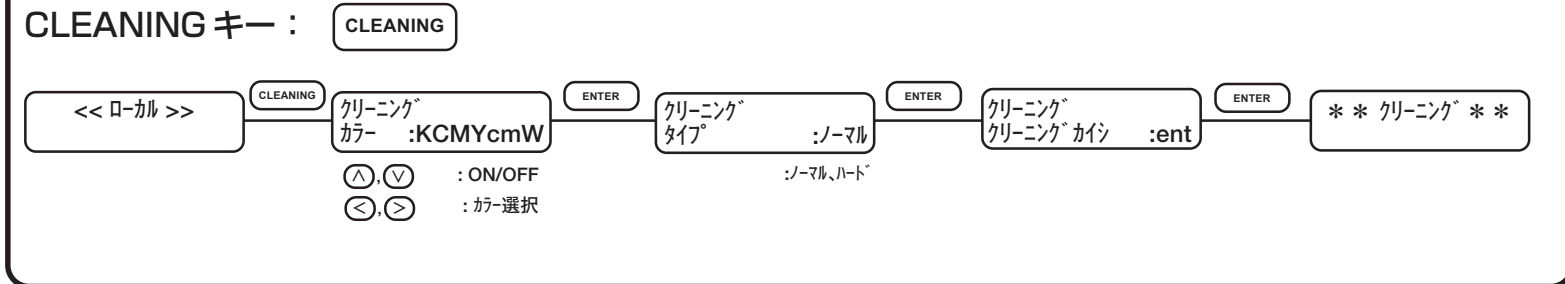
御社名	
ご担当者名	
電話番号	
プリンター機種名	
お使いの OS	
マシーン情報	
エラーメッセージ	
お問い合わせ内容	

機能フローチャート

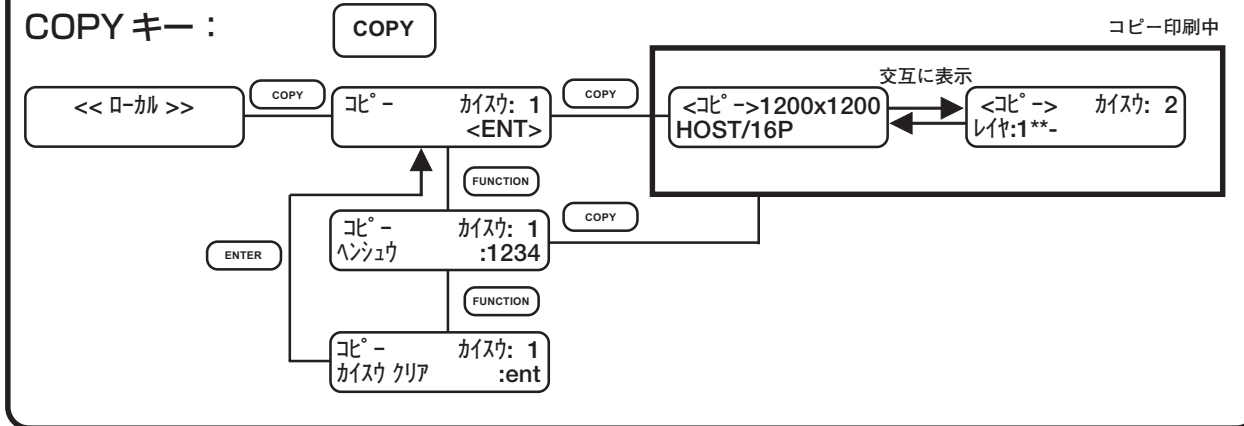
TEST キー :



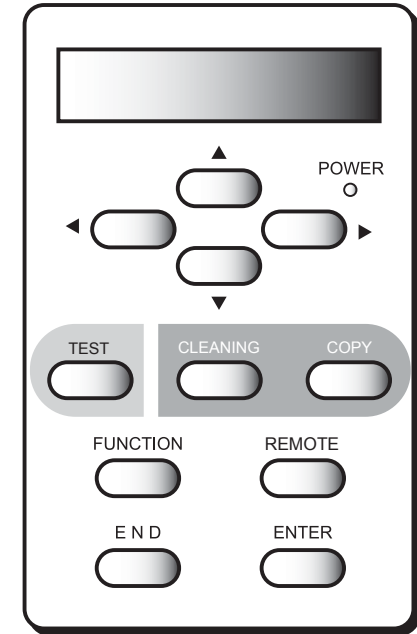
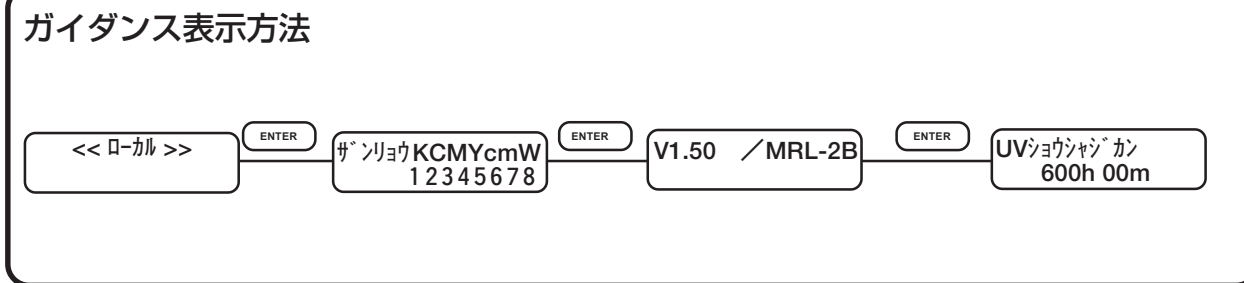
CLEANING キー :



COPY キー :

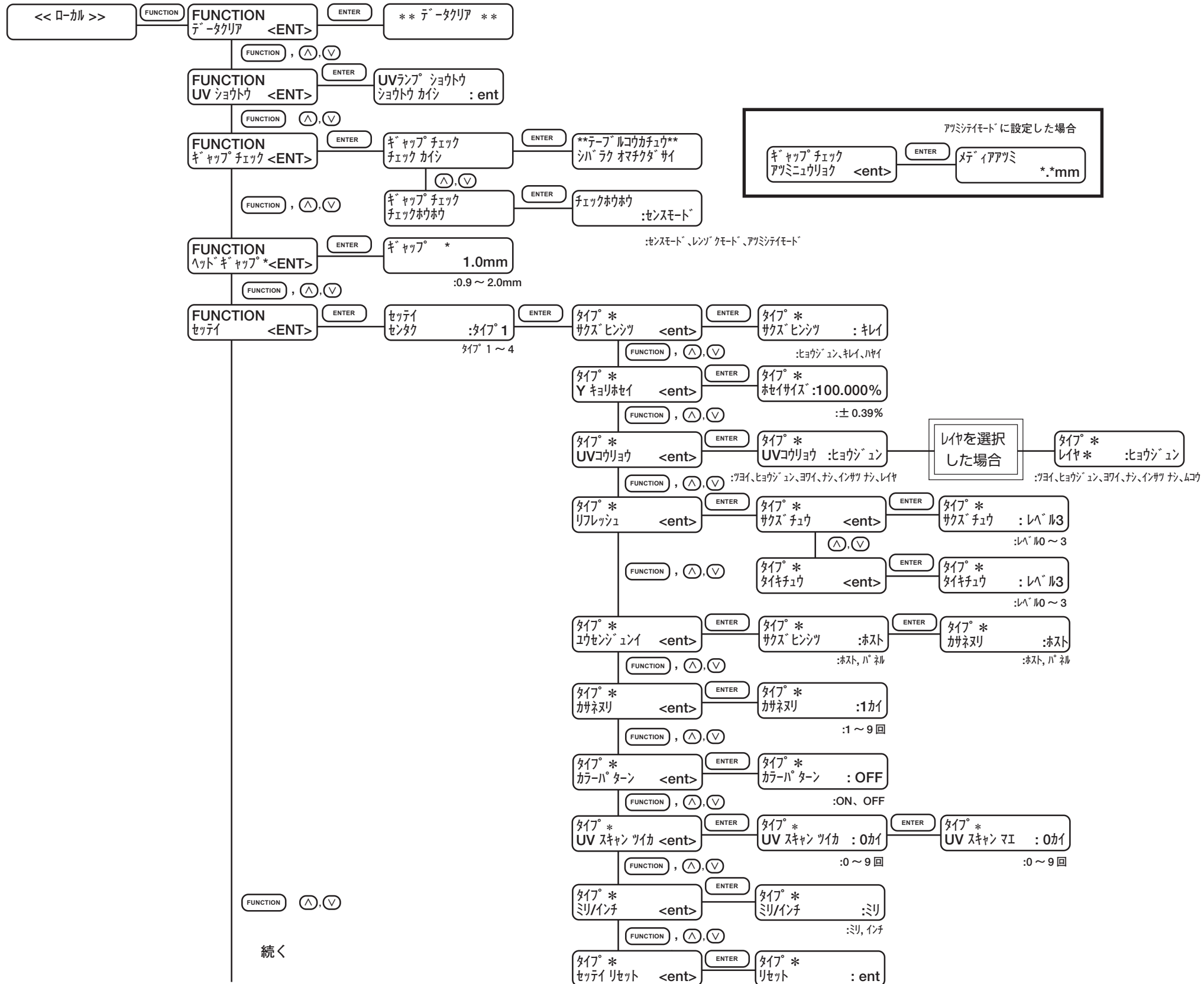


ガイダンス表示方法

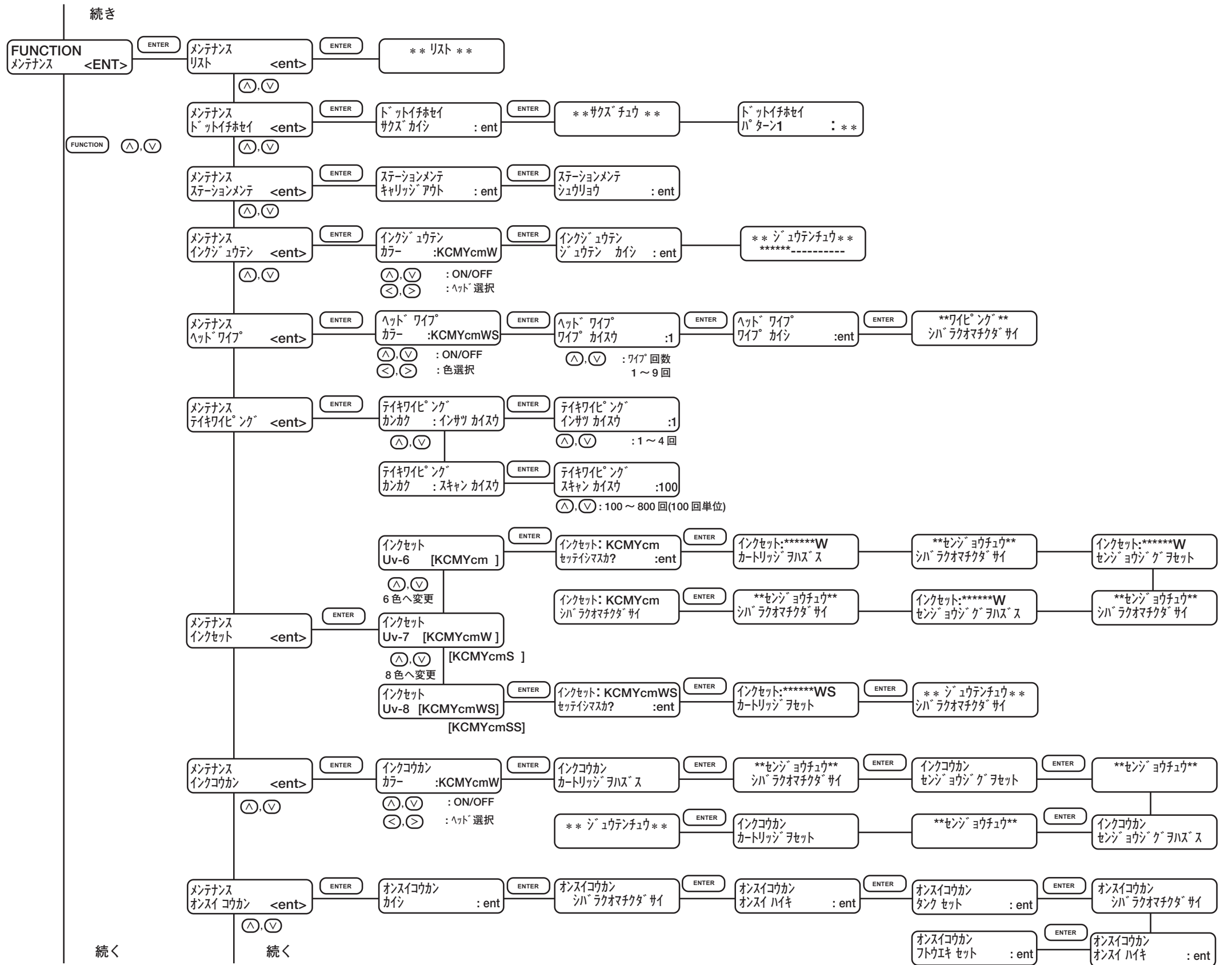


FUNCTION キー :

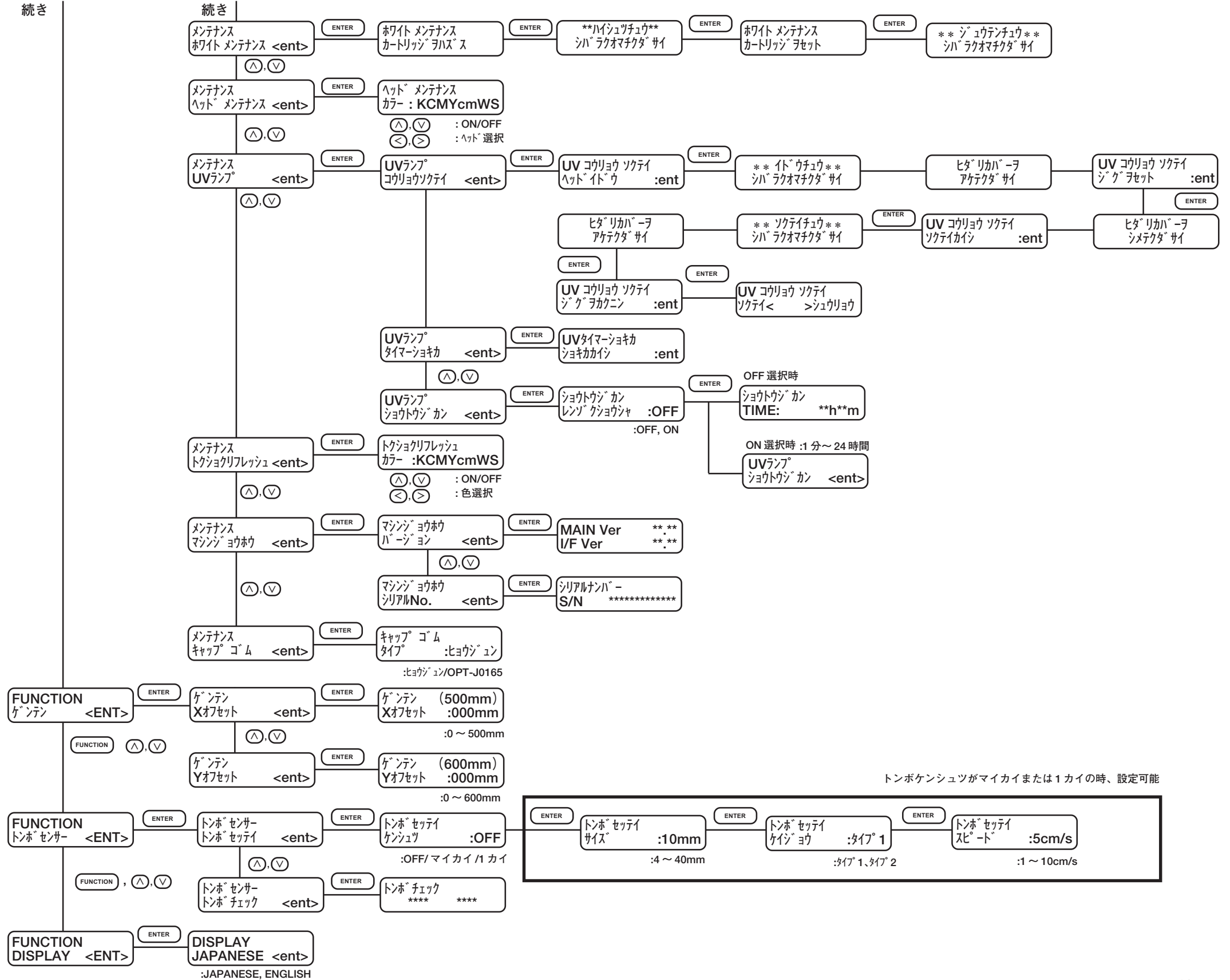
FUNCTION



続く



続き



トンボケンシュツがマイカイまたは1カイの時、設定可能

索引

C	
CLEANING キー	1-6
COPY キー	1-6
D	
DATA CLEAR キー	1-7
DISPLAY	4-15
E	
END キー	1-6
ENTER キー	1-6
ERROR35 トンボケンシュツ	2-22
F	
FUNCTION キー	1-6
I	
IEEE1284	1-10
IEEE1394	1-5, 1-10
P	
POWER ランプ	1-6
R	
REMOTE キー	1-7, 1-6
T	
TEST キー	1-6
U	
UV 硬化が弱い	5-20, 5-21
UV 光量	5-21
UV コウリョウ	4-6
UV ジュンビチュウ	6-3
UV 照射器具	1-12, 1-13
-を消灯する	4-14
UV 照度	5-23, 5-25, 5-27
UV ショウトウ	4-14
UV 装置	1-4, 1-12, 1-13
UV ランプ5-14, 5-15, 5-16, 5-17, 5-19	
-を交換する	5-17
Y	
Y キョリホセイ	4-5
ア	
安全にお使いいただくために	
-絶対にしないでください	x
イ	
異常なパターン	2-20
インク	1-16, 2-6, 3-8
-交換	2-27, 5-14, 5-15
-の初期充填	2-6
インク滴	3-16, 3-17, 3-19, 6-4
-が落ちる	6-4
-のポタ落ちを防ぐ 3-16, 3-17, 3-19	
インクジュウテン	5-7
インク仕様	付録-3
インクセット	5-9
-を変更する	5-9
インサツカイスウ	5-8
インターフェイスケーブル	1-10
-IEEE1284	1-10
-IEEE1394	1-10
エ	
エラーメッセージ	6-7
オ	
お手入れ	
-上のご注意	3-2
お問い合わせシート	付録-6
オンスイジュンビチュウ	6-3
温水装置	1-4

-の水を交換する 3-9, 3-11, 3-13
温水タンク 3-8

カ

カートリッジ異常が発生したら 2-28
各部の名称 1-4
カサネヌリ 4-6
画質不良が解消されない 3-3
カスレが発生する 6-4
紙タオル 3-5
カラーパターン 4-7

キ

基本仕様 付録-2
キャッピングステーション 1-8, 1-9
キャップゴム 5-30
キャリッジ 1-8
- 下面のクリーニング 3-16, 3-18
キャリッジアウト 5-6
吸引ノズル 1-8

ク

クリーニング 2-20
フラッシングトレイの 3-5

ケ

ケーブルを接続する 1-10
- インターフェイスケーブル 1-10
- 電源ケーブル 1-11
警告ラベル 付録-4, 付録-5
ゲンテン 2-17

コ

ゴースト 3-3, 3-5
コウカチェック 5-18, 5-20
故障?と思う前に 6-2
コピー 2-23
コマンド 2-4

サ

作図
- できない 6-2
- を開始する 2-21
- を中止する 2-24
作図原点 2-15
作図原点の設定
- FUNCTIONメニューから 2-17
- ジョグキーによる 2-16
作図条件
- の設定の前に 4-2
- の登録 4-4
サクズヒンシツ 4-5
作図方式
- をプロクタ側で設定する 4-5
サブパネル 1-4, 1-7

シ

受信障害について i
使用可能メディアサイズ 1-17
照射時間 5-17
- をリセットする 5-18
- を確認する 2-4, 5-17
消灯時間
- を設定する 5-19
ショウトウジカン 5-18, 5-19, 5-20, 5-21
情報を表示する 2-4, 5-29
正面カバー 1-4
シリアル番号 5-29
白インク 3-14
- の定期メンテナンス 3-14, 3-15

ス

ステーション内部 3-3
- の洗浄 3-3
- の汚れがひどい 3-3

セ

正常なパターン 2-19

清掃棒 3-3
 接地工事 xi
 C種の- x
 特別第3種- x
 設定機能
 トンボセッテイ 4-8
 セッテイリセット 4-7

ソ

操作パネル 1-4, 1-6

タ

第2種電気工事士 xi
 タイプの選択 4-4

チ

長期間使用しない場合 3-2

テ

テーブル 1-4
 -、外装のお手入れ 3-2
 テイキ ワイピング 5-8
 ディスプレイ 1-6
 -の表示言語を変更する 4-15
 手袋 3-3, 3-5
 電気工事 xi
 電源
 -が入らない 6-2
 -のオフ 2-29

ト

トクショクリフレッシュ 5-28
 ドットイチホセイ 5-4
 トラブル 6-5, 6-7
 取扱説明書
 -操作キー xvi
 -ディスプレイとキーの表記 xvi
 本書の構成 xvii
 -マーク表示について viii

トンボ
 -検出 2-21, 2-22, 2-23
 -検出の設定値 4-10
 -検出の動作を設定する 4-8
 -マークの条件 4-8
 トンボセッテイ 4-8
 トンボセンサー 1-8, 4-8
 -の反応を確認 4-12
 トンボチェック 4-12

ニ

日常のお手入れ 3-2

ノ

ノズル詰まり 2-19
 -が復旧しない 5-7
 ノズル面のクリーニング 3-18

ハ

バージョン 2-4, 5-29
 廃インク 3-7
 廃インクタンク 1-4
 パラレルコネクタ 1-5

フ

ファームウェア
 -のバージョン 2-3
 ファンクションモード 1-18
 フィルタ 3-20
 -のお手入れ 3-20
 複数版コピー 2-24
 不凍液 3-8
 フラッシングトレイ 3-5
 プリントヘッド 1-8
 ブロウユニット 1-4

ヘ

ヘッドガードプレートのクリーニング 3-16, 3-16

ヘッドギャップ調整 2-9, 2-10
ヘッドとテーブルの高さを調整する 2-13

ホ

本装置の移動
- レベルフットを上げる 1-3

マ

マーク表示について viii
マシンジョウホウ 2-4, 5-29

ミ

ミズブソク 3-8
ミリ/インチ 4-7

メ

メッセージを表示するトラブル 6-5, 6-7
メディア 2-7
- について 1-17
- をセットする 2-7
- の厚みが変わったら 5-4
- の伸縮 1-17
- の反り 1-17
メニューモード
- を確認する 4-2
メンテナンス
- 機能の導入について 5-2
メンテナンス用洗浄液 3-3, 3-5

ユ

ユウセンジュンイ 4-6

ラ

ライトポインタ 1-8

リ

リスト 5-3
リフレッシュ 4-6

レ

レベルフット
- を上げる 1-3
連続照射 OFF 5-19
連続照射 ON 5-19

ワ

ワーニングエラー 6-5

UJF-605C 取扱説明書

2012年7月

発 行 者 株式会社ミマキエンジニアリング
発 行 所 株式会社ミマキエンジニアリング
長野県東御市滋野乙 2182-3
〒 389-0512

Mimaki[®]

Printed in Japan

© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. 2012

IT

FW: 3.2